インフロニア・ホールディングス
27年3月期　第2四半期　決算説明資料

November 11, 2026

INFRONEER Holdings Inc.

27年3月期 第2四半期 決算説明資料 INDEX

1. 公募増資の概要
2. 決算サマリー
3. 事業利益の成長について
4. 金融収益の考え方について
5. 還元について
6. インフラ運営事業における
EPC利益の帰属先変更について
7. FY26 2Q進捗＜各セグメント＞
8. 株価推移・FY26におけるIRへの取組み

【参考】財務指標（公募増資及び社債型種類株式
の影響を含む）

【参考】ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債
の転換について

注釈が無い限りホールディングス連結数値としています
※セグメント別ハイライト及び各事業会社の実績・通期計画は、
各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は
考慮していません

＝ 補足資料 ＝

ホールディングス連結

1. 資本戦略・還元方針／FY26 2Q時点の実績と通期見通し
2. インフロニア・ホールディングスの業績数値
3. セグメント別 業績数値
4. 連結貸借対照表の主な増減の要因
5. 経営環境認識

セグメント別 ハイライト※

1. 建築セグメント
2. 土木セグメント
3. インフラ運営セグメント
4. 舗装セグメント
5. 機械セグメント

FY26 2Q実績とFY26通期計画※

1. 前田建設工業
2. 前田道路
3. 前田製作所
4. 日本風力開発
5. アルソシア建設
6. 水ing
7. 主なグループ会社

参考資料

1. 公募増資の概要

概要	
形態	グローバル公募（Reg.S +144A） / 5,500万株（OA※717万株含む）
内外比率	国内：海外＝35%：65%
公募増資総額	1,149億円（OA717万株を全て発行した場合）
希薄化率	17.9%
資金使途	アルソシア建設・水ing買収にかかる短期借入金の返済

公募増資によって財務基盤の強化と成長投資余力を確保

指標	中期経営計画 目標値	実施前	実施後
自己資本比率	30%以上	30.9%	**34.2%**
D/Eレシオ	1.0倍以下	0.91倍	**0.69倍**
ROE	12.0%以上	15.6%	**13.7%**

※ OA（オーバーアロットメント）は、需要状況等に応じて実施される追加的な株式販売であり、717万株はその上限です。

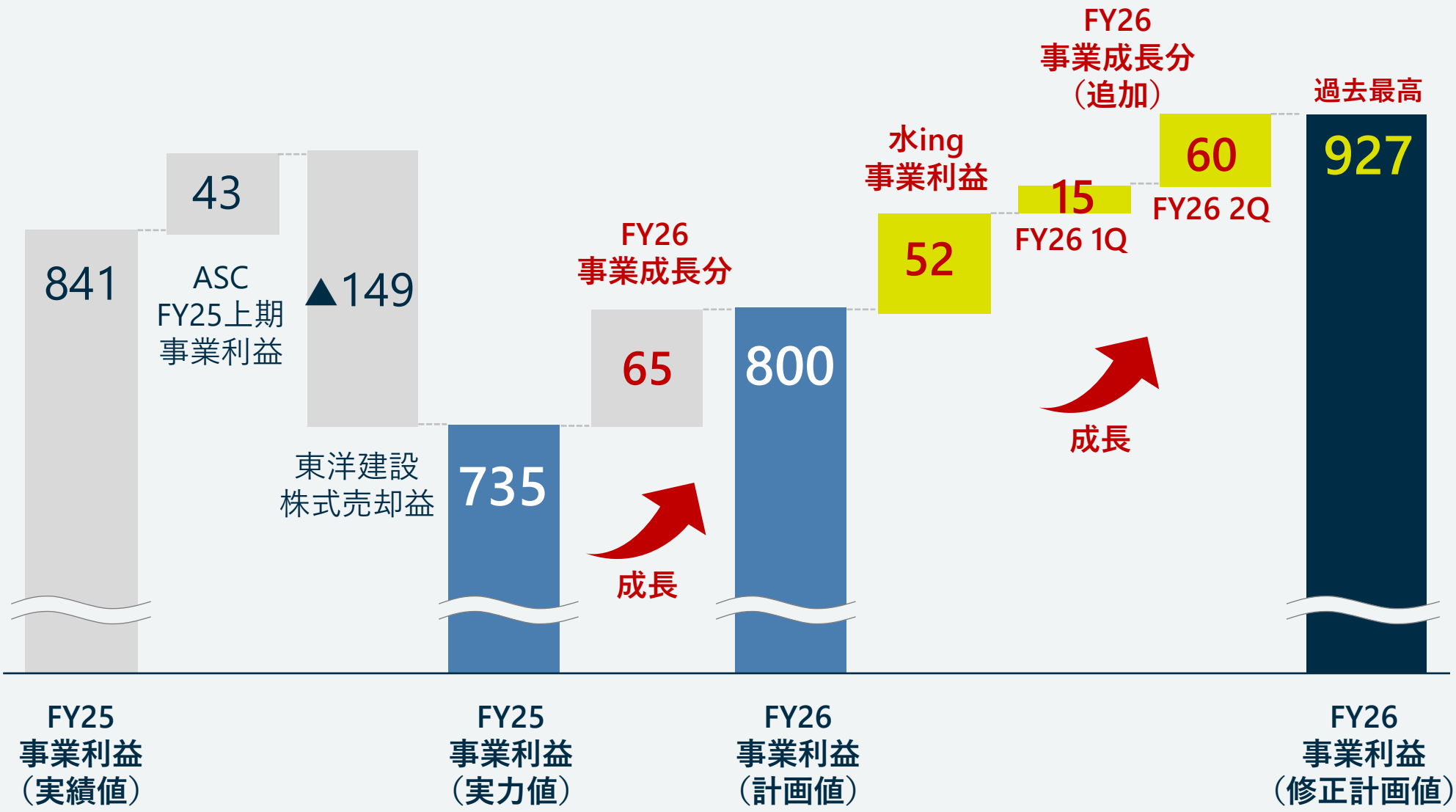
2. 決算サマリー

- **FY26 2Qは、売上高6,608億円、事業利益399億円、EBITDA660億円、当期利益659億円となった。**売上高、事業利益、EBITDA,においてHD設立後**過去最高を達成**
- **FY26通期計画は、売上高1兆4,220億円、事業利益927億円、EBITDA1,439億円に上方修正**
  売上高、事業利益、EBITDA、当期利益において**過去最高**となる見込み
  （前期比　売上高+2,971億円　事業利益+86億円　EBITDA+152億円　当期利益+56億円）
- FY26配当については、1Q時点で公表の**132円（中間65円 期末67円）を据え置き**

	FY25　2Q実績	FY26　2Q実績	FY26 通期計画(修正)
売上高	4,245億円	過去最高 6,608億円	過去最高 1兆4,220億円
事業利益	244億円	過去最高 399億円	過去最高 927億円
EBITDA	433億円	過去最高 660億円	過去最高 1,439億円
当期利益	246億円	過去最高 659億円	過去最高 822億円
配当額	–	–	132円 (中間65円・期末67円)

3. 事業利益の成長について

- FY26事業利益期首計画値800億円に、**水ingの業績分として52億円**、事業成長分として**75億円**（1Q：15億円、2Q：60億円）を加え、**事業利益は過去最高の927億円を見込む**



4. 金融収益の考え方について

- 2023年に**東芝の非公開化及び企業価値向上**を目的として組成された**「TB投資事業有限責任組合」に200億円の出資**を実行
- 各決算期において**公正価値評価**を実施しており、**FY26 2Qは617億円の評価益**を計上（9/30のキオクシア株価終値（18,095円）で評価）
- 今期末計画は、11/10のキオクシア株価終値（9,068円）で評価し、**349億円の評価益**を見込む

公正価値評価の考え方

公正価値＝❶＋❷

❶東芝の事業計画に基づくDCF評価
❷東芝の**事業外資産**の評価

キオクシア株式などが含まれる

キオクシアHD株価の変動によって、事業外資産の価値が影響を受ける

前期末からの増減額を当期の金融収益・金融費用に計上

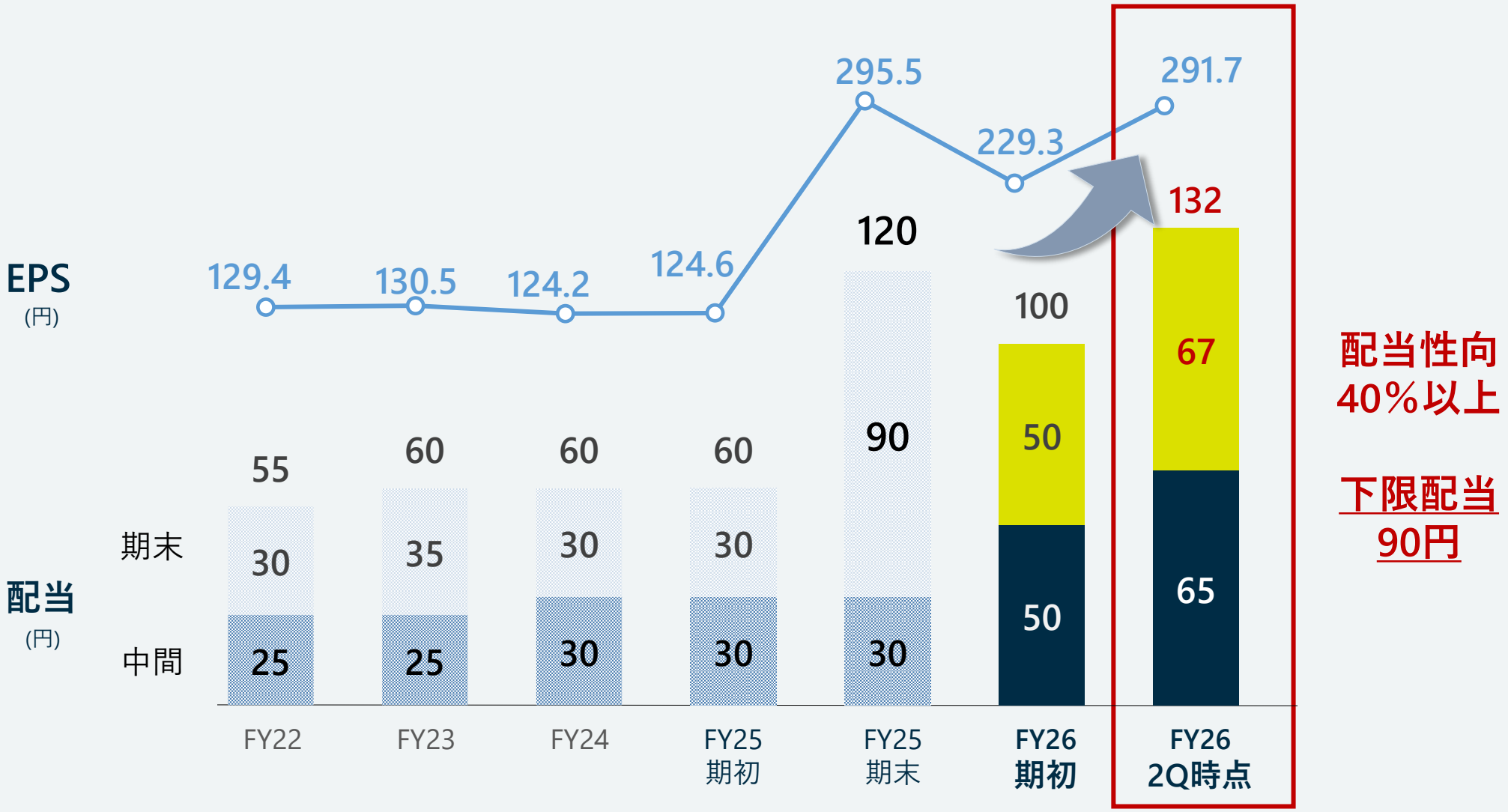
FY26 2Q評価益と期末見込み



※東芝の事業計画及び実績が現在の前提通りに進捗した場合の見込
※2026年11月4日時点で東芝によるキオクシア株の保有比率は10.46％（変更報告書による） であり、保有比率が減少すると、公正価値評価の感応度は低下する
※キオクシアHDは2026年10月1日付で１ ： ３の株式分割を実施しているため、記載の株価は全て株式分割後ベースで記載

5. 還元について

- 通期配当予想**132円（中間65円、期末67円）を据え置き**
- EPSは291.7円となり、**FY26期首時点の予想EPSより約3割増加**



配当性向
40%以上

下限配当
90円

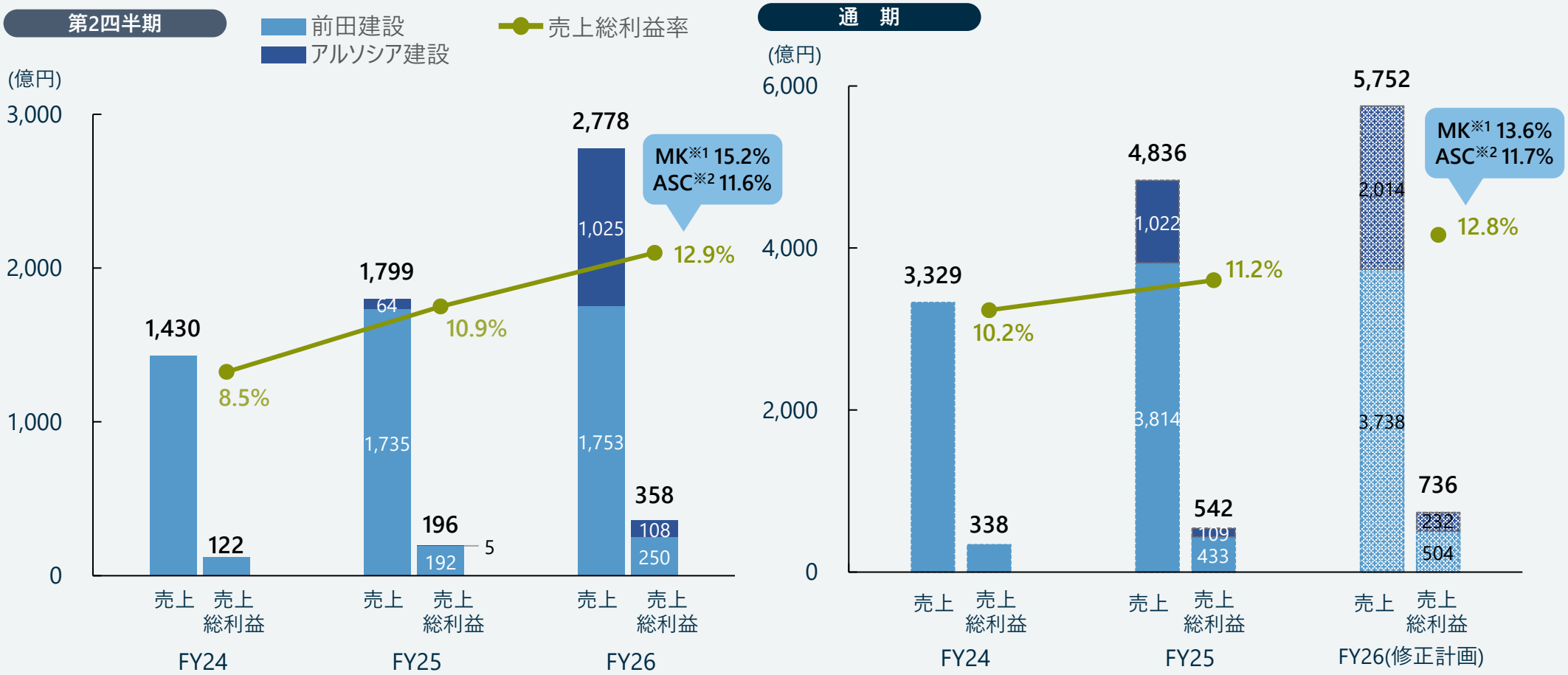
6.インフラ運営事業におけるEPC利益の帰属先変更について

- 海外の機関投資家・アナリストとの対話を踏まえ、**インフラ運営事業の収益構造を明確化**し、**事業価値をより適切に示すため、セグメント利益の開示方法を見直し**
- インフラ運営事業が関連するEPC利益を、**今回からインフラ運営セグメントに帰属**させる



7. FY26 2Q実績とFY26通期計画（建築）

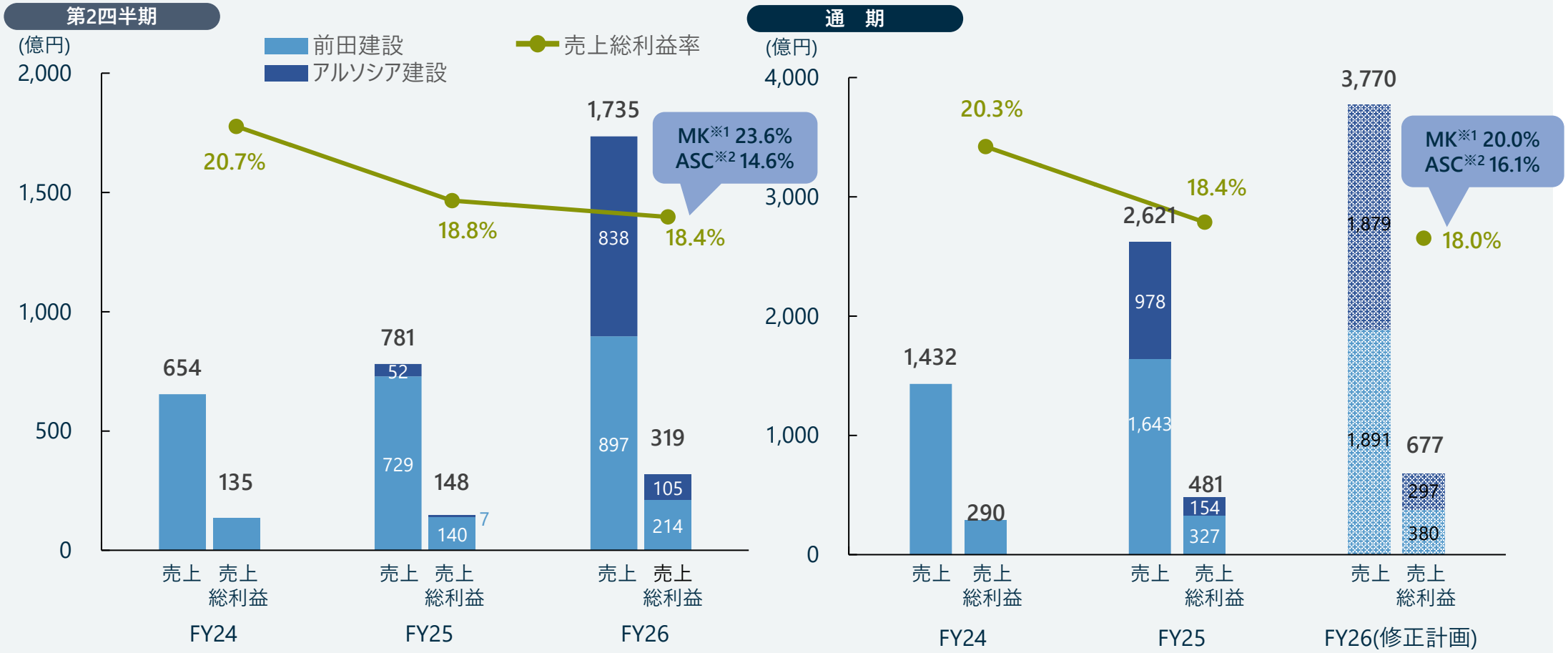
セグメント	決算サマリー
建築	• セグメント全体では、アルソシア建設の統合と両社の事業成長により前年同期比で**増収増益** **通期計画達成**を見込む。受注に関しても順調に積み上げている — 前田建設は、採算性の高い工事が複数完成したことにより、前年同期比**増収増益** 通期では手持工事の順調な進捗により、利益額の**通期計画を上方修正**。**計画達成**を見込む — アルソシア建設は、売上高は前年度比減収。海外建築工事が順調に推移しており**増益**、利益率も 改善。通期では国内・海外ともに手持工事が順調に進捗しており、**通期計画達成**を見込む



※1 MK＝前田建設単体における日本基準の売上総利益率　※2 ASC＝アルソシア建設単体＋海外現法における日本基準の売上総利益率

7. FY26 2Q実績とFY26通期計画（土木）

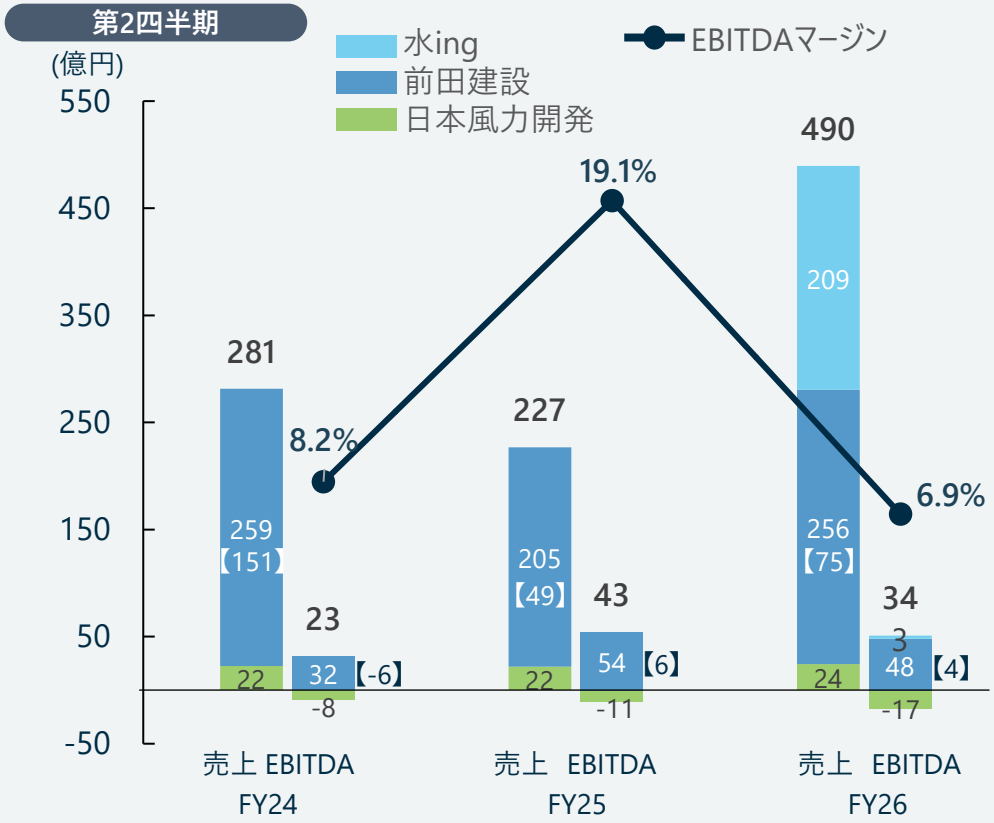
セグメント	決算サマリー
土木	・セグメント全体では、アルソシア建設の統合と両社の事業成長により前年同期比で**増収増益** **通期計画達成**を見込む。受注に関しても順調に積み上げている ― 前田建設は、期首手持工事・今期受注工事の順調な進捗と今期完成案件に伴う利益増加のため、前年同期比**増収増益**。**通期計画達成**を見込む ― アルソシア建設は、国内一部工事の採算悪化により前年度比減益も、海外大型工事の順調な進捗と国内工事の設計変更獲得額の向上により、**通期計画達成**を見込む

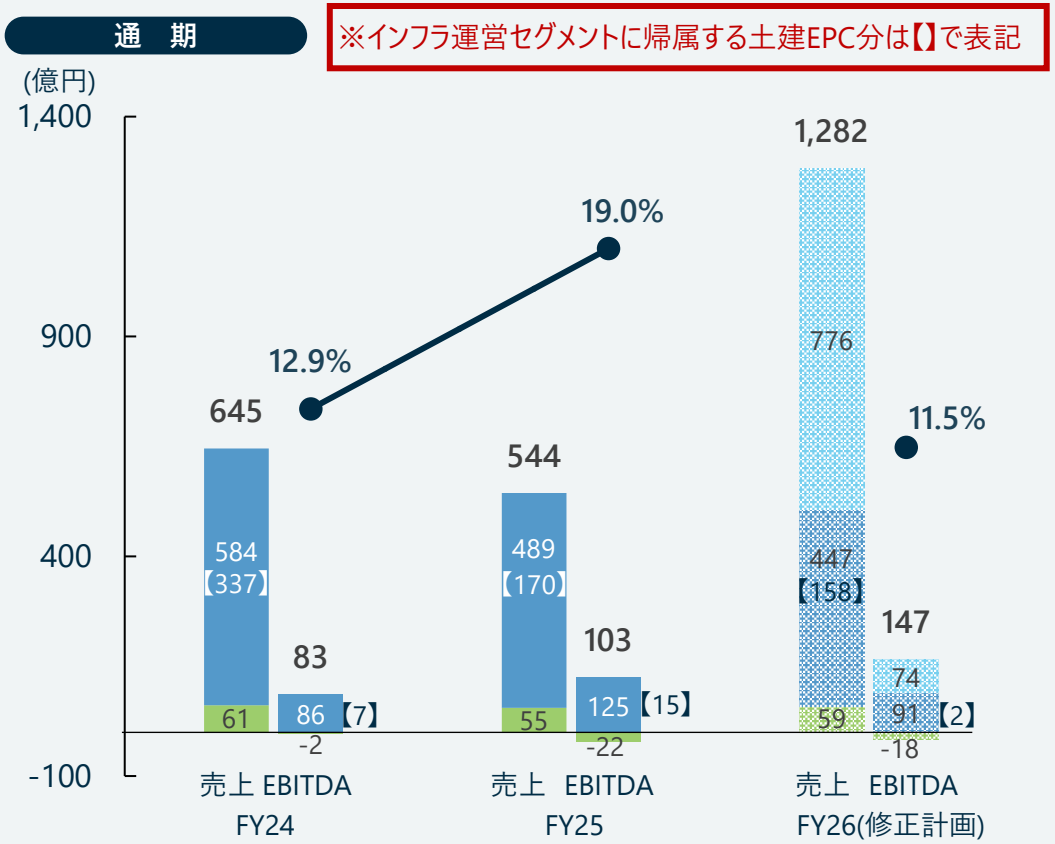


※1 MK＝前田建設単体における日本基準の売上総利益率　※2 ASC＝アルソシア建設単体＋海外現法における日本基準の売上総利益率

7. FY26 2Q実績とFY26通期計画（インフラ運営）

セグメント	決算サマリー
インフラ運営	• セグメント全体では、前年同期比増収減益。通期は水ingの合流により**増収増益を見込む** — 前田建設グループは、愛知道路をはじめとした運営中SPCの利益は**通期計画に対し堅調に推移**。コンセッション事業の安定的な推進及び蓄電池事業の案件化により、**通期計画達成を見込む** — 日本風力開発は、発電所修繕の増加等による原価増のため減益。通期計画を修正し、卒FIT案件の自社電源化や新規案件の運転開始（3Qに３案件予定）により、修正計画達成を見込む — 水ingは、EPC・メンテナンス、オペレーション・薬品の各事業の売上高が順調に推移。既受注の大型EPC案件の進捗とオペレーション案件の拡大により、**通期計画達成を見込む**

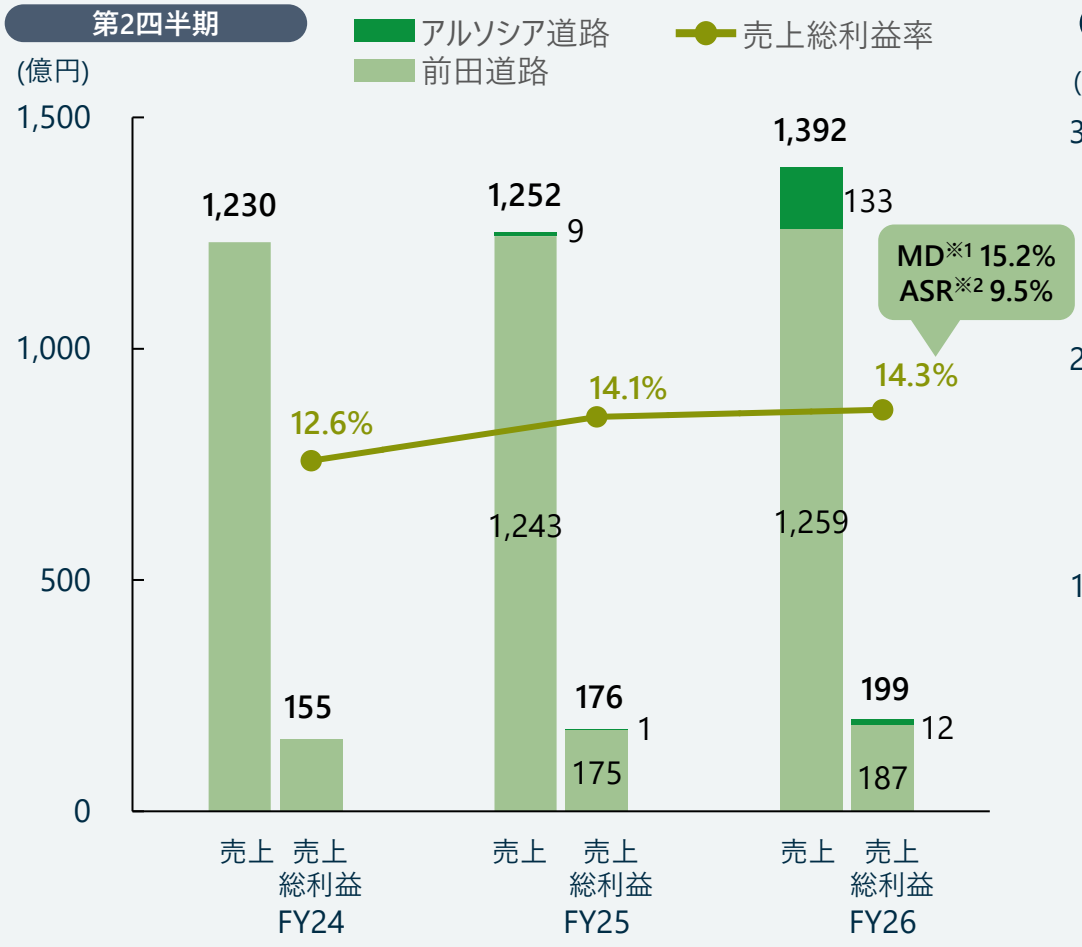


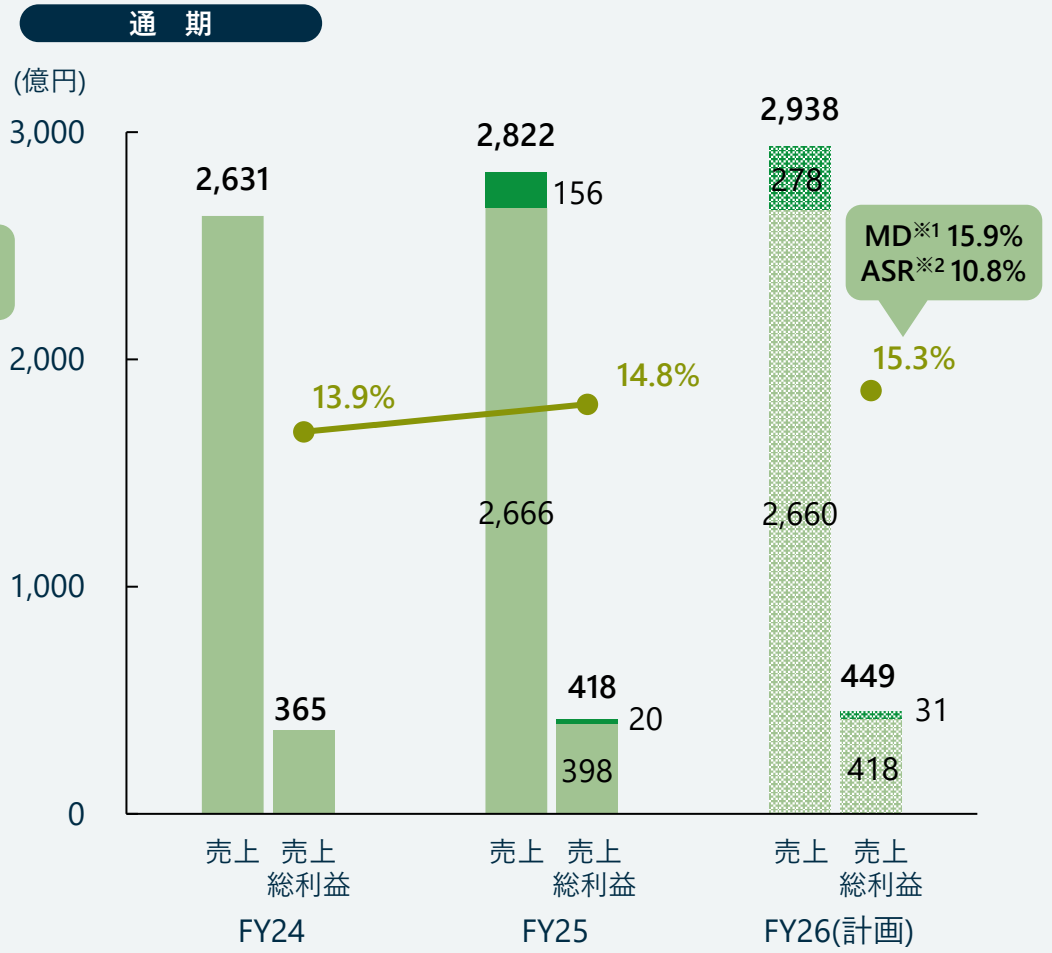


※EPCのEBITDAは事業利益を記載

7. FY26 2Q実績とFY26通期計画（舗装）

セグメント	決算サマリー
舗装	•天候不順の影響を受けたものの、建設事業の受注時利益率の向上と製造販売事業の価格転嫁により、全体では前年同期比**増収増益** •豊富な繰越工事の着実な消化と受注時利益率の確保、原材料価格の変動に応じたタイムリーな価格転嫁を実施することで、**通期計画の達成を見込む**

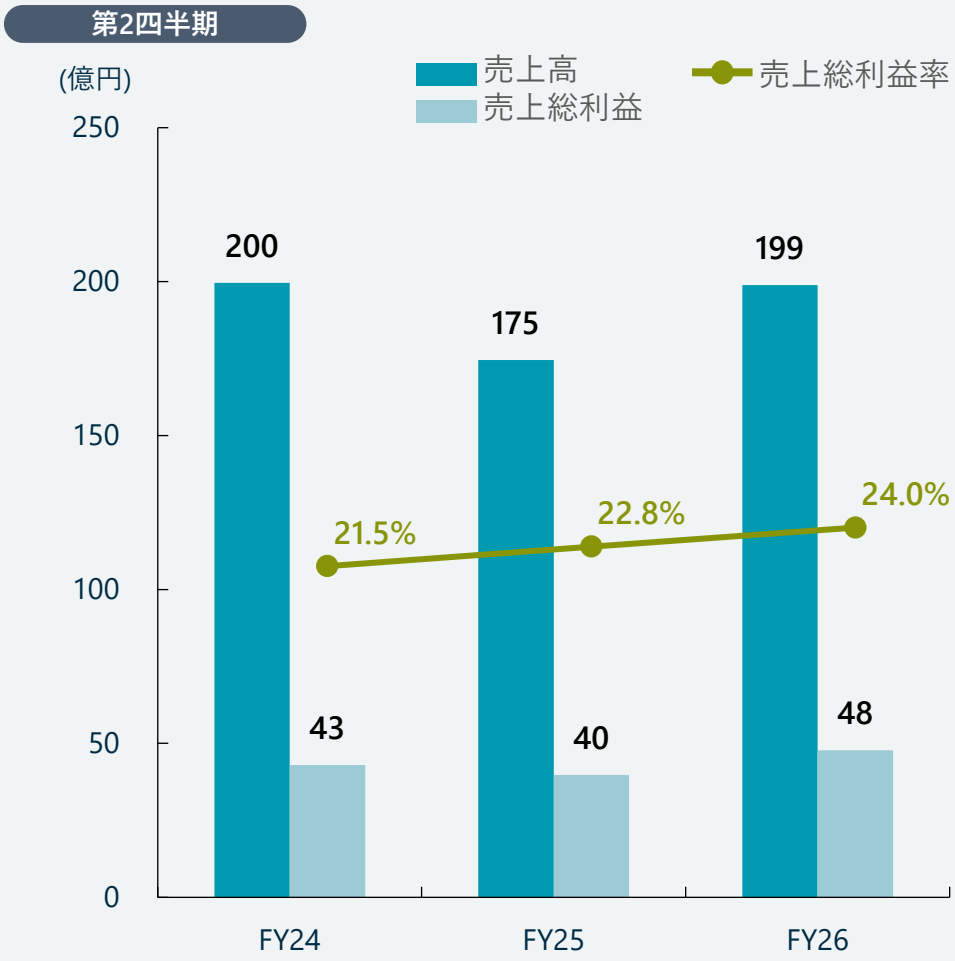


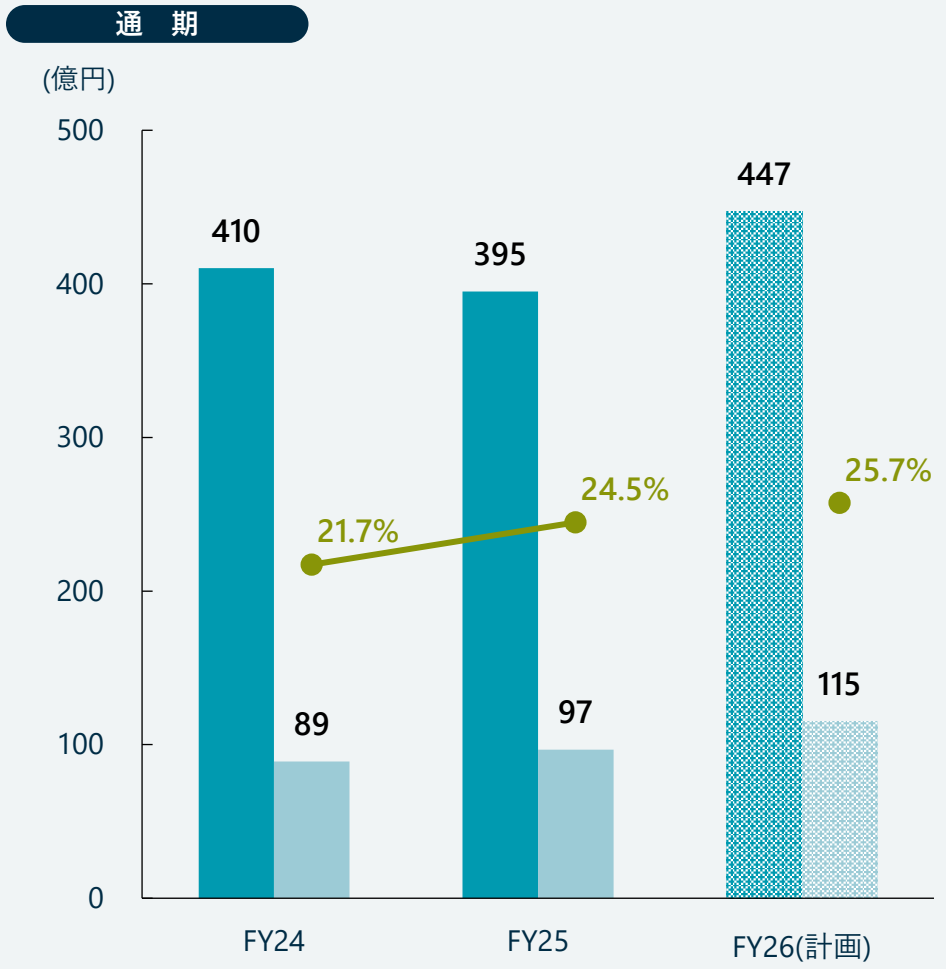


※1 MD＝前田道路連結における日本基準の売上総利益率　※2 ASR＝アルソシア道路単体における日本基準の売上総利益率

7. FY26 2Q実績とFY26通期計画（機械）

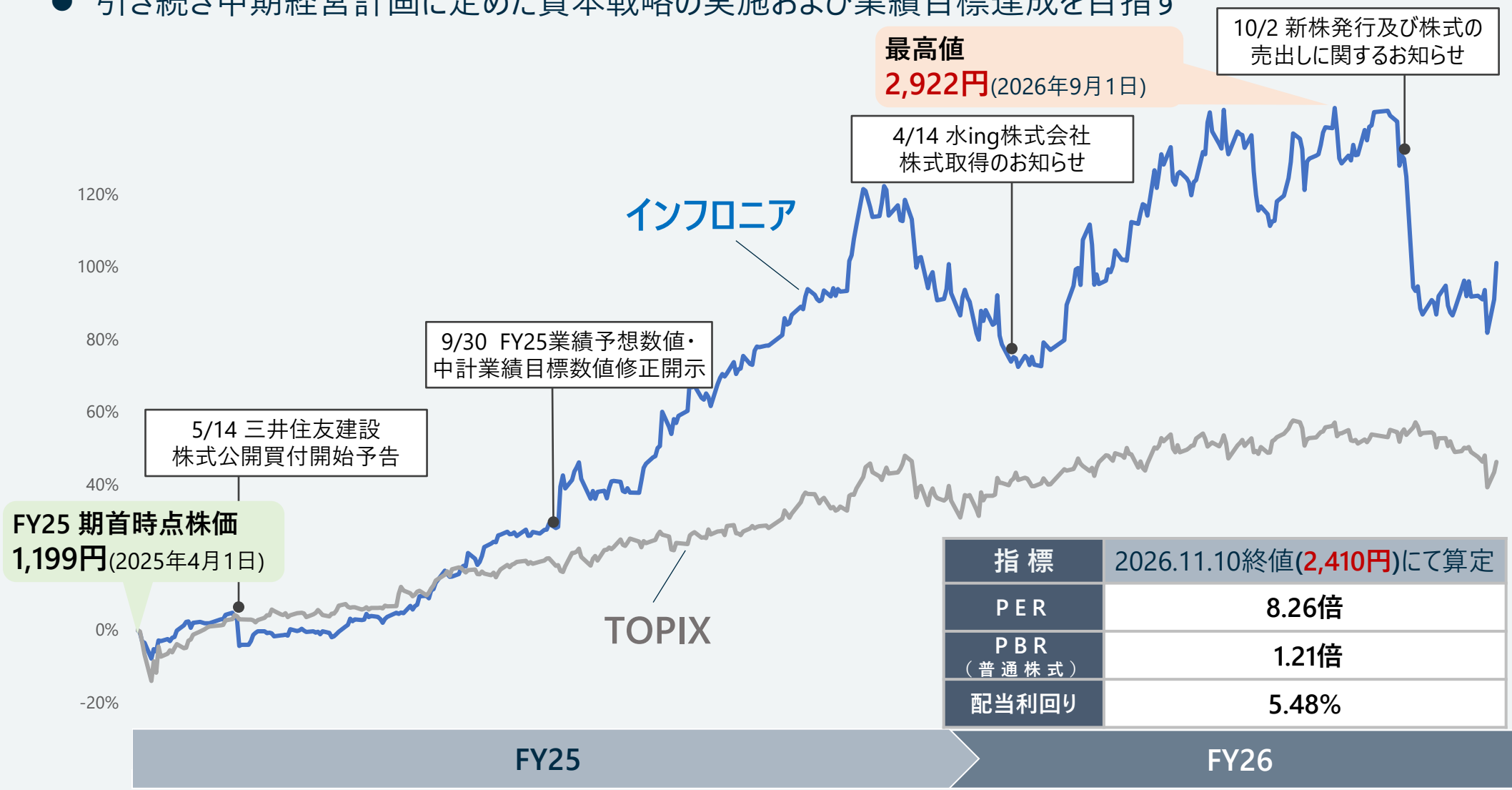
セグメント	決算サマリー
機械	• 三重地区の事業承継効果や建設機械事業の売上増加により、堅調に推移 • 上期は国内広域レンタル会社の設備投資抑制等の影響を受けたものの、下期は冬期整備・レンタル需要や自社製品・個別受注製品の受注を見込み、**通期計画達成**を見込む





8.株価推移・FY26におけるIRへの取組み

- **2026年9月1日にHD設立以来の株価最高値を更新**
- 6月にアジア、7月に欧州・北米IRを実施し、海外投資家と積極的なコミュニケーションを行った
- 10月の公募増資に伴い、多くの投資家に当社の成長戦略をご説明
- 引き続き中期経営計画に定めた資本戦略の実施および業績目標達成を目指す



指 標	2026.11.10終値(2,410円)にて算定
PER	8.26倍
PBR（普通株式）	1.21倍
配当利回り	5.48%

※ 株価は2026.11.10終値にて算定（2,410円）、自己株式を含む（OA717万株含む）

【参考】財務指標（公募増資及び社債型種類株式の影響を含む）

- ROE・EPSは、優先配当分が差し引かれる為、普通株主に帰属する当期純利益は減少
- 社債型種類株式は普通株式とは区別され、PBR算定時の純資産からは除く

（単位のないものは億円）

財務指標	算定式	FY26通期見込
ROE（普通株式）	当期利益 − 優先配当 ／ 自己資本 − 社債型種類株式に係る純資産 − 優先配当 − 新株予約権（CB）　（二期平均）	822− 26※1 ／ ((6,106-1,020) ＋ (7,574-1,020))/2 = 13.7%
EPS（普通株式）	当期利益 − 優先配当 ／ 発行済株式数（普通株式）	822 − 26※1 ／ 27,292万株 = 291.7円
PBR（普通株式）	時価総額（普通株式） ／ 自己資本 − 社債型種類株式に係る純資産 − 優先配当 −新株予約権（CB）※4	2,410.0円※2 × 32,984万※3 ／ 7,574−968-26※1-26※4 = 1.21倍
D/Eレシオ	有利子負債 ／ 自己資本（種類株式を含む）	5,250 ／ 7,574 = 0.69倍

※1 社債型種類株式配当金　26億円
※2 株価は2026.11.10終値にて算定（2,410.0円）
※3 自己株式を含む（OA717万株含む）
※4 2024年4月に発行したユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（グリーンCB）に関する新株予約権

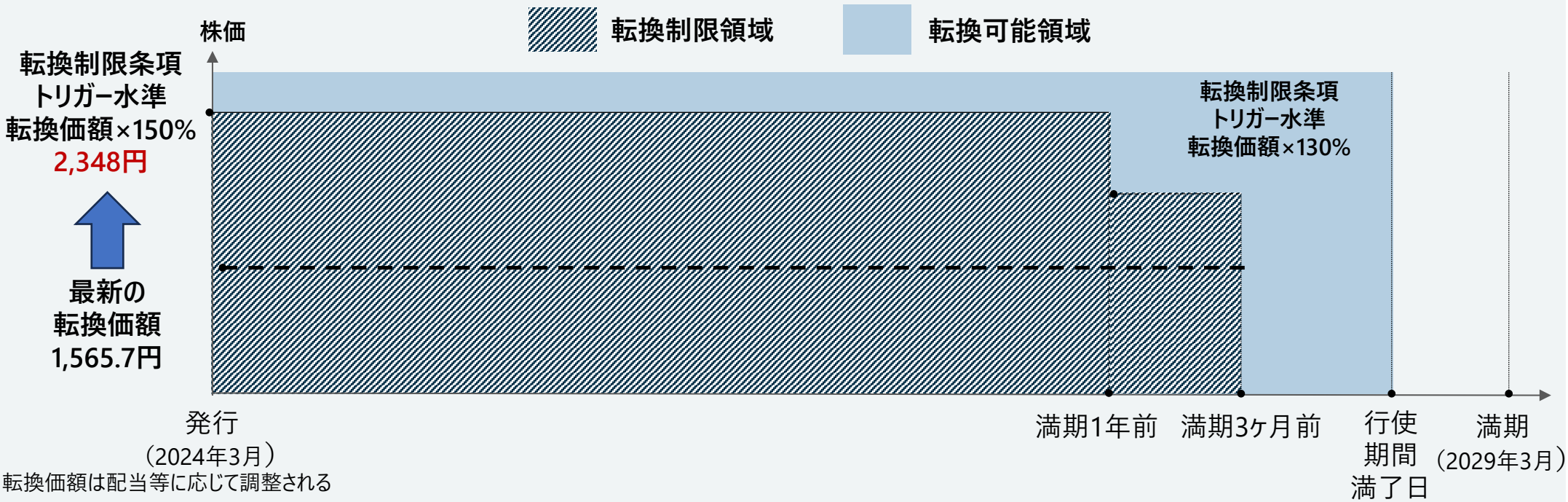
【参考】ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の転換について

● **最新の転換価額の150％超の株価が決算月最終日まで20連続取引日以上続いた場合、翌四半期に転換可能**
（満期1年前から3か月前の期間は転換価額の130％）

● **2026年10月～12月期　転換制限解除　　※11月10日時点で転換請求なし**
転換価額@1,660.4円　→　@1,565.7円（11/11 中間配当決議に伴い調整）
（11/26 第三者割当実施の場合再調整あり）

● 2027年1月～3月期の転換制限解除については、
株価終値が2,348円（1,565.7円×150%）を12/3～12/30の20営業日連続して上回ることが要件

転換制限条項のイメージ



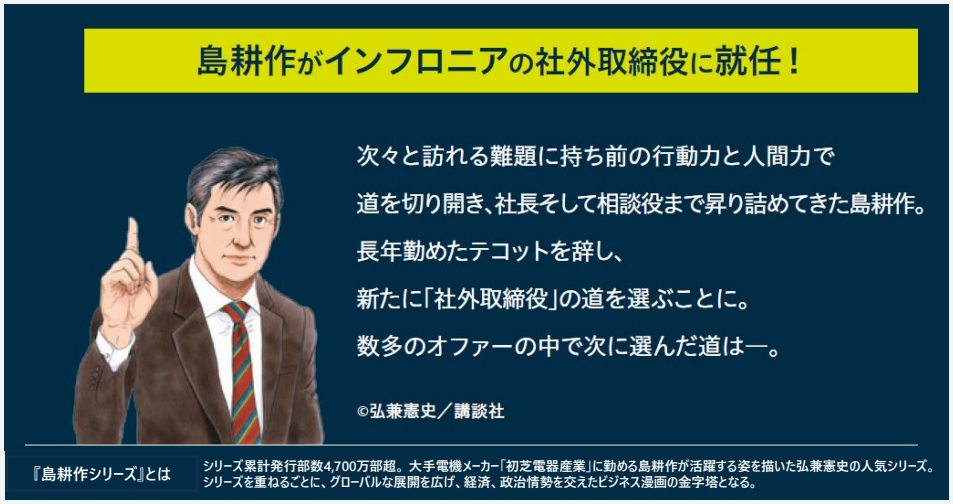
※転換価額は配当等に応じて調整される

統合報告書2026を発行しました

～「島耕作」が社外取締役に就任！総合インフラサービス企業への進化を漫画で紹介～



（発行日　2026年8月31日）



本統合報告書の見どころ

① 特別対談　インフロニア×日立製作所

株式会社日立製作所の東原敏昭会長と当社社長の岐部が、事業変革を推進するリーダーシップと組織運営について対談しました。

② 社外取締役座談会

一橋大学大学院 円谷昭一教授を迎え、各委員会の委員長を務める社外取締役3名が当社の今後の成長と課題について議論しました。

『インフロニア 統合報告書』で検索

統合報告書2026

読者アンケート

いただいたご意見は、今後の報告書制作や当社の取り組み改善に活かしてまいります。

補足資料

ホールディングス連結

前田建設
アルソシア建設

建　築

前田建設
アルソシア建設

土　木

前田建設グループ
日本風力開発
水ing

インフラ運営

前田道路

舗　装

前田製作所

機　械

ホールディングス連結

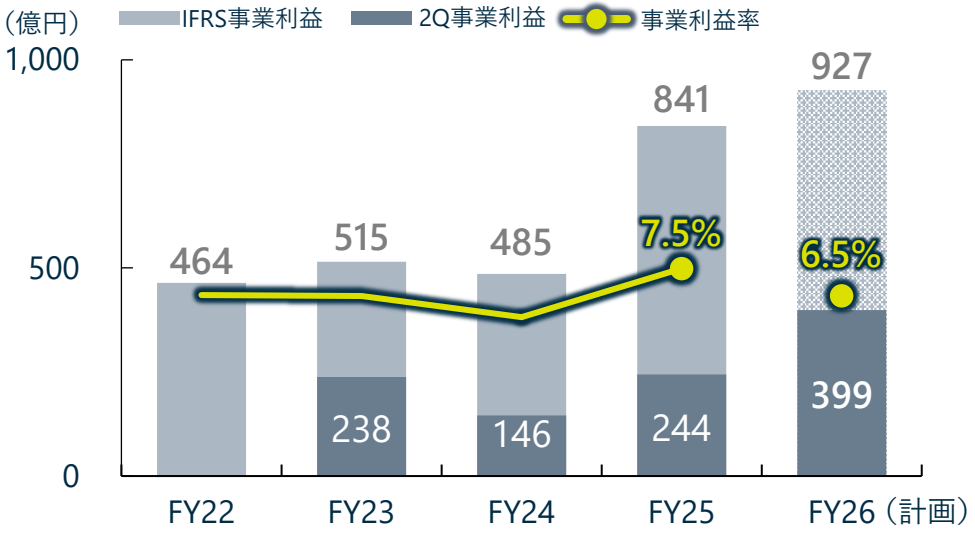
※注釈が無い限りホールディングス連結数値としています

1. 資本戦略・還元方針／FY26 2Q時点の実績と通期見通し

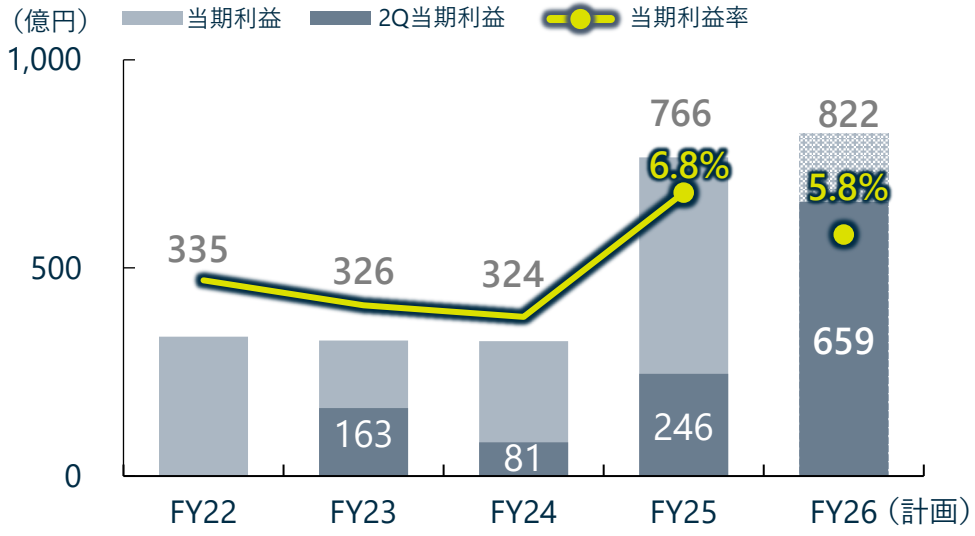
Medium-term Vision　2027			FY25実績	FY26 2Q時点 通期見込み	備　考
資本効率	ROE	**12.0%**	**16.0%**	**13.7%**	引き続き利益率の改善に取り組む
最　適 資本構成	自己資本比率	**30%**以上	**30.2%**	**31.8%（2Q） 34.2%（通期）**	公募増資による 財務余力の拡大
	D/Eレシオ	**1.0倍**以下	**0.9倍**	**0.69倍**	
株主還元	配当性向	FY25~27 **40%**以上	**40.6%**	**45.3%**	
	配当額	**下限配当 90円/株**	**30円（中間） 90円（期末） 120円/株**	**65円（中間） 67円（期末） 132円/株**	**配当予想の据置**
資　産 効率化	政策保有株/ 純資産割合	FY27までに 保有**ゼロ**	**15.2%**	－	FY27のゼロ目標に向けて、順次売却を実施
	保有不動産 の売却	FY27までに **100億**以上	－	－	保有資産の精査、売却候補の選定やスキームの検討実施

2-1. インフロニア・ホールディングスの業績数値の推移

事業利益

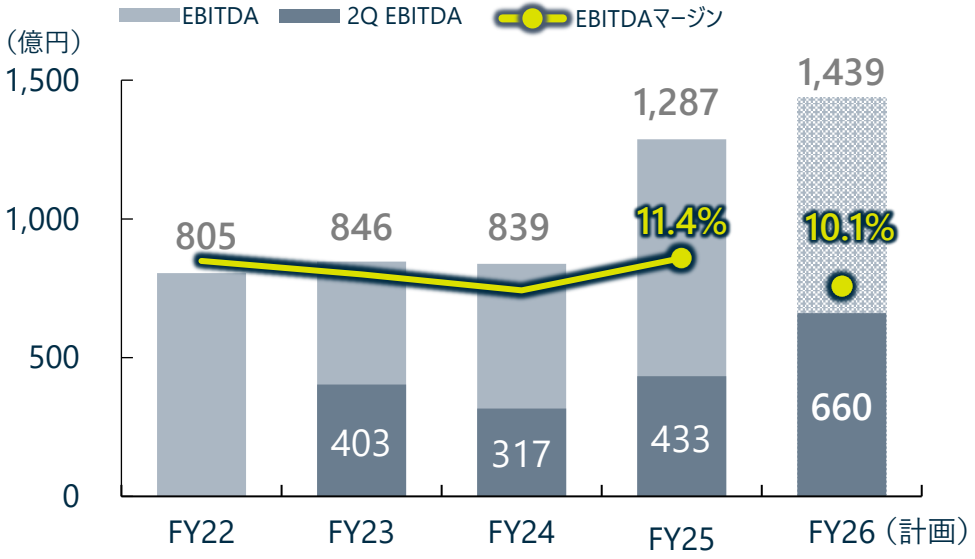


当期利益



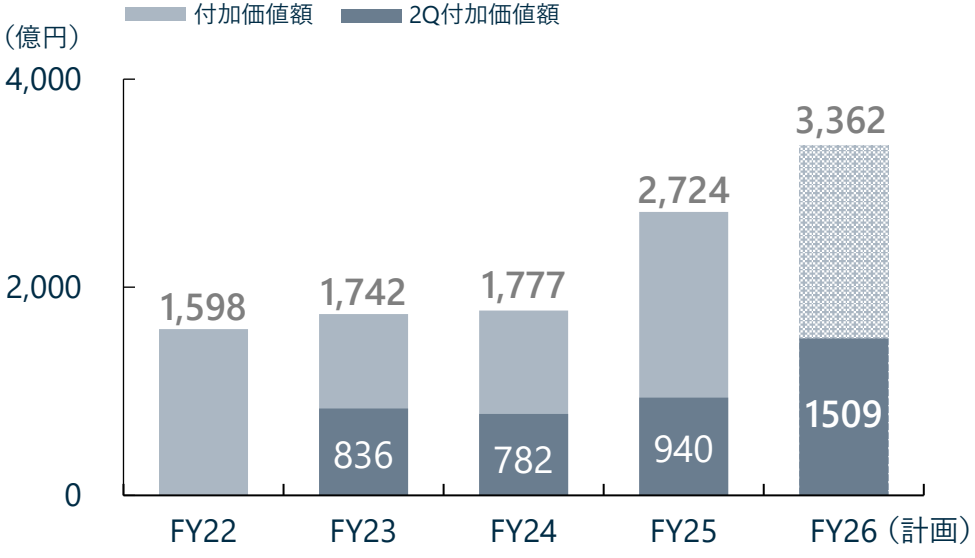
EBITDA

EBITDA＝ 事業利益＋減価償却費（IFRS）



付加価値額

付加価値額＝事業利益＋減価償却費＋総人件費＋研究開発費（IFRS）



2-2. インフロニア・ホールディングスの業績数値

- FY26 2Q実績は、前年同期比で増収増益、売上高・事業利益・EBITDAにおいてHD設立後、過去最高を達成
- FY26通期計画は、売上高・事業利益・EBITDA・当期利益において、過去最高となる見込み

（億円）

	第2四半期				通期		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	前年同期比	進捗率	FY25 通期実績	FY26 修正計画	前期比
売上高	**4,245**	**6,608**	**2,363**	**46.5%**	11,249	**14,220**	**2,971**
売上総利益	597 (14.1%)	981 (14.8%)	384	44.5%	1,640 (14.6%)	2,206 (15.5%)	566
一般管理費	353 (8.3%)	597 (9.0%)	244	46.2%	942 (8.4%)	1,292 (9.1%)	350
持分法による投資利益	0 (0.0%)	15 (0.2%)	15	114.9%	143 (1.3%)	13 (0.1%)	△130
EBITDA	**433 (10.2%)**	**660 (10.0%)**	**227**	**45.9%**	1,287 (11.4%)	**1,439 (10.1%)**	**152**
事業利益	**244 (5.7%)**	**399 (6.0%)**	**155**	**43.0%**	841 (7.5%)	**927 (6.5%)**	**86**
その他の収益	4	11	7	—	22	13	△9
その他の費用	10	15	5	—	106	32	△74
営業利益	**237 (5.6%)**	**395 (6.0%)**	**158**	**43.5%**	758 (6.7%)	**908 (6.4%)**	**150**
金融収益	143	649	506	—	397	398	1
金融費用	30	73	42	—	82	140	58
当期利益 ※1	**246 (5.8%)**	**659 (10.0%)**	**413**	**80.2%**	766 (6.8%)	**822 (5.8%)**	**56**
自己資本	5,472	6,460	—	—	6,106	6,538	—
ROE（普通株式）	—	—	—	—	16.0 %	13.7 %	—
EPS	—	—	—	—	295.5 円	291.7 円	—

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益
※数値は小数点以下を四捨五入しているため、表記数値の合計は一致しない

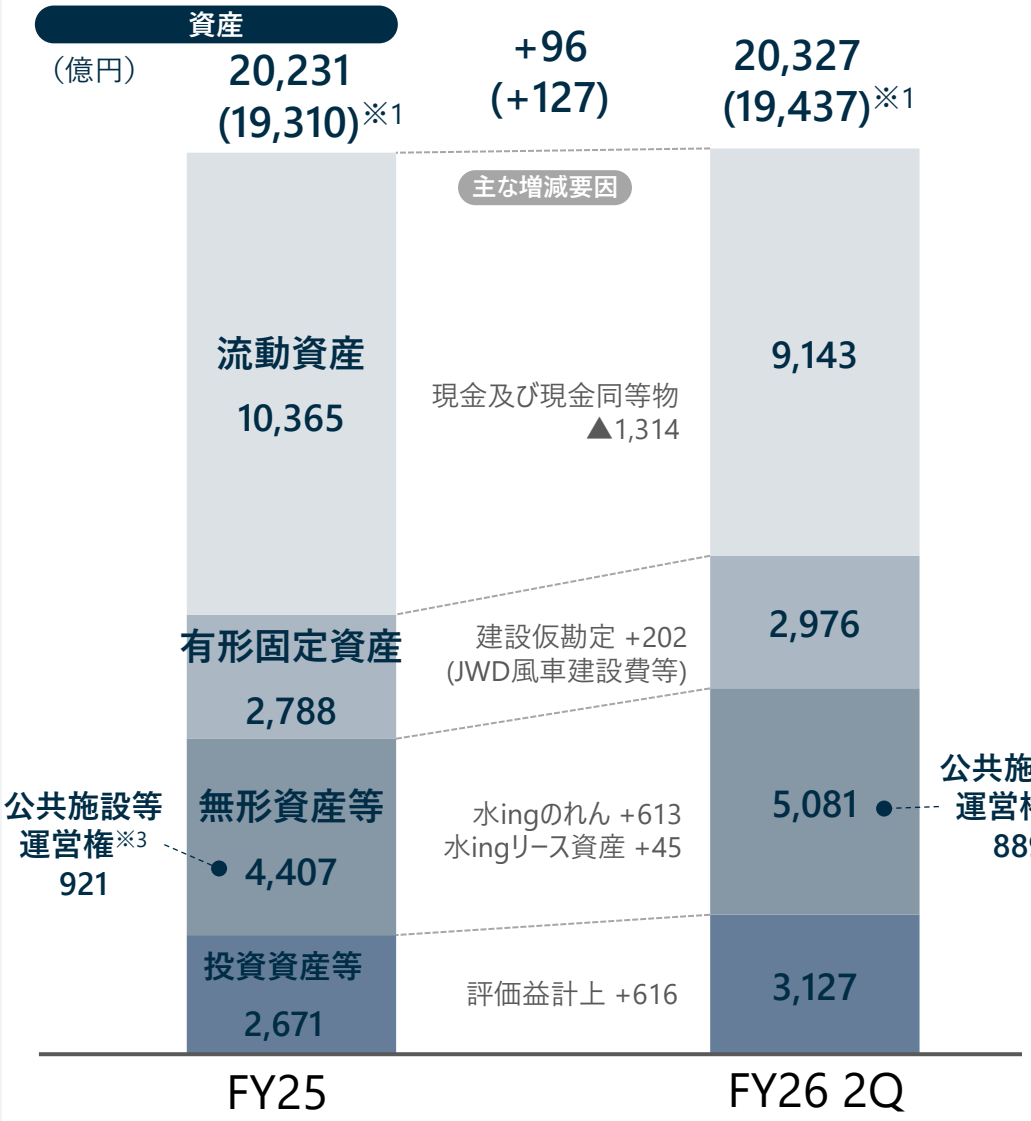
3. セグメント別 業績数値

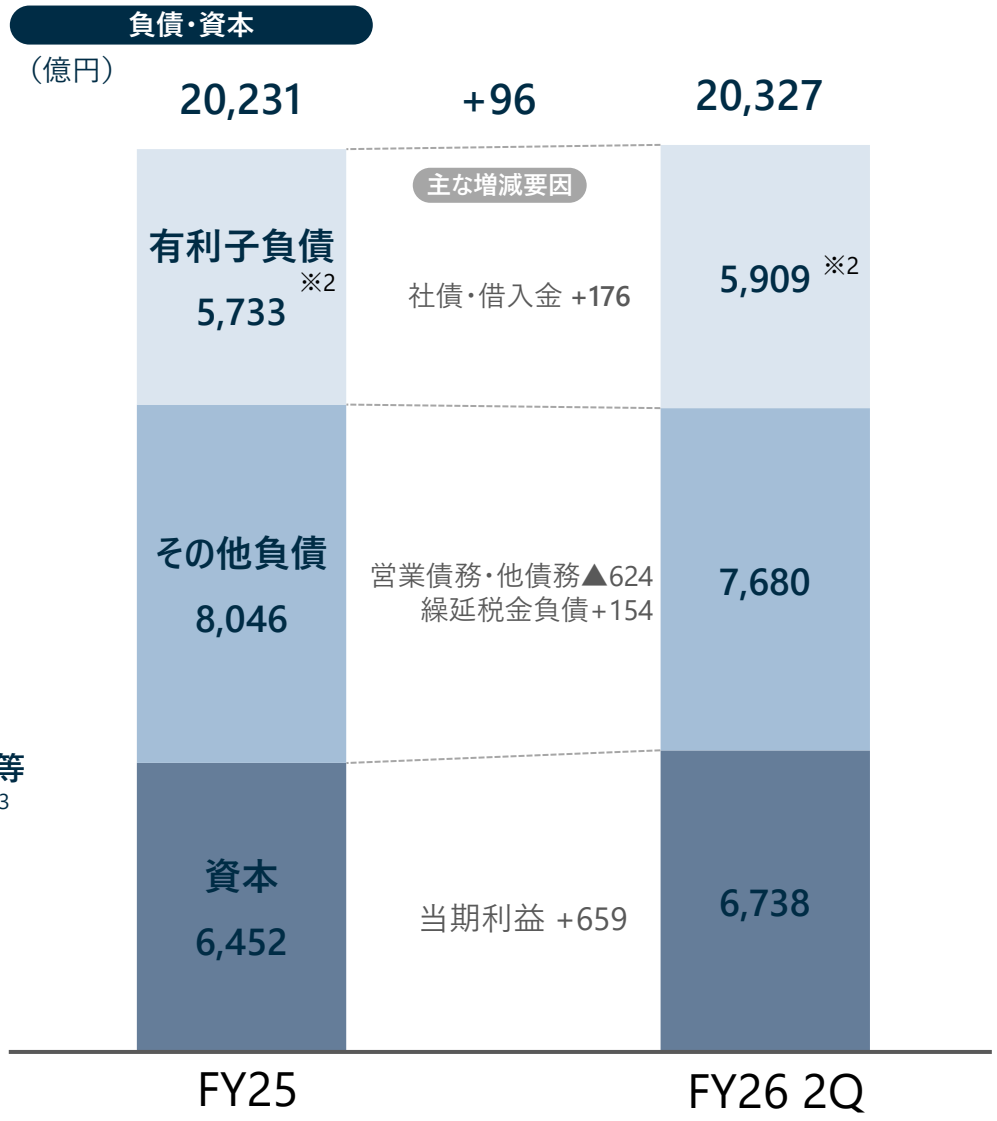
（億円）

	FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	進捗率	FY25 通期実績 ①		FY26 修正計画 ②		前期比 ②−①
売上高	4,245		6,608		2,363	46.5%	**11,249**		**14,220**		**2,971**
建築	1,799		2,778		980	48.3%	4,836		5,752		916
土木	781		1,735		954	46.0%	2,621		3,770		1,149
舗装	1,252		1,392		140	47.4%	2,822		2,938		116
機械	175		199		24	44.5%	395		447		52
インフラ運営	227		490		263	38.2%	544		1,282		738
その他	12		14		2	45.8%	30		31		1
売上総利益	597	(14.1%)	981	(14.8%)	384	44.5%	**1,640**	**(14.6%)**	**2,206**	(15.5%)	**566**
建築	196	(10.9%)	358	(12.9%)	162	48.7%	542	(11.2%)	736	(12.8%)	194
土木	148	(18.9%)	319	(18.4%)	171	47.1%	481	(18.4%)	677	(18.0%)	196
舗装	176	(14.1%)	199	(14.3%)	23	44.4%	418	(14.8%)	449	(15.3%)	31
機械	40	(22.8%)	48	(24.0%)	8	41.6%	97	(24.5%)	115	(25.7%)	18
インフラ運営	35	(15.6%)	54	(11.1%)	19	25.6%	93	(17.2%)	212	(16.5%)	119
その他	2	(13.9%)	2	(16.7%)	1	14.0%	8	(26.7%)	17	(54.8%)	9
EBITDA	433	(10.2%)	660	(10.0%)	227	45.8%	**1,287**	**(11.4%)**	**1,439**	(10.1%)	**152**
建築	123	(6.8%)	228	(8.2%)	105	52.7%	313	(6.5%)	432	(7.5%)	119
土木	103	(13.2%)	212	(12.2%)	109	48.6%	329	(12.6%)	437	(11.6%)	108
舗装	131	(10.4%)	150	(10.8%)	19	42.6%	314	(11.1%)	352	(12.0%)	38
機械	18	(10.1%)	22	(11.3%)	5	43.2%	46	(11.7%)	52	(11.6%)	6
インフラ運営	43	(19.1%)	34	(6.9%)	△ 9	23.1%	103	(19.0%)	147	(11.5%)	44
その他	15	(125.3%)	13	(94.0%)	△ 2	70.3%	182	(601.1%)	19	(61.3%)	△163
事業利益	244	(5.7%)	399	(6.0%)	155	43.0%	**841**	**(7.5%)**	**927**	(6.5%)	**86**
建築	83	(4.6%)	161	(5.8%)	78	52.7%	208	(4.3%)	305	(5.3%)	97
土木	83	(10.7%)	165	(9.5%)	82	48.5%	260	(9.9%)	341	(9.0%)	81
舗装	78	(6.2%)	93	(6.7%)	15	40.6%	205	(7.2%)	228	(7.8%)	23
機械	4	(2.4%)	7	(3.4%)	3	25.8%	18	(4.6%)	26	(5.8%)	8
インフラ運営	△ 8	(−%)	△ 27	(−%)	△ 18	− %	△5	(−%)	10	(0.8%)	15
その他	4	(32.8%)	△ 0	(−%)	△ 4	− %	156	(515.1%)	17	(54.8%)	△139

※各セグメントにおいて、PPA資産の償却が加味されてる
※数値は小数点以下を四捨五入しているため、表記数値の合計は一致しない

4. 連結貸借対照表の主な増減の要因





FY25

ROA 4.4% (4.7%)※1

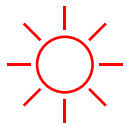
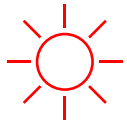
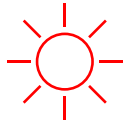
FY26 通期見込み

ROA 4.0% (4.2%)※1

※1 (　)・・・公共施設等運営権を除いた数値
※2 有利子負債＝短期借入金、長期借入金、ノンリコース借入金（1年以内返済予定も含む）、社債
※3 公共施設等運営権：コンセッション事業などの数年にわたって公共施設を運営する権利の譲渡を受ける際に支払われる対価

5. 経営環境認識

● 市場環境や受注環境、資材価格等に関する当社の認識、対応

セグメント	市場	市場認識	当社の状況	当社の取組み
建　　築		全国では着工床面積の減少が続く一方、物価上昇や首都圏を中心とした大型案件の増加や、AI・半導体関連投資を背景に建築単価が上昇し、建設投資額は堅調に推移している。金利上昇や資材価格・労務費の高騰、中東情勢の長期化などがプロジェクトの工期やコストに与える影響を引き続き注視する必要がある		大型案件を中心とした案件精査と営業活動の強化により収益性向上を進めるとともに、受注規律の徹底や施工効率の改善を通じて利益率のさらなる向上を図る。加えて、グループ調達機能の強化・統合によるスケールメリットの実現を進め、建設費や資材・労務費の上昇に適切に対応していく
土　　木		担い手不足や資材価格の高騰といった課題が依然として残るものの、公共工事は国交省による防災・減災、国土強靱化、並びに防衛省の自衛隊施設強靱化計画により、安定的な予算措置が講じられている。民間工事においては脱炭素関連の投資が建設市場の活況を支える要因となっており、公共・民間ともに建設投資は総じて堅調な推移を維持		防災・減災、国土強靱化に資する公共工事とともに、防衛施設案件、能登半島地震復旧関連工事にも注力。民間工事では原発再稼働、再エネ、脱炭素関連のほか、水市場においてもグループ連携による受注力強化を推進する
インフラ運営		【官民連携】 アリーナやウォーターPPPが本格的に案件化。今年度改訂版PPP/PFIアクションプランでは、一般廃棄物処理施設など重点分野の拡大や道路・スポーツ施設等の件数目標増加が盛り込まれ、市場拡大が期待される 【再生可能エネルギー】 インフレ等によるコスト増があるものの、国際情勢によるエネルギー安全保安意識の高まり、データセンターや半導体工場などの相次ぐ稼働も影響し、再エネの価値が上昇。市場は拡大傾向にある	 	【官民連携】 過去の受注案件の経験を活かし、さらなる案件獲得に取り組む。業績については確実な収益確保を見込む 【再生可能エネルギー】 再エネ価値の高まりを背景として着実に開発案件を推進。短中期では投資が先行するが、中長期的には収益増加を見込む
舗　　装		イラン情勢の長期化により原油価格が高止まりする中、輸送費等の調達コストが上昇し、ストレートアスファルト価格が大幅に押し上げられている		ストレートアスファルト価格の上昇に対し、再度、価格転嫁を実施中。タイムリーな実行により収益確保を見込む
機　　械		国内建設投資は堅調に推移すると見込まれる一方、中東情勢や原油価格動向など先行き不透明な外部環境への注視が必要		三重地区の事業承継効果に加え、冬期整備・レンタル需要の獲得や、広域レンタル会社向けを中心とした自社製品の拡販を推進し、収益基盤の拡大を図る

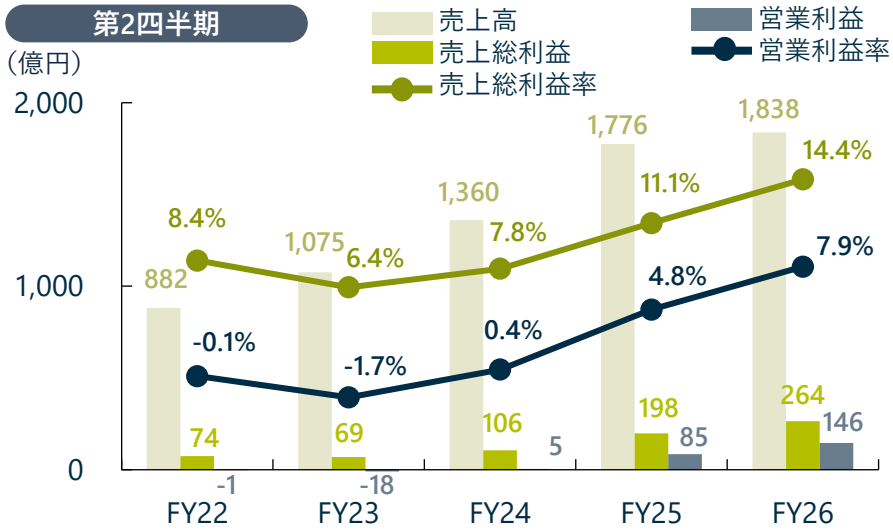
セグメント別ハイライト

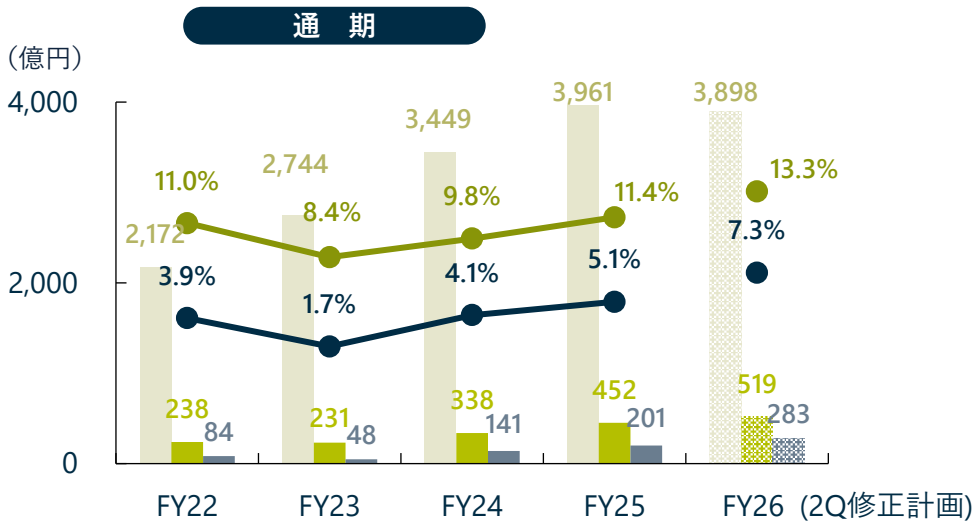
※各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は考慮していません

1-1. 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　採算性の高い工事が複数完成したことにより前年同期比**増収増益**
- FY26 通期　手持工事の順調な進捗に加え、設計変更・追加工事の進捗により**利益額の通期計画を上方修正し過去最高を達成する**見込み

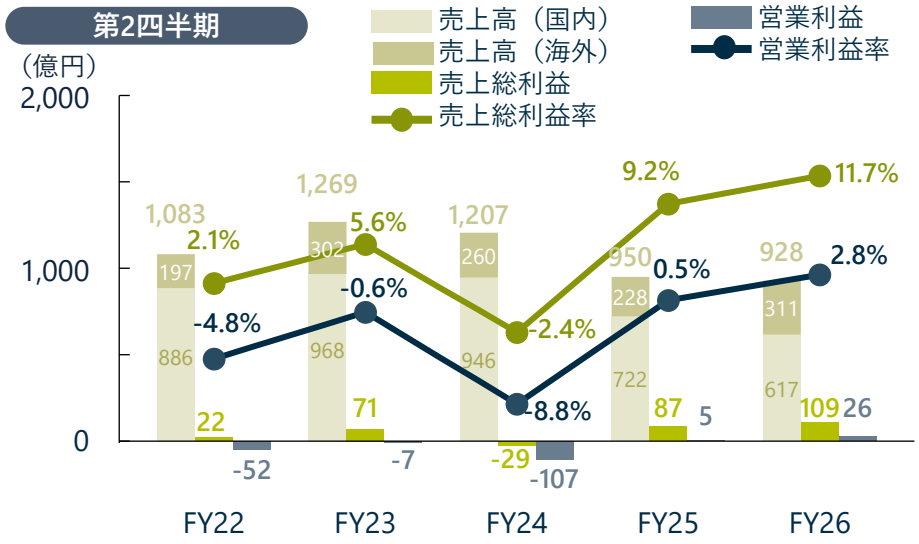
前田建設 連結

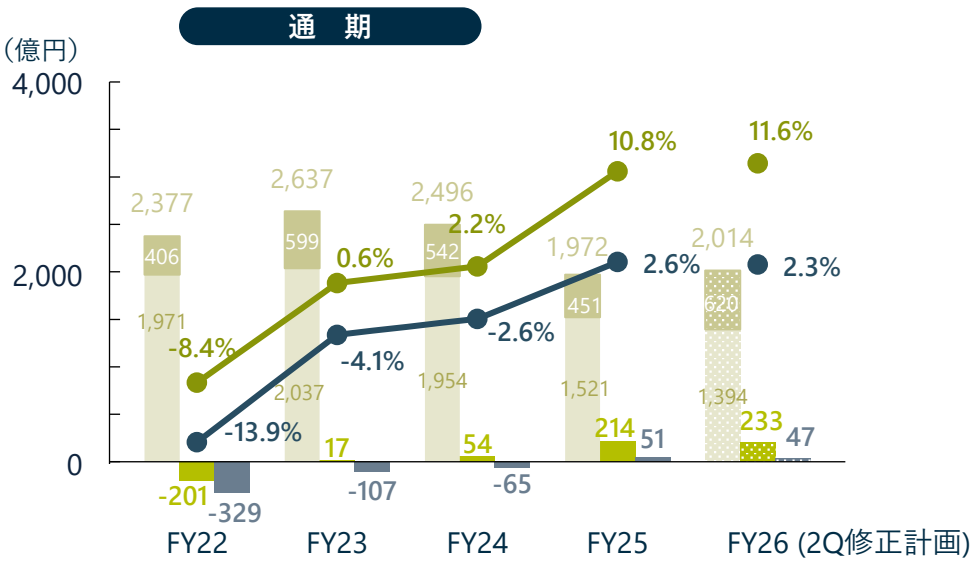




- FY26 2Q　売上高は前年同期比減収。海外建築工事が順調に推移しており、売上総利益・営業利益とも**増益**、利益率も改善
- FY26 通期　国内、海外ともに手持工事が順調に推移しており、**通期計画達成**を見込む

アルソシア建設 連結



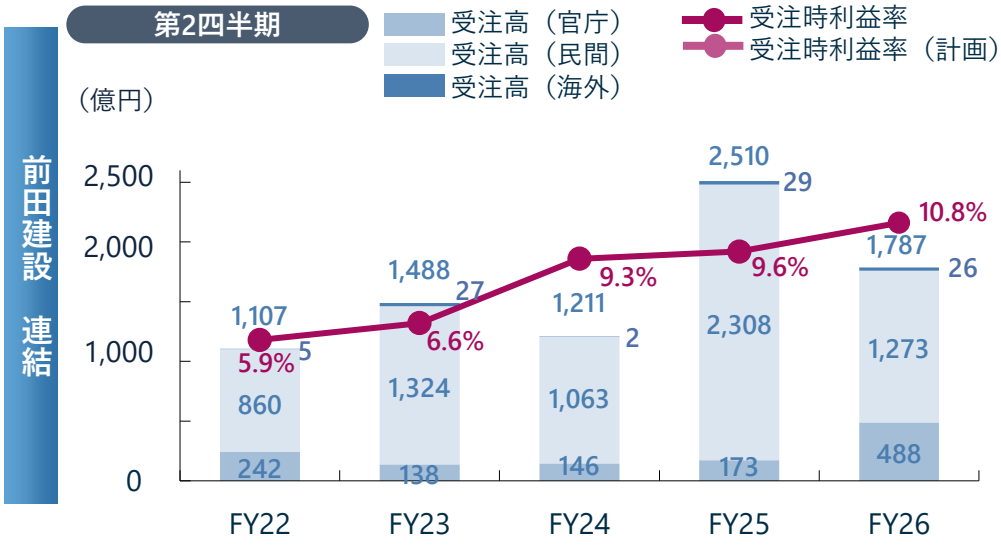


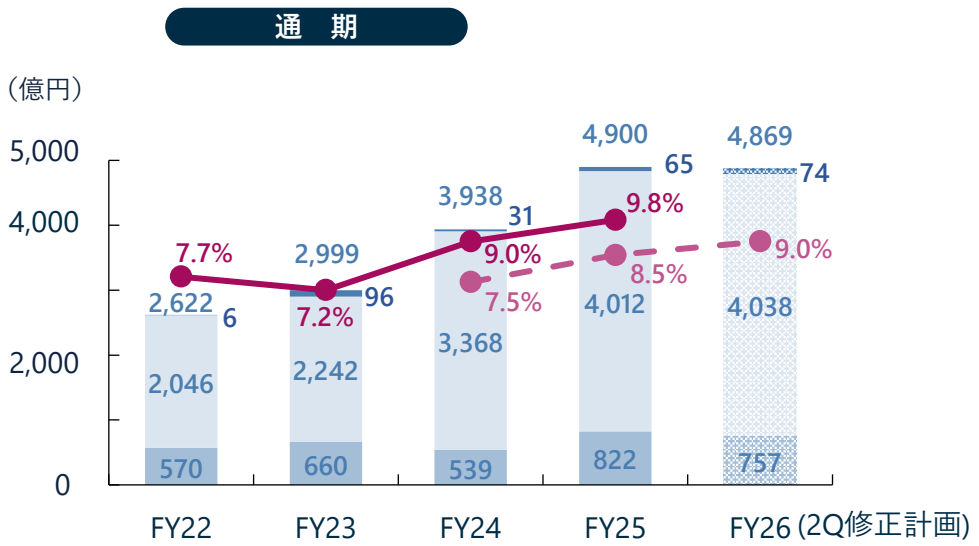
※前田建設のFY24以前は、個別業績数値
※アルソシア建設のFY24 FY25 売上高は、海外子会社の集計期間変更に伴い、短信公表値と相違しております

1-2. 受注高と受注時利益率の推移

- FY26 2Q　受注高は大型民間案件受注により順調に推移。受注時利益率は**前年同期比向上**
- FY26 通期　受注高・受注時利益率ともに**通期計画達成**を見込む。今後は大型案件を中心とした受注と受注時利益率のさらなる向上を目指す

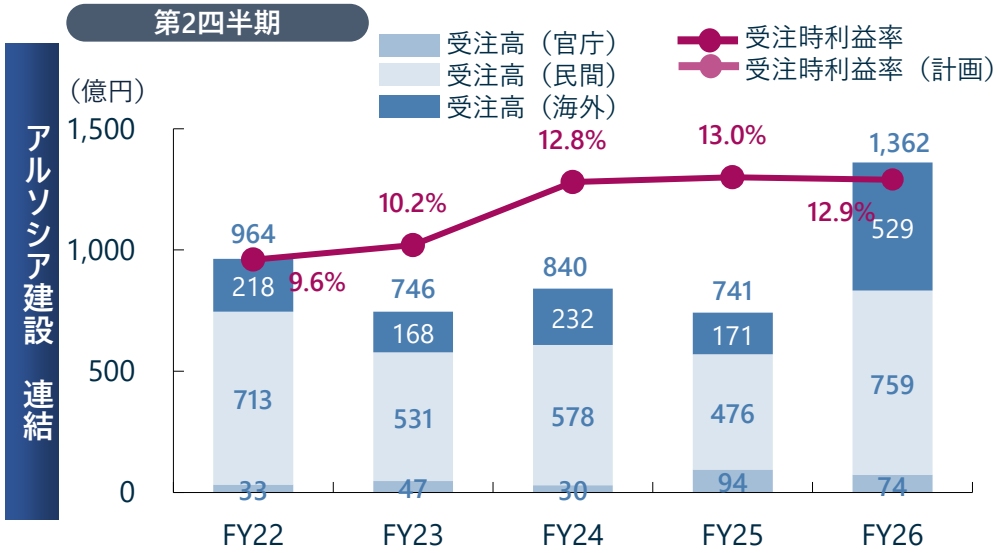
前田建設 連結

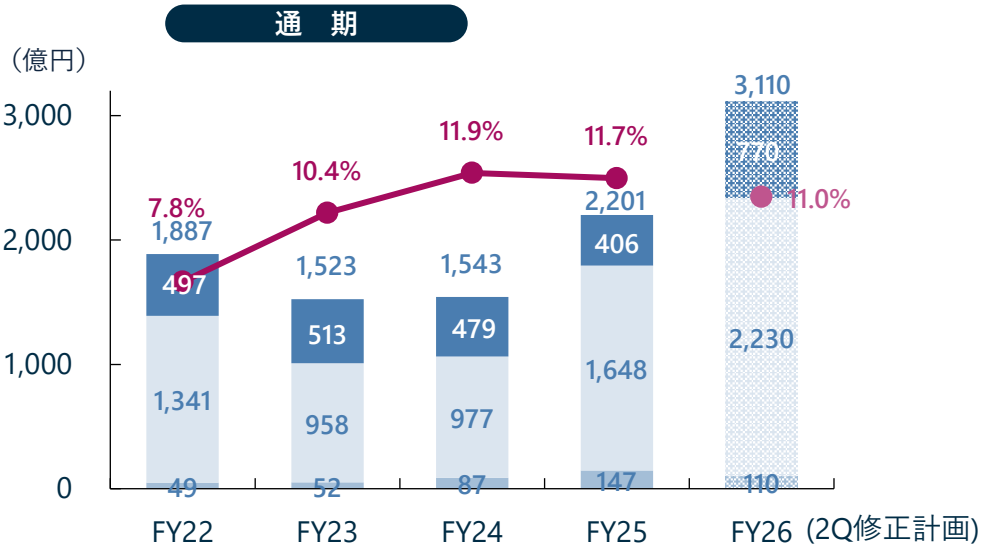




- FY26 2Q　国内・海外ともに大幅に増加し、受注時利益率も計画を上回り、高水準を維持
- FY26 通期　国内・海外ともに受注高の増加を見込み、受注時利益率も計画を上回る水準を目指す

アルソシア建設 連結





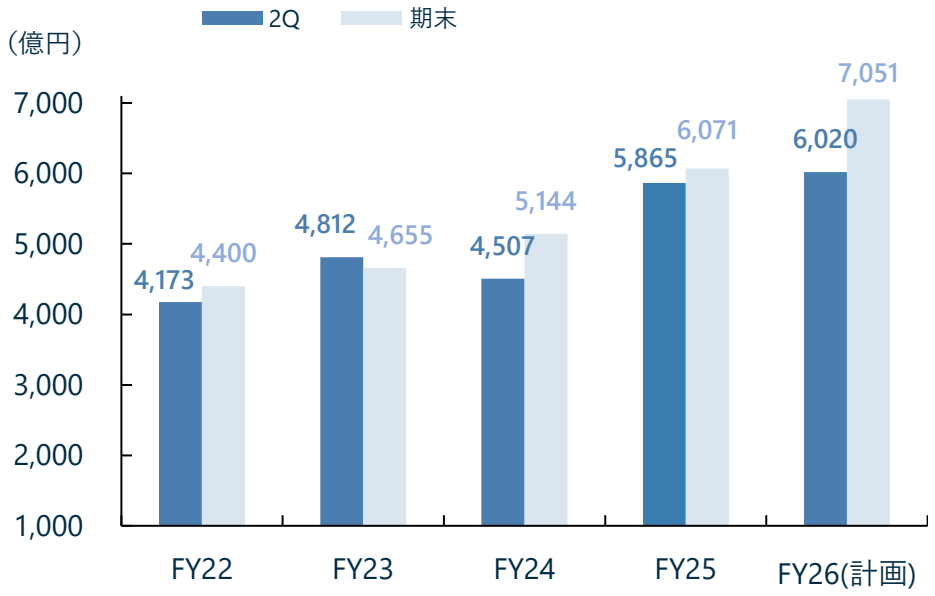
※前田建設のFY24以前は個別、アルソシア建設のFY24以前は個別＋現法にて算出
※アルソシア建設の受注時利益率は、FY25以前は個別、FY26は個別+現法にて算出

1-3. 手持工事高の推移

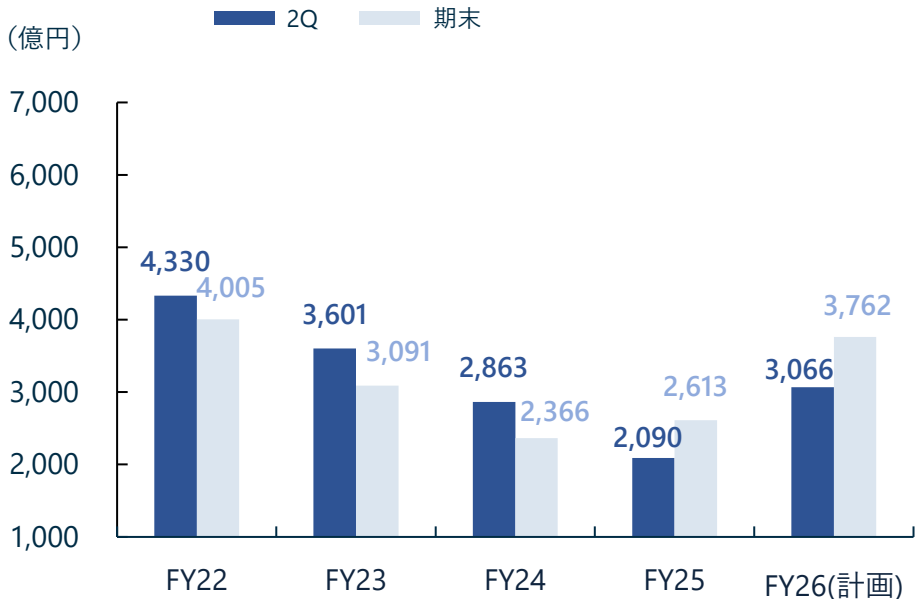
- 前田建設は、建築の受注高・受注時利益ともに高水準を維持。手持工事高は前期同様**高水準**を見込む
- アルソシア建設の手持工事高は、受注高の順調な回復を受けて**高水準**で推移

手持工事高

前田建設 個別

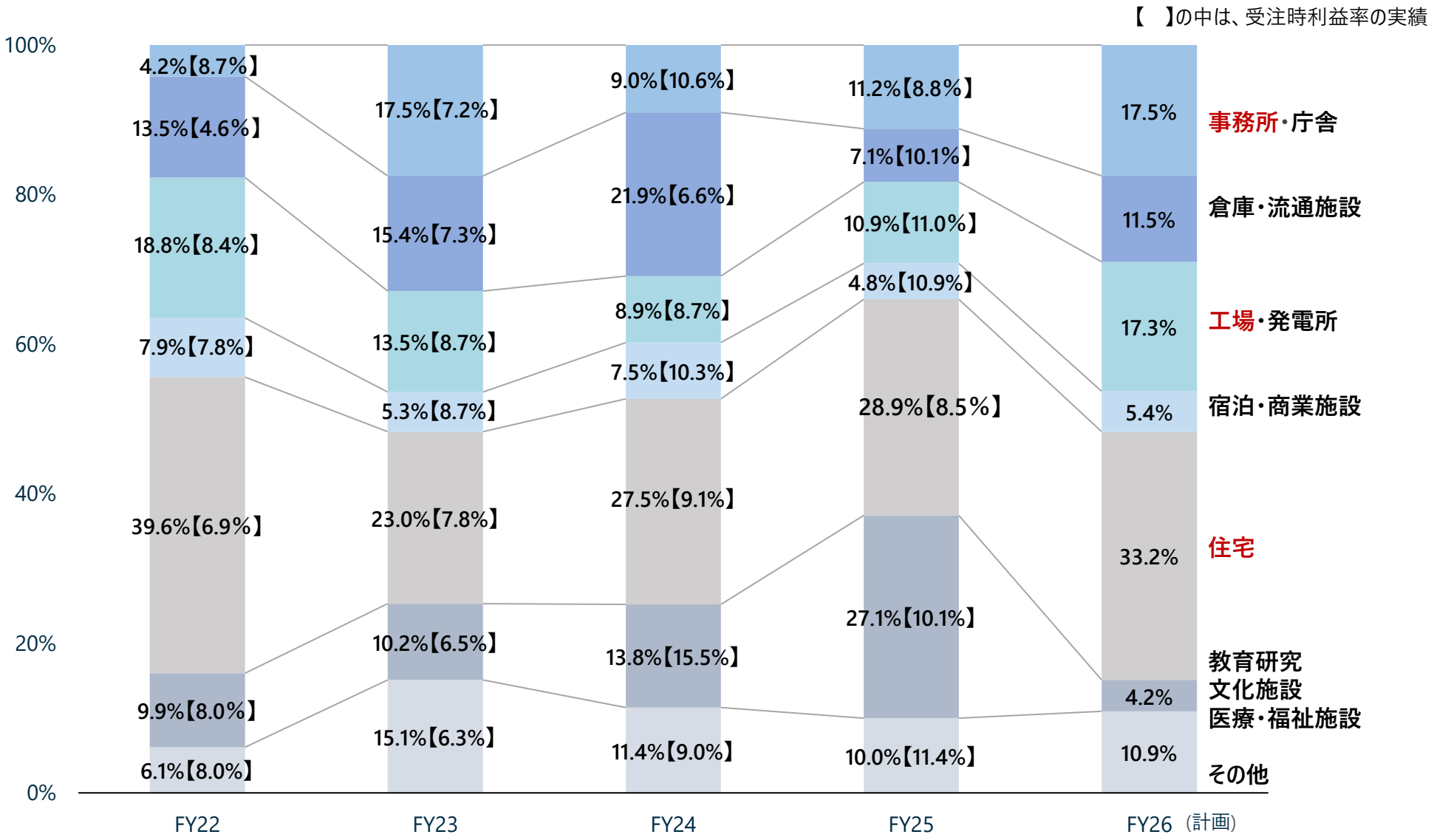


アルソシア建設 個別＋海外現法



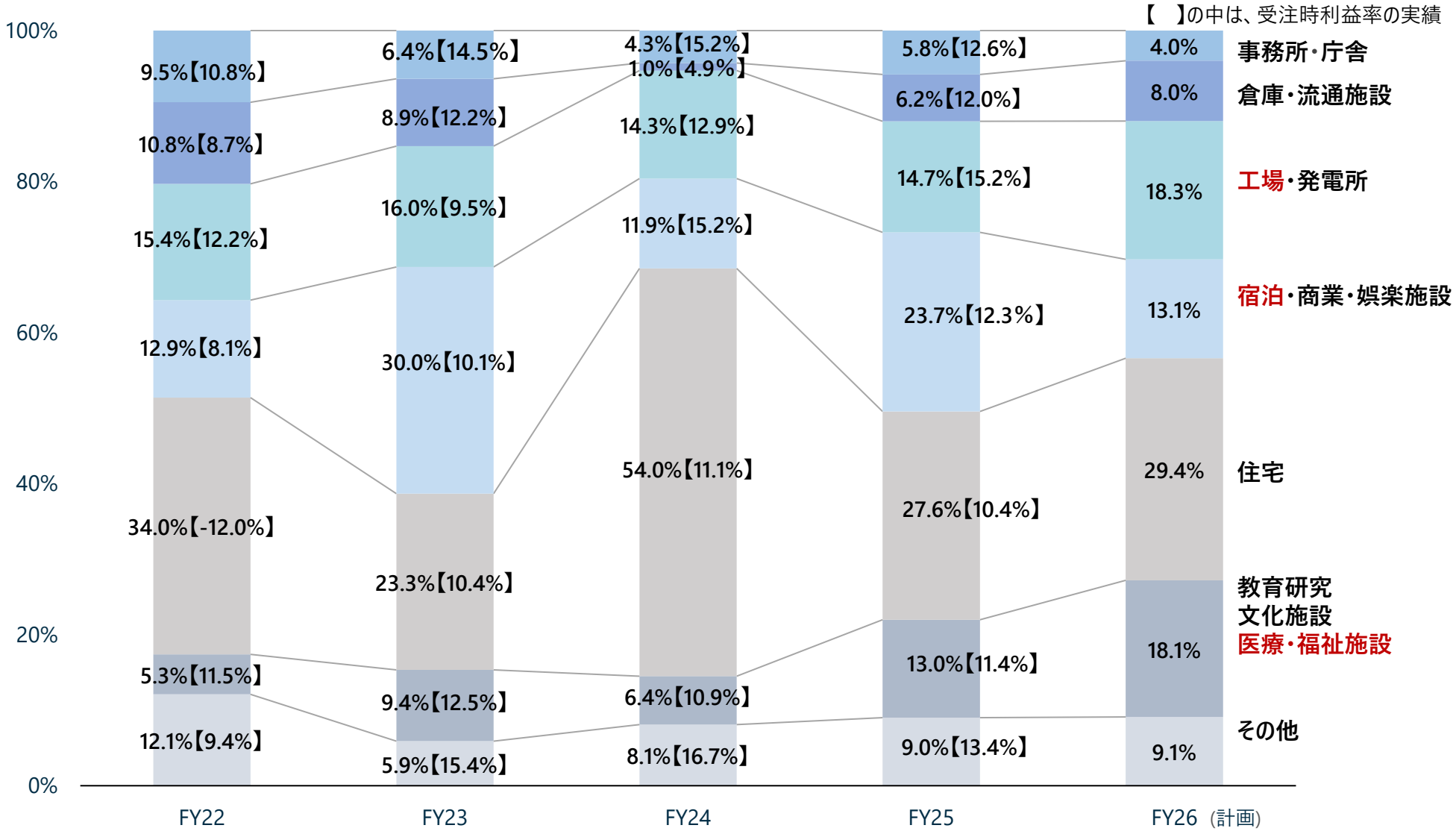
1-4. 建物用途別 受注比率の推移

● 大型のデータセンター、再開発、ごみ処理施設の受注により「事務所」、「住宅」、「工場」の比率が高まる見通し



1-5. 建物用途別 受注比率の推移

● 大型の高齢者施設、高級宿泊施設、工場等の受注を見込む



1-6. トピックス　「つなぐ」未来を創造する大型物流施設、「子どもたちの可能性を育む『未来の学校』」

ロジスクエア朝霞B新築工事



地上4階建て、延べ面積64,615.14㎡（19,546.08坪）の物流施設です。大型車両が3階に直接乗り入れられるスロープを設け、1階および3階にトラックバースを備えることで、最大4テナントへの分割賃貸が可能なマルチテナント型の施設となっています。現在、弊社で施工中の「ロジスクエア朝霞A」に続く大型物流施設の建設工事で、これら2棟を合わせた総延べ面積は約16万㎡超におよぶ大型開発プロジェクトです。

発注者：株式会社シーアールイー

用　途	物流施設
構造・規模	RC造、一部S造、地上4階
延床面積	64,615.14㎡
工　　期	2026年8月～2028年2月

代々木中学校建設　建築工事



本計画は、渋谷区「新しい学校づくり」整備方針にもとづき、1960年代に建設され老朽化した校舎及び体育館等の全面建て替えを行うものです。基本計画策定には、学校長をはじめとする教職員、PTA、地域団体の代表者などから幅広く意見を募り、学校内外の様々な教育資源を活用することで子供たち一人ひとりの先進的で柔軟な考え方を伸ばし、未来をよりよく生きる力をつけることができる「未来の学校」を目指して計画されています。

発注者：渋谷区

用　途	教育施設
構造・規模	RC造、一部S造、地上3階、地下1階
延床面積	10,104.53㎡
工　　期	2026年6月～2031年1月

1-7.トピックス　「 日系企業の海外生産施設 」、「 研究開発拠点施設 」を受注

（仮称）アイシンロータック工場拡張計画



インド共和国ハリヤナ州ロータック工業団地において、AISIN AUTOMOTIVE HARYANA PRIVATE LIMITEDが計画する工場拡張プロジェクトです。
アルソシア建設元施工の既存工場の隣接地に工場棟、事務所棟および関連ユーティリティ施設を建設し、自動車部品の生産能力増強を図ります。当社は設計から施工までを担当し、工場棟には大規模PEB構造を採用するとともに、各種生産設備のためのインフラを整備し、高品質な製造環境を構築します。加えて厳格な安全・品質管理を通じて、円滑な事業推進と確実なプロジェクト遂行に取り組んで参ります。

発注者：AISIN AUTOMOTIVE HARYANA PRIVATE LIMITED

用　途	自動車部品工場
構造・規模	工場（S造　一階建）事務所(RC造　2階建)
延床面積	34,393.89㎡
工　　期	2026年9月～2027年10月

（仮称）柏の葉キャンパス１３６街区新築計画



発注者が2027年に創立120周年を迎えるに際し、
新技術・新事業の創出に向けた新たな研究開発拠点を整備するプロジェクトです。
アルソシア建設は長年の実績を評価され設計施工にて参画しました。
積層構造の外装とし、設計コンセプトは『創×層～歴史を重ね、未来を創る』。
先進的な街づくりを進める柏の葉キャンパスエリアにて、新たな技術・自由な発想が生まれるオープンイノベーティブな施設を具現化できるよう取り組んで参ります。

発注者：株式会社日本製鋼所

用　途	研究所
構造・規模	事務所棟　S造3階　試験棟　S造2階　実験棟　RC造1階
延床面積	4,876.22㎡
工　　期	2026年9月～2027年12月

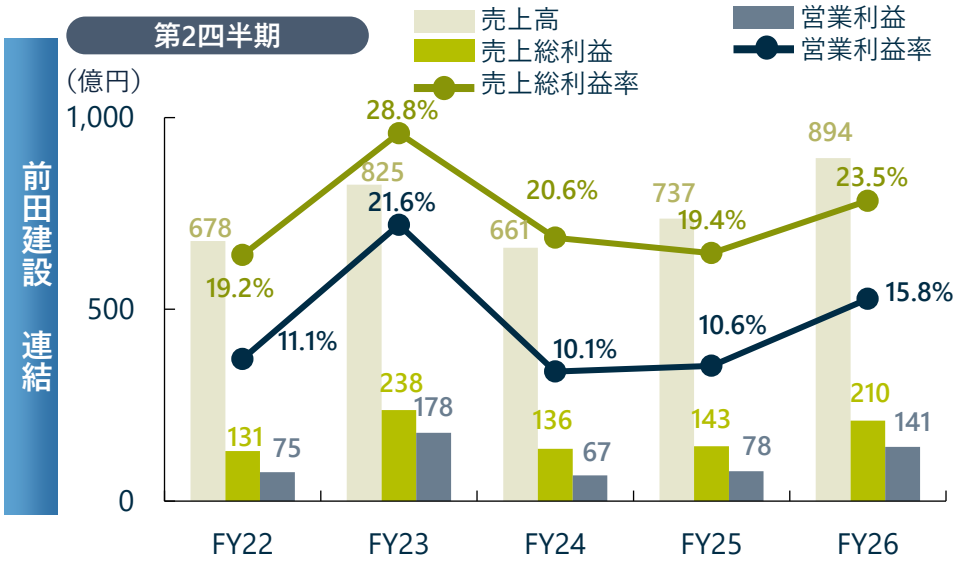
セグメント別ハイライト

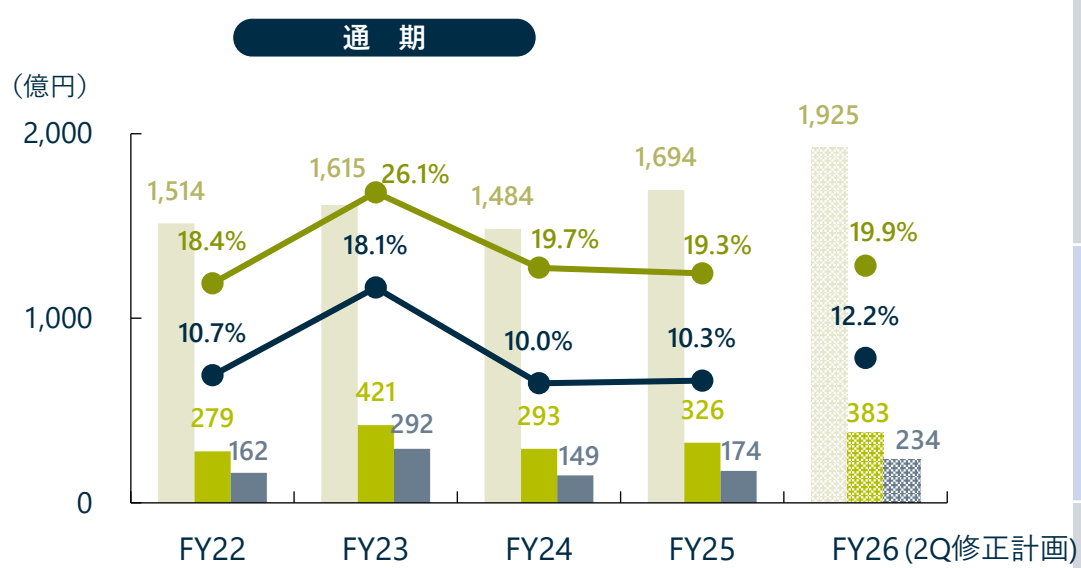
※各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は考慮していません

2-1. 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　　完工高・完工利益は順調に進捗し、今期完成工事の設計変更獲得も堅調なため、前年同期比**増収増益**
- FY26 通期　　手持工事の進捗及び今期完成工事の設計変更獲得額の向上により、通期計画を**上方修正**。完工高・完工利益のさらなる上積みを目指す

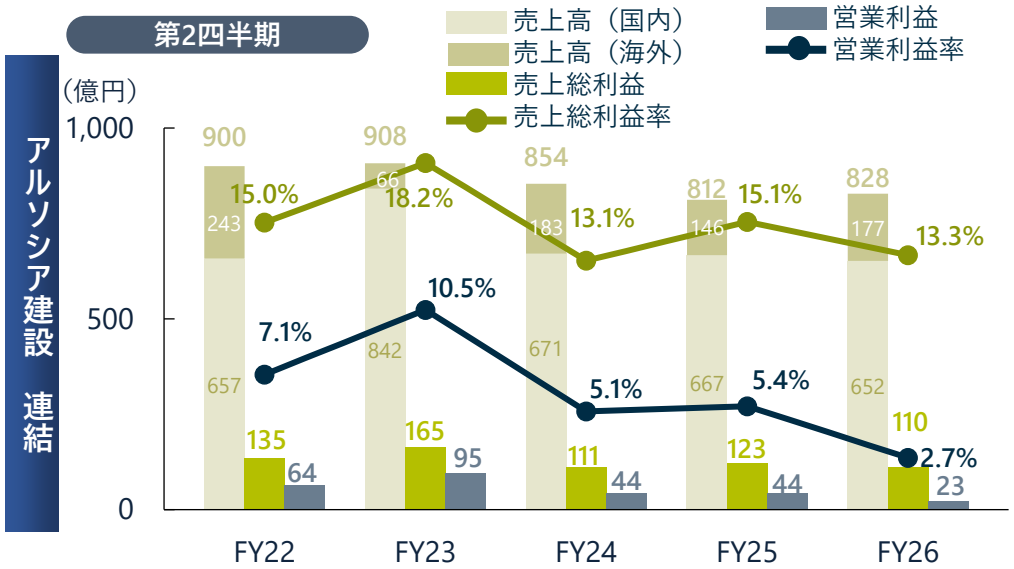
前田建設　連結

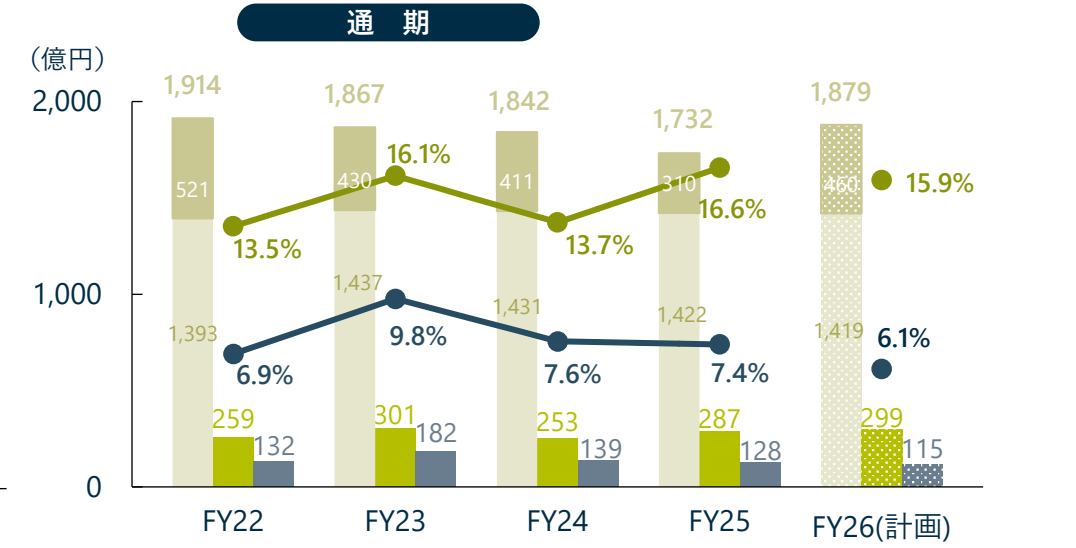




- FY26 2Q　　海外工事の進捗アップと国内一部工事の採算悪化により増収減益
- FY26 通期　　手持工事の進捗管理と設計変更獲得、海外工事の更なる進捗促進により計画達成を見込む

アルソシア建設　連結



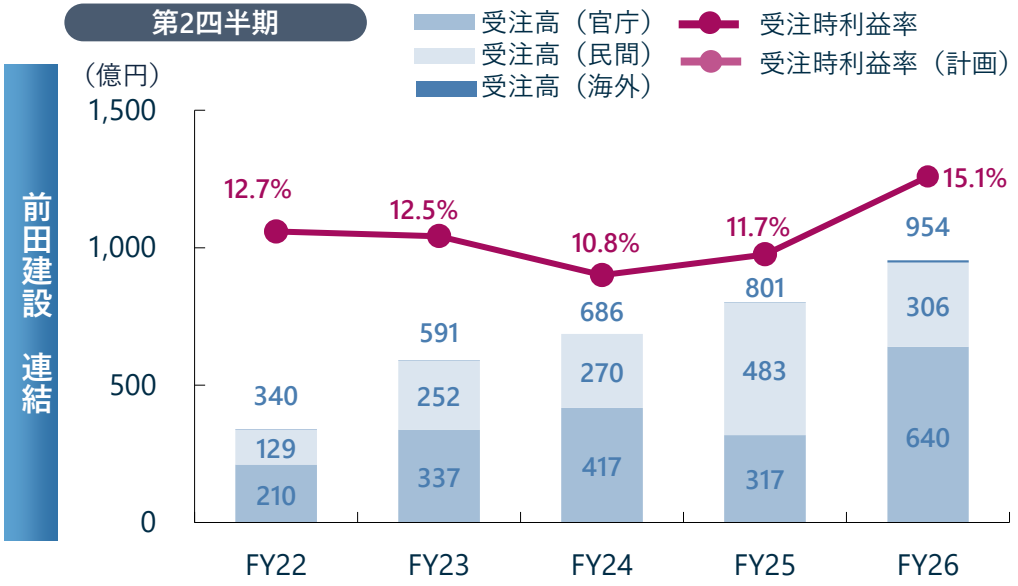


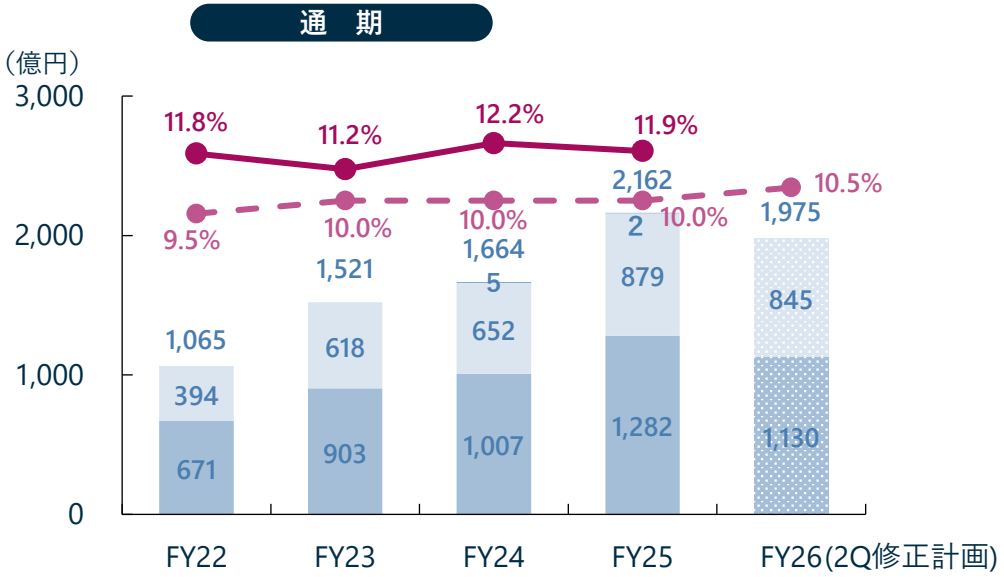
※前田建設のFY24以前は、個別業績数値
※アルソシア建設のFY24 FY25 売上高は、海外子会社の集計期間変更に伴い、短信公表値と相違しております

2-2. 受注高と受注時利益率の推移

- FY26 2Q　官庁の大型案件受注が寄与し、前年同期比で受注高、受注時利益率共に前年同期比**大幅向上**
- FY26 通期　下期に集中する大型工事・特命工事の受注確保と完成予定工事の設計変更獲得により**通期計画達成**を見込む

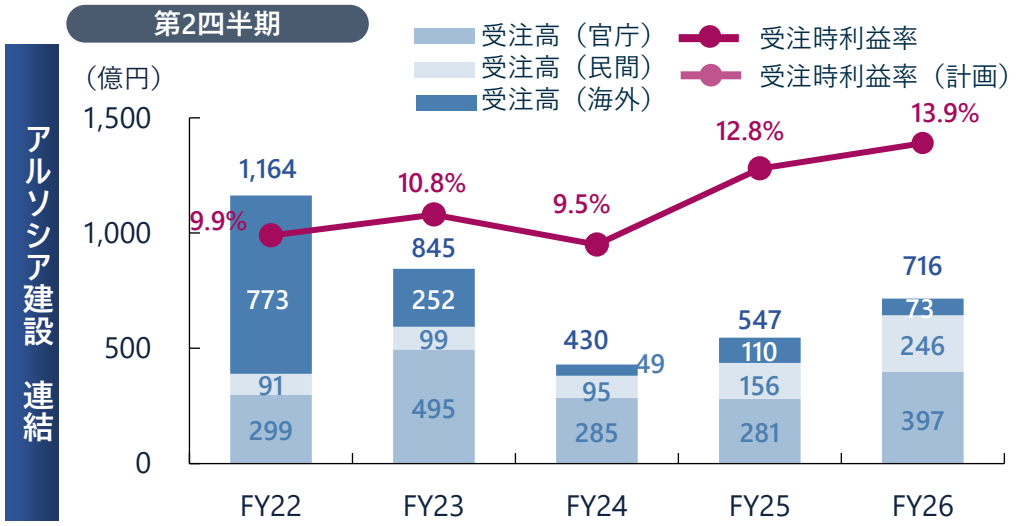
前田建設 連結

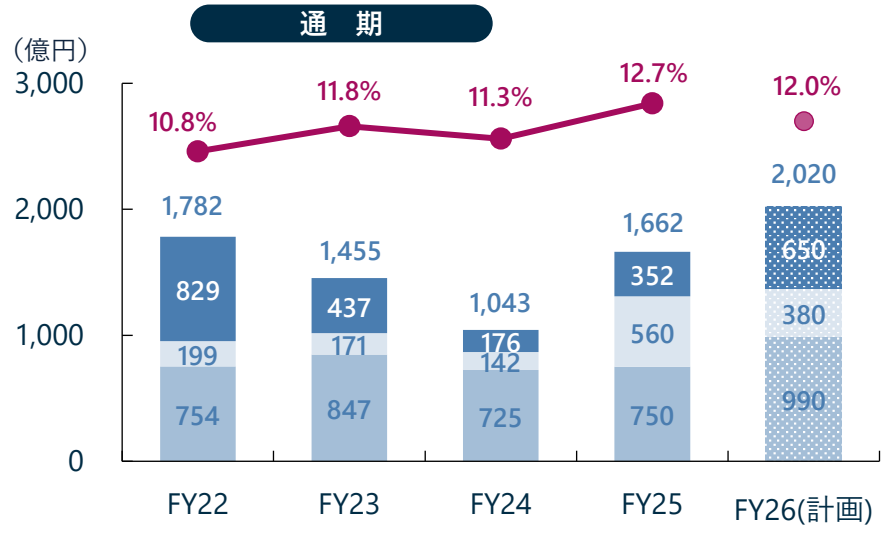




- FY26 2Q　前年同期比で**増額**。受注時利益率は高水準を維持
- FY26 通期　海外現法は通期目標を過達。更なる大型案件獲得と国内工事の受注により全体目標の達成を見込む

アルソシア建設 連結





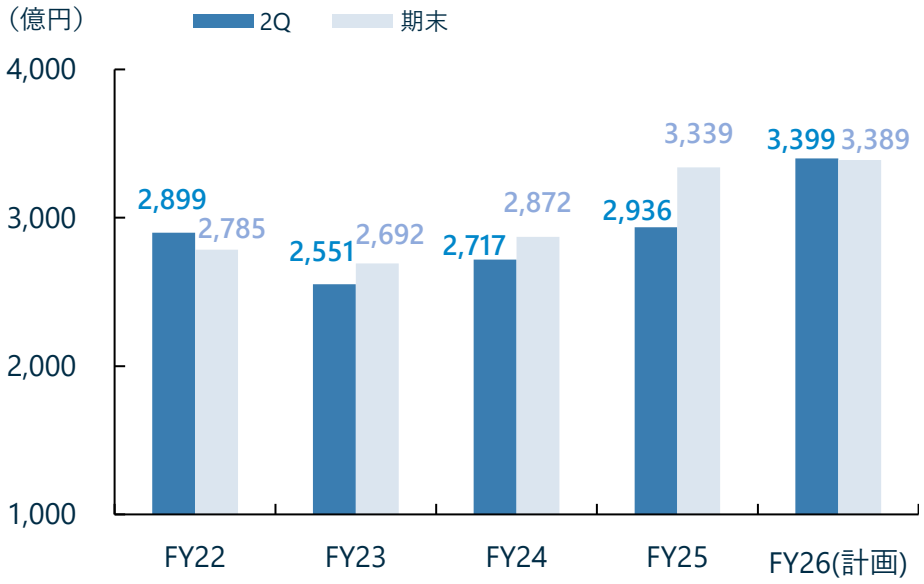
※前田建設のFY24以前は個別、アルソシア建設のFY24以前は個別＋現法にて算出
※アルソシア建設の受注時利益率は、FY25以前は単体、FY26は個別+現法にて算出

2-3. 手持工事高の推移

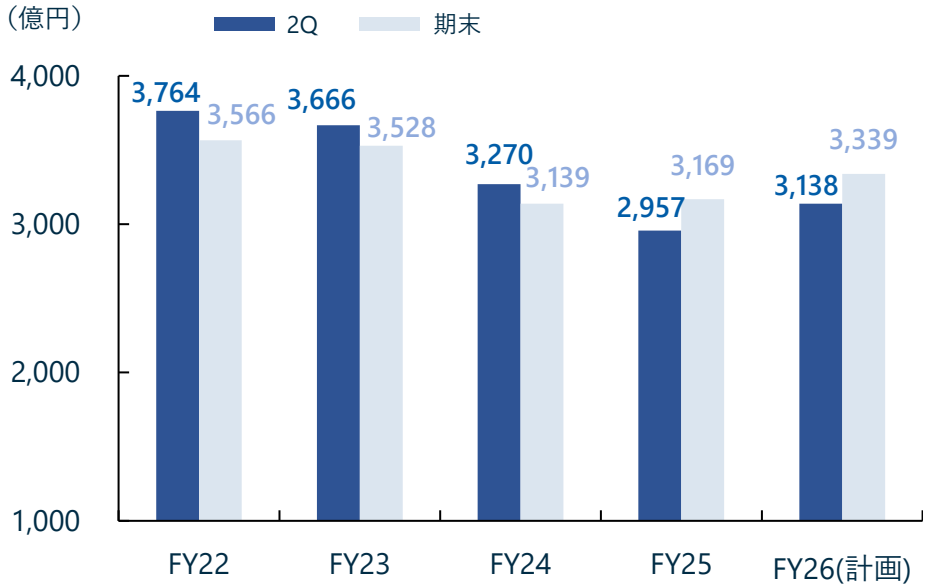
- 前田建設の受注高および手持工事高は引き続き**高水準**を見込む
- アルソシア建設の手持工事高は前年同期比増で、引き続き**高水準**を維持

手持工事高

前田建設 個別



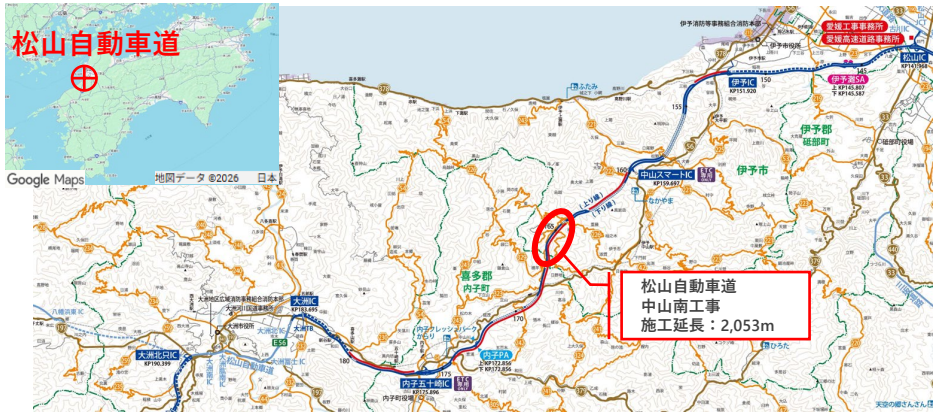
アルソシア建設 個別＋海外現法



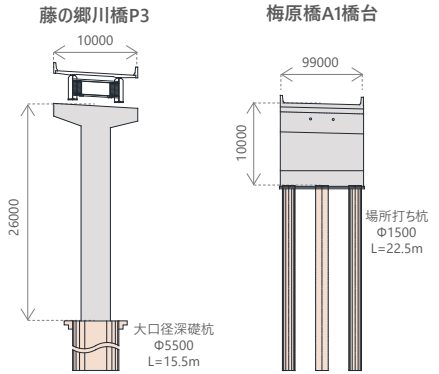
2-4. トピックス「NEXCO4車線化工事」「水道管路の複線化工事」を受注

松山自動車道　中山南工事

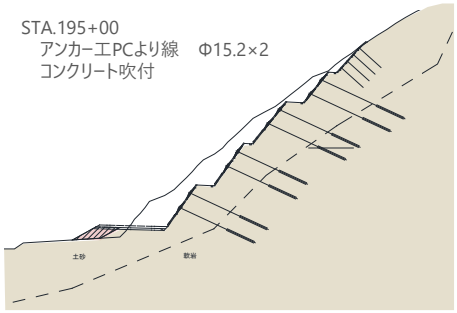
■施工場所



■橋脚下部工標準図



■土工掘削断面図



発注者：西日本高速道路株式会社　四国支社

施工場所	（自）愛媛県喜多郡内子町 （至）愛媛県伊予市中山町
工事概要	松山自動車道、伊予ICから内子五十崎IC間における４車線化工事を行う事業のうち、本工事は、内子町から伊予市中山町の約2km区間で、現在供用中の2車線高速道路を活かしつつ橋梁下部工、擁壁工、アンカーエ、土工並びに工事用道路としての仮桟橋を設置する工事である 施工延長：2,053m（道路延長：1256.5m、橋梁延長：796.5m） 掘削土量：131,341㎥　橋台8基、橋脚13基
工　　期	2026年11月2日～2033年1月28日（75カ月）

管路整備事業（東部猪名川）

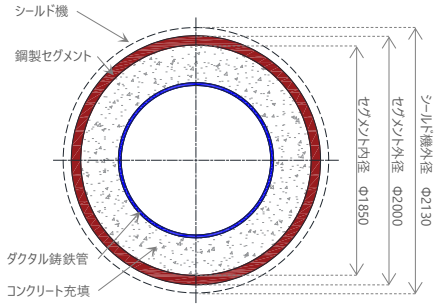
■施工場所



■シールドマシン イメージ図



■標準断面図



発注者：阪神水道企業団

施工場所	（自）兵庫県尼崎市田能5丁目11番地先（猪名川浄水場） （至）兵庫県尼崎市富松町3丁目　地内
工事概要	東部猪名川管路は、尼崎市民45万3千人の約49%へ水道用水を供給する管路である。供給エリアには重要施設（官公庁、避難所、医療機関、透析病院）も存在していることから、地震や事故等により、送水を停止した場合に供給先である尼崎市への影響が非常に大きい。そのため、安定供給の観点から新たに管路を布設し、複線化を行う。
工　　期	2026年8月3日～ 2032年3月31日（68カ月）

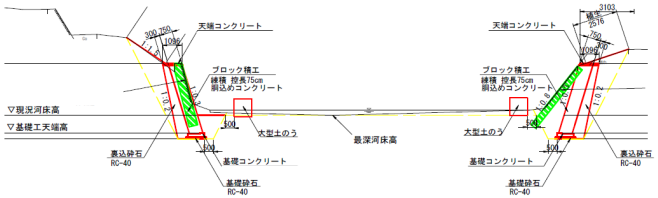
2-5. トピックス　「能登半島地震災害復旧工事」「東京都水道局推進工事」を受注

６災１１３４号 二級河川 九里川尻川外 河川災害復旧工事 （概略発注対象工事）【石川県】

■工事位置図



■概略標準断面図（コンクリート積）



■能登半島地震災害復旧関連の上期受注案件

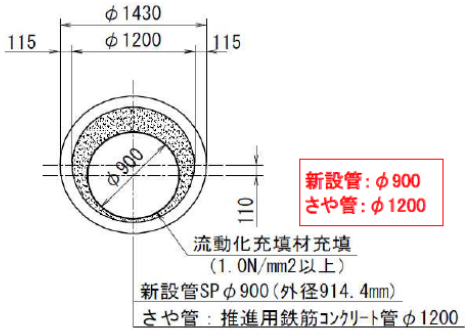
発注者	工事名
石川県	６災１１３４号　二級河川　九里川尻川外　河川災害復旧工事
石川県	６災４１３８号　普通河川角間川　河川災害復旧工事
石川県	６災１４４１号　二級河川山王川外　６災８１９９号　城山急傾斜地崩壊防止施設 災害復旧工事
石川県	６災１２９０号外 二級河川河原田川 河川災害復旧工事
石川県	６災１３８２号 二級河川町野川 河川災害復旧工事
石川県	６災１３２５号 二級河川鳳至川 河川災害復旧工事（２工区）
石川県	大川 外 災害関連緊急地すべり対策工事
石川県	６災１３２３号外 二級河川鳳至川 河川災害復旧工事（２工区）
石川県	６災１３８４号 二級河川町野川 河川災害復旧工事
石川県	６災１３８５号 二級河川町野川 河川災害復旧工事
国土交通省 北陸地方整備局	Ｒ７　２４９号中屋２号橋工事にかかる技術協力業務

世田谷区船橋二丁目地先から大蔵給水所間 送水管（900mm）新設工事

■工事位置図



■標準断面図





発注者：東京都水道局

施工場所	世田谷区船橋二丁目１番地先から同区砧二丁目８番地内間
工事概要	さや管（推進）　内径1,200mm 新設 813m、 さや管内配管 内径900mm 新設 815m、押込口築造工 新設１か所、 到達口築造工 新設 2か所 等、附属物設置工、支障物件処理工
工　　期	着手指定日を協議中（着手指定の日から880日間）

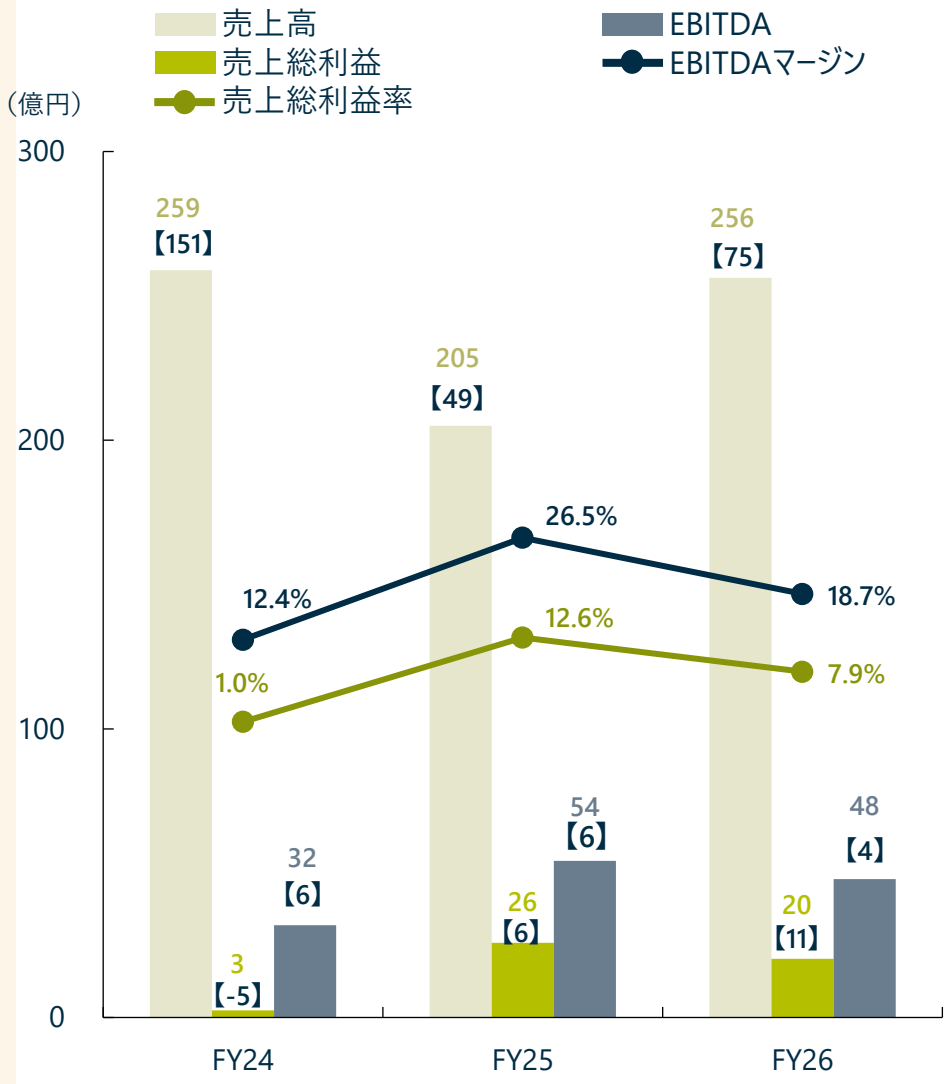
セグメント別ハイライト

※各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は考慮していません

3-1-1. 売上高、売上総利益、EBITDAの推移

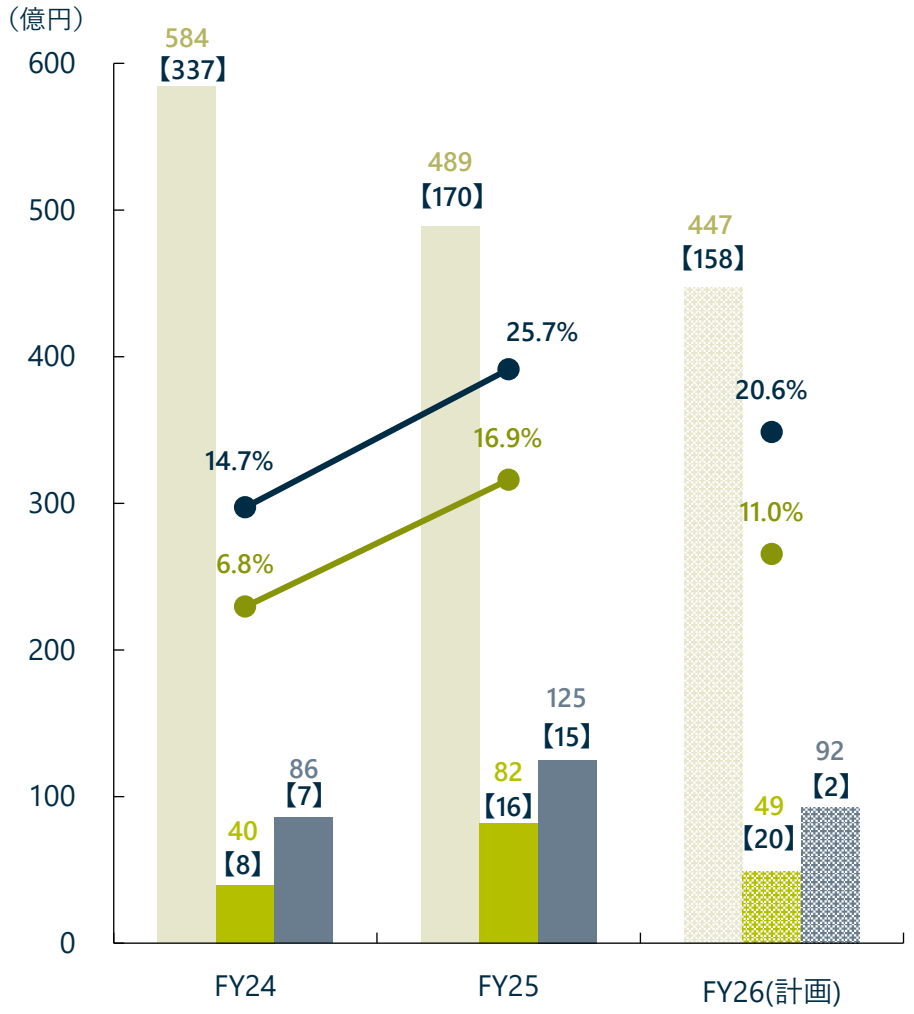
- FY26 2Q　愛知道路をはじめとした運営中SPCの利益は通期計画に対し堅調に推移
- FY26 通期　コンセッション事業の安定的な推進及び事業蓄電池事業の案件化により、通期計画達成を見込む

第2四半期



通　期

※インフラ運営セグメントに帰属する土建EPC分は【】で表記



※EPCのEBITDAは事業利益を記載

3-1-2. 主なグループ会社（インフラ運営）のFY26 2Q実績と通期計画

（百万円）

連結子会社（インフラ運営セグメント）	愛知道路コンセッション㈱ ※1			みおつくし工業用水コンセッション㈱ ※1			三浦下水道コンセッション㈱ ※1		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	7,945	7,906	15,457	734	697	1,565	95	99	216
営業利益	771	520	1,210	96	36	101	16	12	28
経常利益	247	45	236	91	33	91	12	9	22
当期純利益	220	65	203	65	29	59	10	7	14

持分法適用会社	仙台国際空港㈱ ※2			愛知国際展示場㈱ ※3		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	2,452	2,505	5,113	861	2,251	3,563
営業利益	202	159	203	311	1,643	2,267
経常利益	208	167	200	319	1,644	909
当期純利益	249	103	123	213	1,066	601

※1 日本基準・単体
※2 日本基準・単体、当社出資持分：30%
※3 日本基準・単体、当社出資持分：49%

3-1-3. 国内の主なインフラ運営事業

- 様々なインフラサービスにおける確かな実績
- 実績に裏付けされた豊富な運営ノウハウを今後の案件獲得に活かす

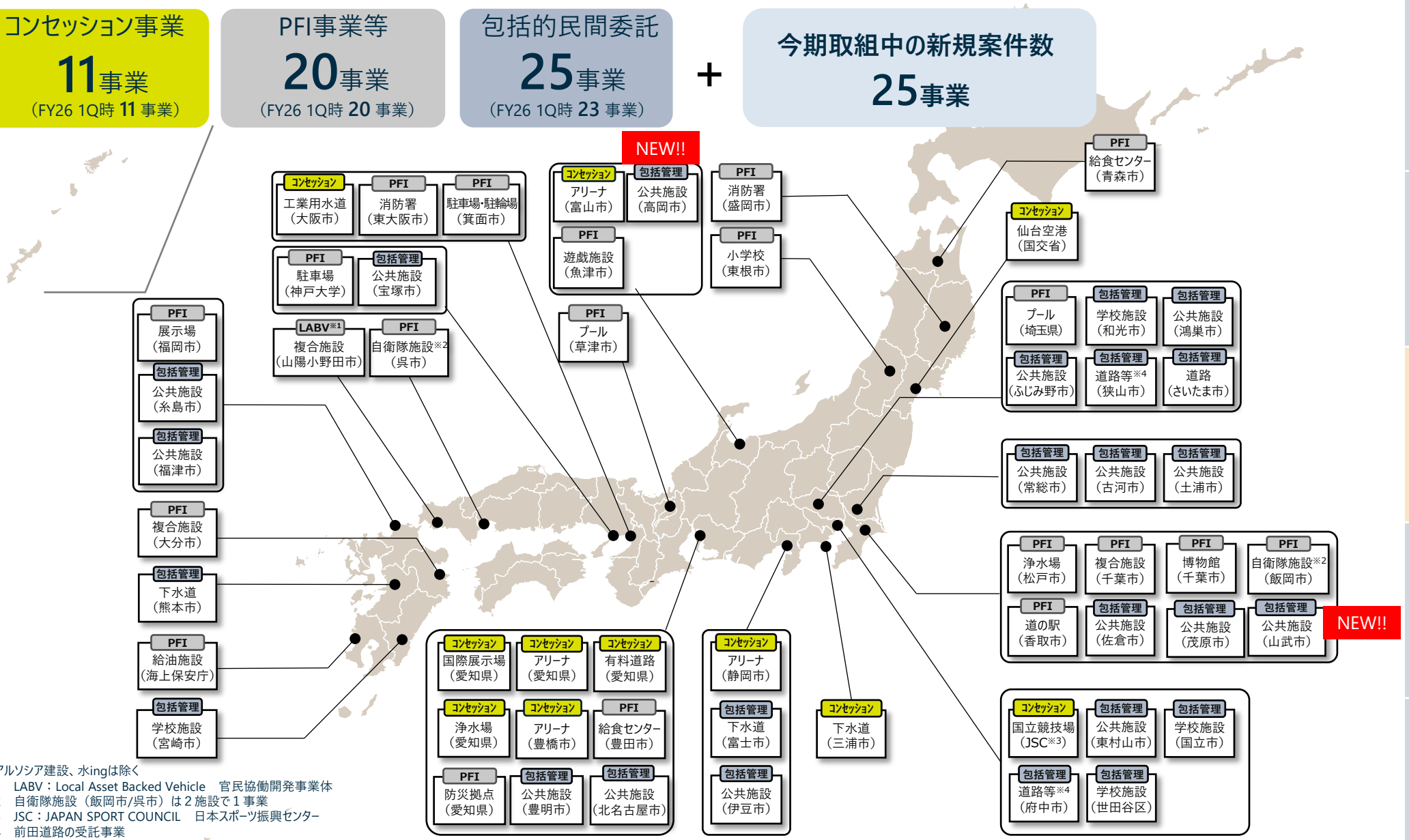
コンセッション事業 11事業（FY26 1Q時 11 事業）

PFI事業等 20事業（FY26 1Q時 20 事業）

包括的民間委託 25事業（FY26 1Q時 23 事業）

＋

今期取組中の新規案件数 25事業



※アルソシア建設、水ingは除く
※1　LABV：Local Asset Backed Vehicle　官民協働開発事業体
※2　自衛隊施設（飯岡市/呉市）は 2 施設で 1 事業
※3　JSC：JAPAN SPORT COUNCIL　日本スポーツ振興センター
※4　前田道路の受託事業

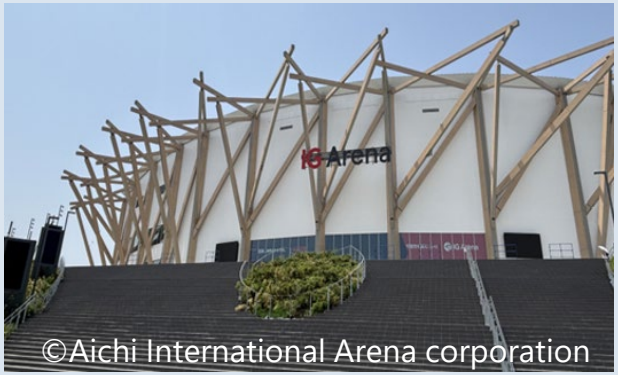
3-1-4. トピックス　内閣府「第2回 PPP/PFI事業優良事例表彰」をインフロニアグループ3案件が受賞

●先導性・先進性が評価され、大臣賞2件・優秀賞1件を受賞

大臣賞（内閣府特命担当大臣表彰）

■愛知国際アリーナ整備・運営等事業

国内初のBT+コンセッション方式を採用した**先導性**が評価



©Aichi International Arena corporation

運営会社
株式会社愛知国際アリーナ
事業方式
BT+コンセッション
事業期間
2021年～2055年

■山陽小野田市LABVプロジェクト

国内初のLABV※方式を採用した**先進性**が評価



運営会社
山陽小野田LABVプロジェクト合同会社
事業方式
LABV*
事業期間
2023年～2059年

優秀賞（政策統括官表彰）

■三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

国内初の管路を含めた下水道コンセッションという**先導性**が評価



運営会社
三浦下水道コンセッション株式会社
事業方式
コンセッション
事業期間
2021年～2043年

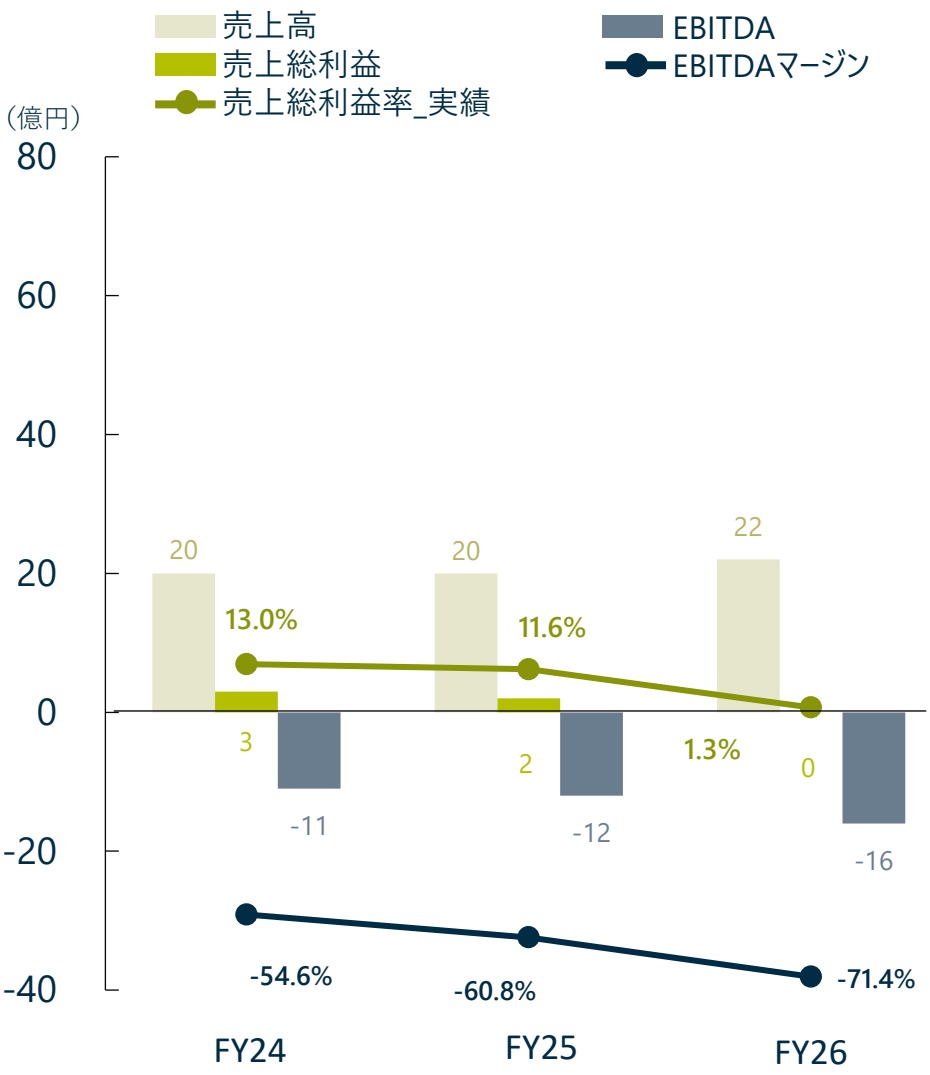
※ LABV：Local Asset Backed Vehicle　官民協働開発事業体

出典：内閣府「第2回PPP/PFI事業優良事例表彰」https://www8.cao.go.jp/pfi/hyosho/yuryojirei_02_index.html

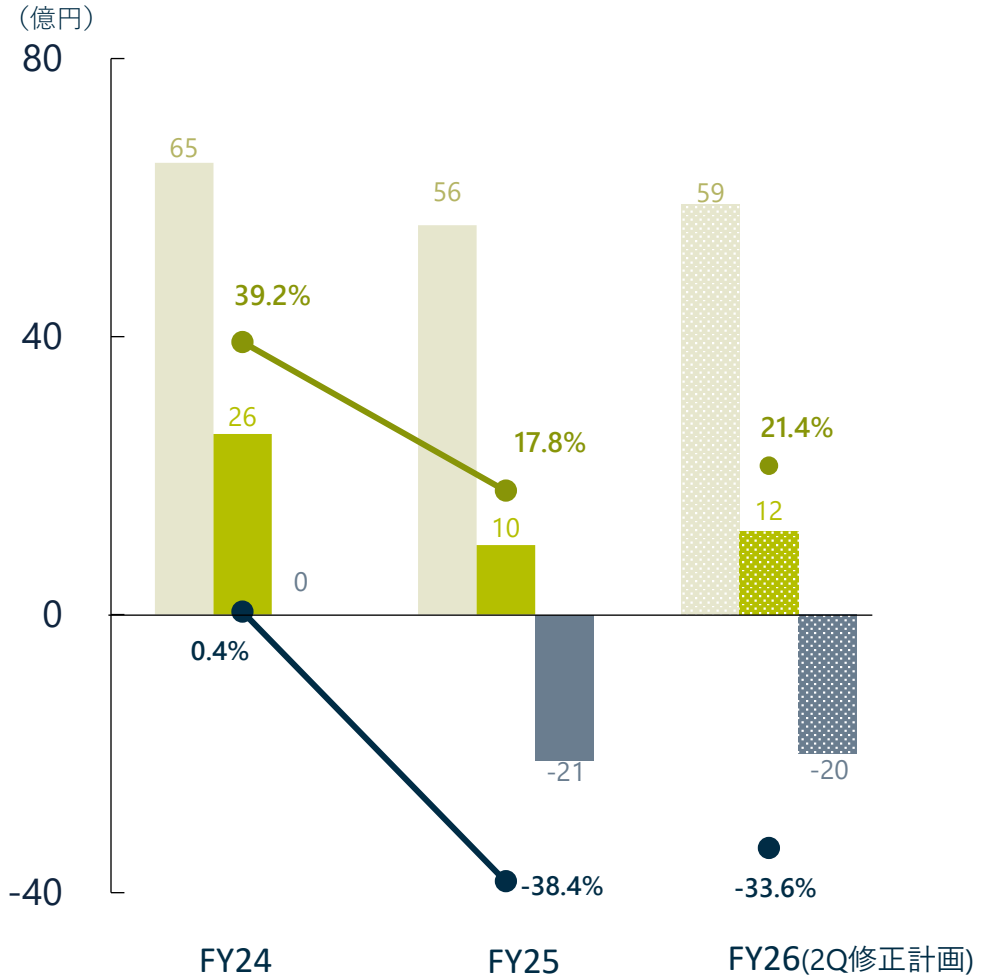
3-2-1. 売上高、売上総利益、EBITDAの推移

- FY26 2Q　発電所修繕の増加等、原価増による減益
- FY26 通期　通期計画を修正し、卒FIT案件の自社電源化と、新規案件の運転開始により、**計画達成**を見込む

第2四半期



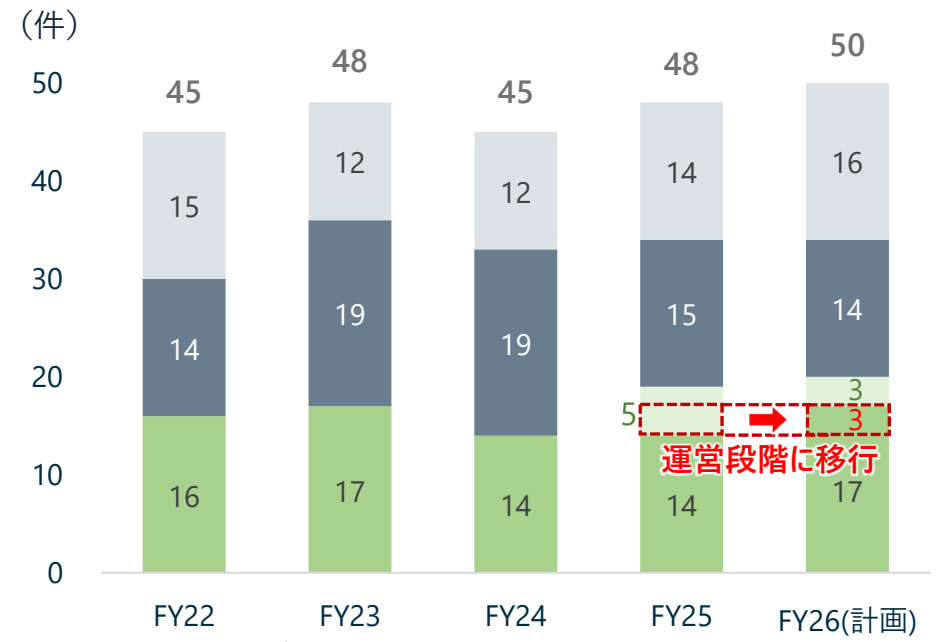
通　期



3-2-2. 運営中および開発中案件の推移

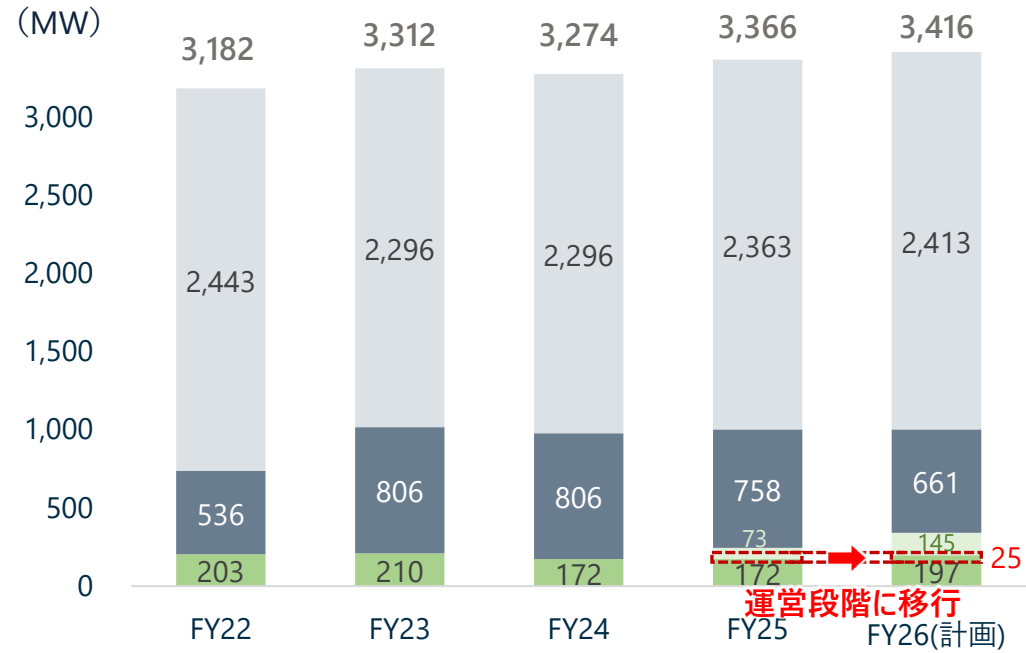
● FY26通期　3Qに3案件の新規運転開始を予定

案件数 ※



※売却可能性のある案件も含む

MW数



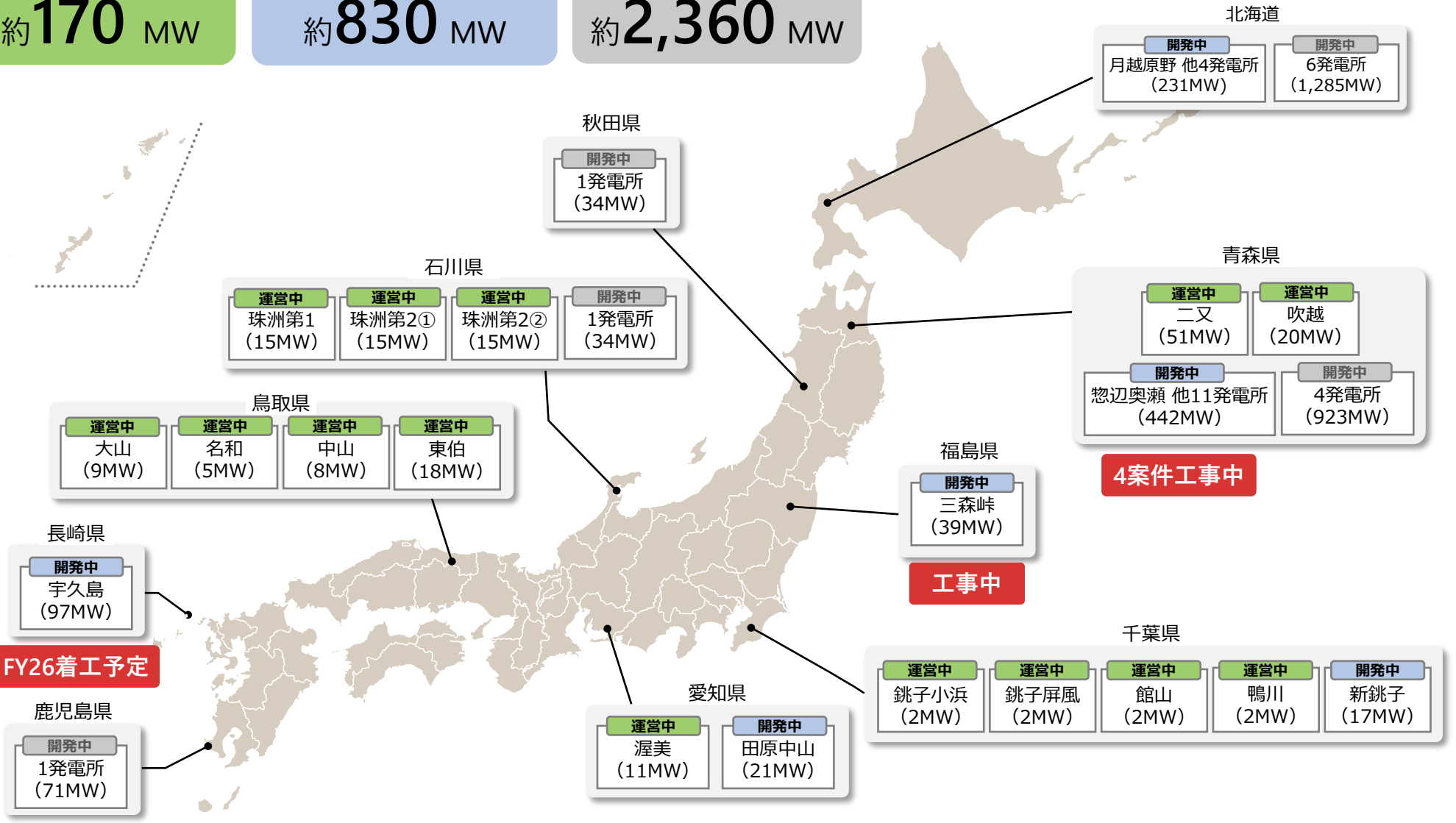
案件ステータス	FIT/FIP入札予定案件 コーポレートPPAなど、FIT/FIPに頼らない案件	FIT/FIP取得済み	着工又は建設中	運営中
風力発電所の開発プロセス	**FS調査** 風況調査 許認可調査 地元事前協議など	**開発（調査・各所協議・設計等）** 用地・許認可取得（FIT/FIP取得含） 環境アセスメント 電力会社手続き（系統連系） 工事計画届	**建設** 土木工事 風車組立工事 電気設備工事	**運営・保守** 運営 点検・保守 遠隔監視・制御

参考：日本風力開発(株)HP 風力発電までの流れ：http://www.jwd.co.jp/business/onshore/

3-2-3. 風力発電事業の取り組み状況

- 開発から運営まで、風力事業のすべてのフェーズを自社グループで対応
- 地域との共生を第一に、常に地域と対話をしながら開発を推進

運営中	開発中（FIT/FIP取得済）	開発中（入札予定・非FIT/FIP）
約170 MW	約830 MW	約2,360 MW



3-2-4. トピックス「小売電気事業開始」

卒 FIT 風力※を活用した小売電気事業を2026年4月より開始

POINT

- ✓ 風力由来電力により、LNG等のエネルギー価格変動の影響を受けにくい「完全固定料金プラン」を提供
- ✓ 単価変動がない再エネメニューにより、料金変動リスクの抑制と脱炭素経営推進の両立を実現
- ✓ 東京電力エリアより販売スタート、順次エリア拡大予定

効果	• 風力由来の再エネ電力によりCO_2排出削減を実現するとともに、契約期間中の単価固定により価格変動リスクを低減 • 風力発電所の運営・保守ノウハウを活かし、安全・安心な発電所運営を基盤とした再エネの長期有効活用を推進
実績	• 三浦下水道コンセッション株式会社に対し再エネ電力の供給を開始し、使用電力の全量再エネ化を達成するとともに、三浦市の脱炭素化推進にも貢献 • FY26のエネルギー価格高騰局面においても、燃料費・市場価格の影響を受けにくい電力供給により、社会インフラの安定運営に寄与

■風力による高効率な再エネ活用

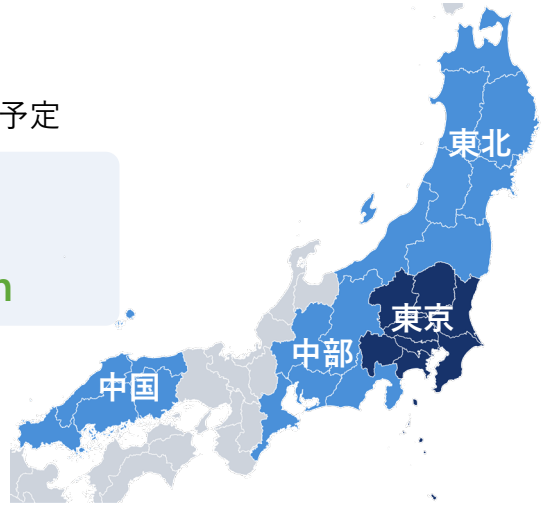
- 昼夜を通じて発電する風力の特性により、電力使用との時間的な整合性（アワリーマッチング）を高め、再エネ利用の実効性を向上
- 特に24時間稼働するインフラ・産業において、従来の太陽光中心の再エネ調達と比べ、CO2削減効果の実質的な向上に寄与



■順次エリア拡大予定

2027年4月より、
中部・東北・中国エリアへ拡大予定

2030年度に向けた
供給ポテンシャル
約2.2億kWh

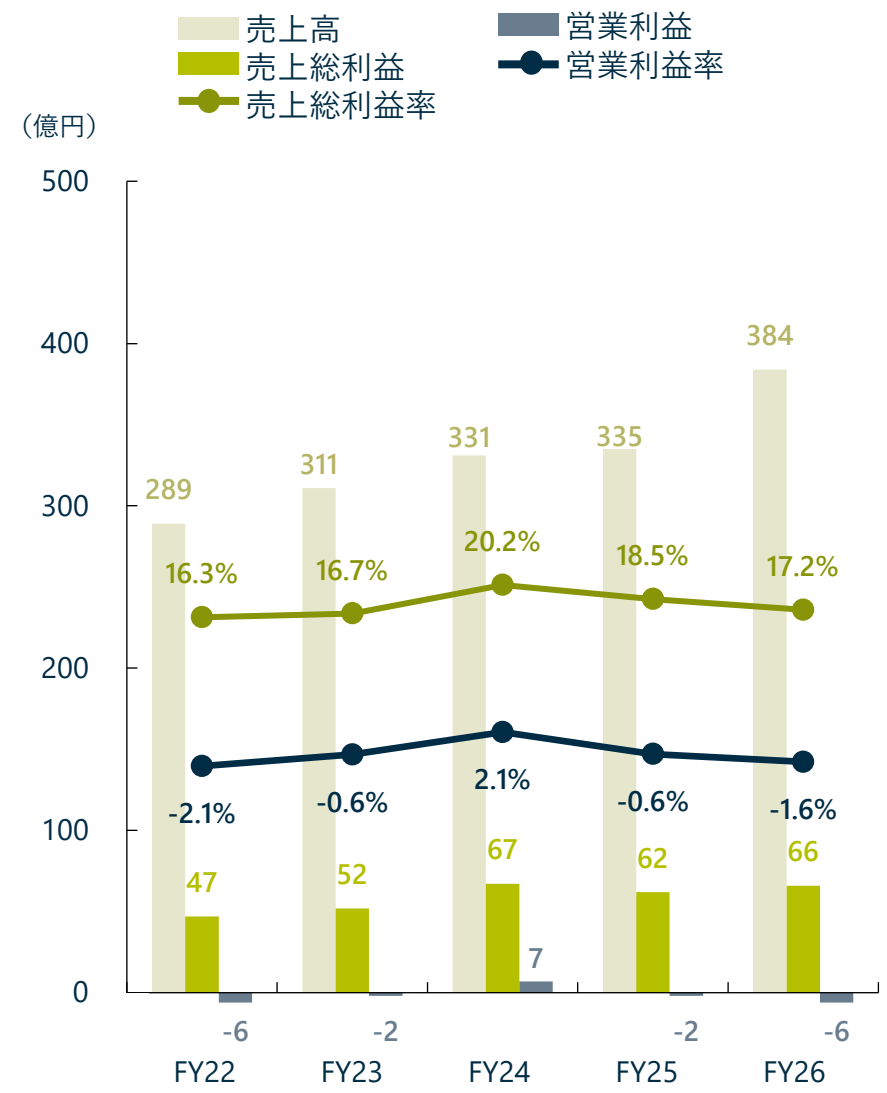


※ 再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）による買取期間が満了した風力発電

3-3-1. 売上高、売上総利益、営業利益の推移

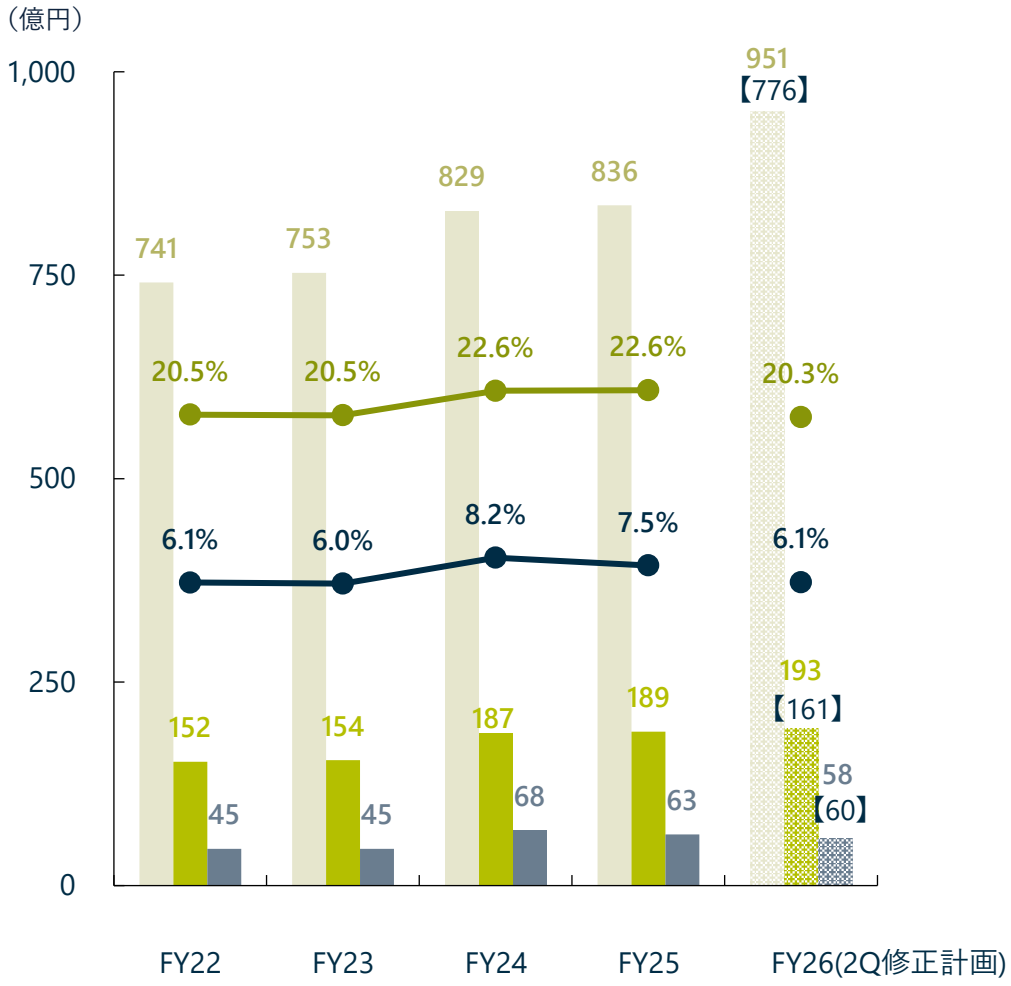
- FY26 2Q　エンジニアリング事業（EPC及びメンテ）、アセットマネジメント事業（オペレーション及び薬品）の売上高が順調に推移
- FY26 通期　既受注EPC大型案件の進捗とオペレーション案件の拡大により**通期計画達成**を見込む

第2四半期



通　期

※FY26 2Q分よりインフロニア連結
※2Q-4Q分は【】で表記



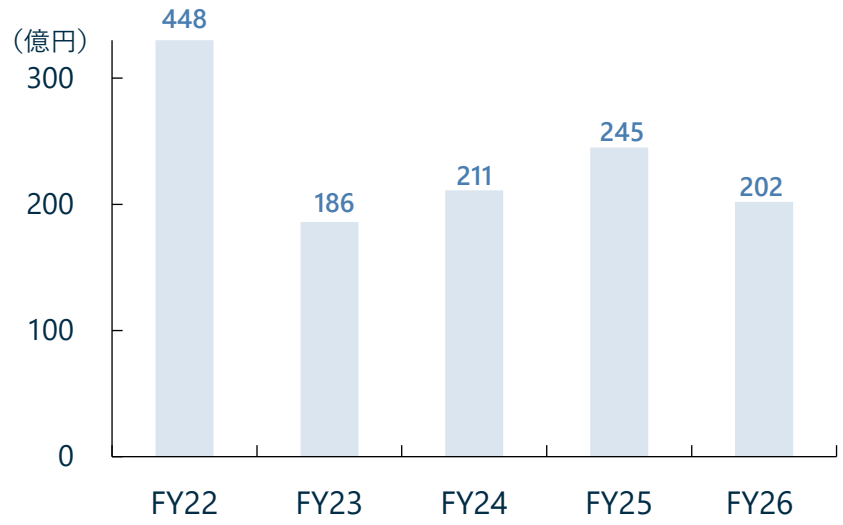
3-3-2.【エンジニアリング事業※1】受注高、売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　受注高は前年同期を下回るも、既受注の大型EPC案件の進捗により前年同期比**増収増益**
- FY26 通期　大型EPC案件の発注時期後ろ倒し等により、受注高は前年を下回る見通し。前年までの好採算EPC案件の売上計上反動等により利益率は低下したものの、既受注大型EPC案件の進捗・竣工とメンテナンス案件の増加により**増収増益**を見込む

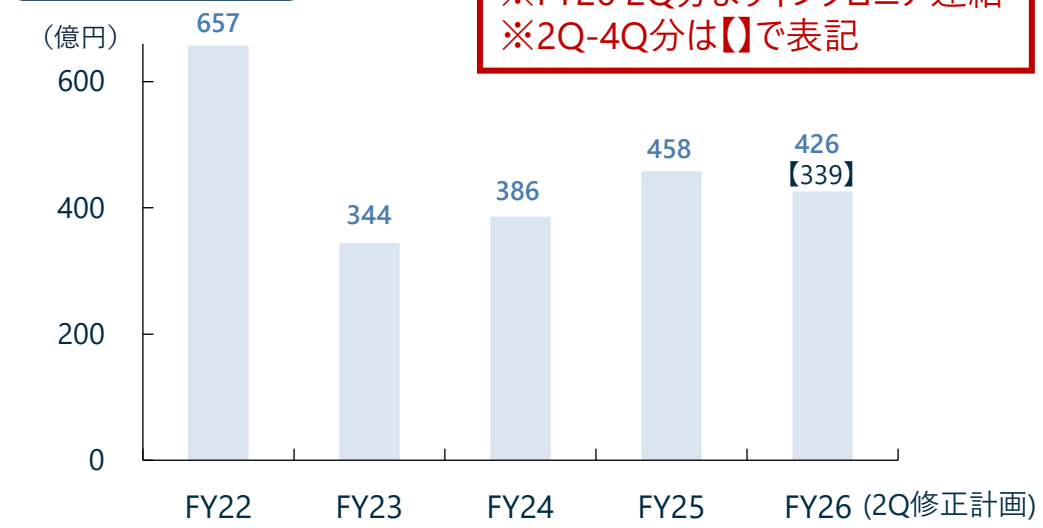
※FY26 2Q分よりインフロニア連結
※2Q-4Q分は【】で表記

受注高

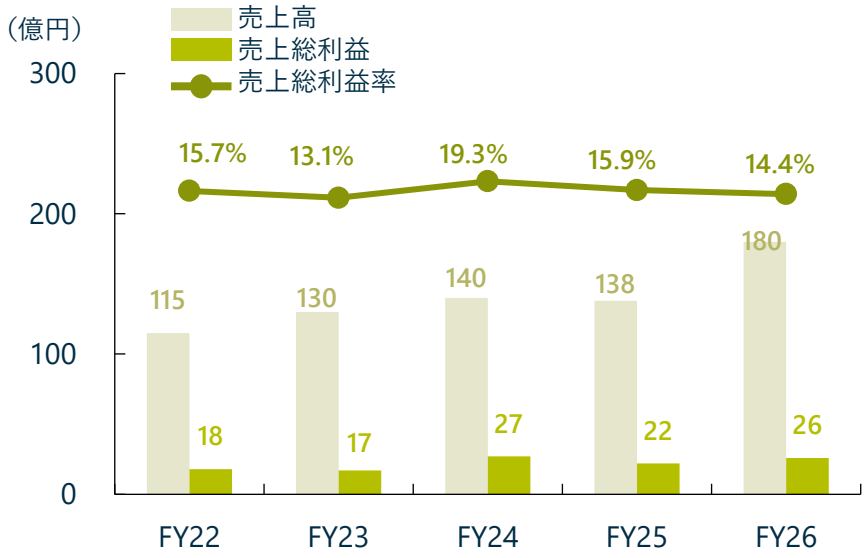
第2四半期

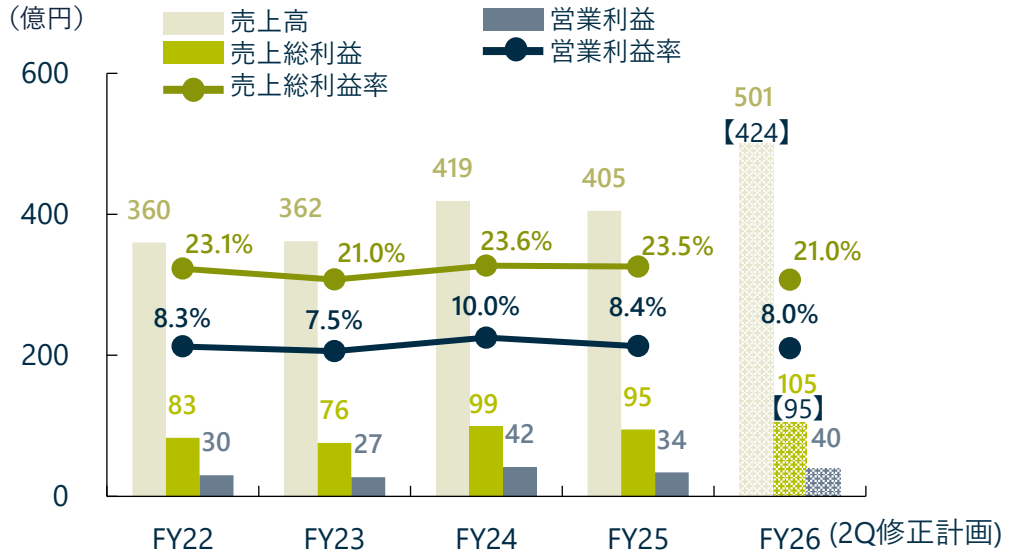


通　期



売上高・売上総利益・営業利益





※1 EPC、メンテナンスを主体とした事業

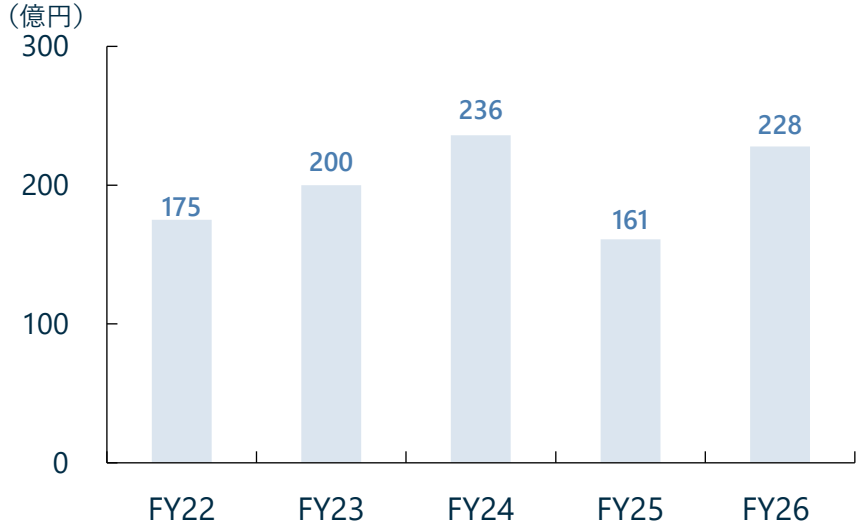
3-3-3.【アセットマネジメント事業※1】受注高、売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　オペレーションおよび薬品の受注高・売上高は堅調に推移
- FY26 通期　複数年契約の更新増加により、受注高は前年を大幅に上回る見込み。人材確保・処遇改善に伴う人件費上昇により利益率は低下するが、既存案件の業務範囲拡大により増収

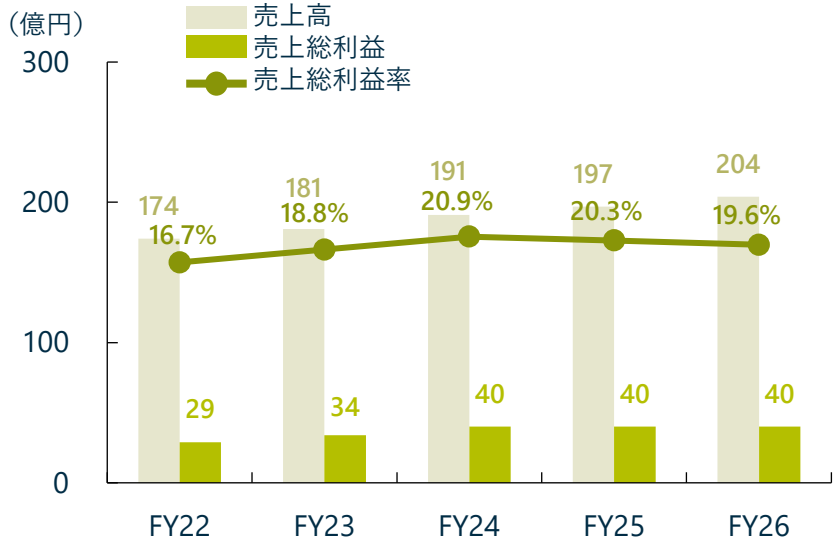
※FY26 2Q分よりインフロニア連結
※2Q-4Q分は【】で表記

第2四半期

受注高

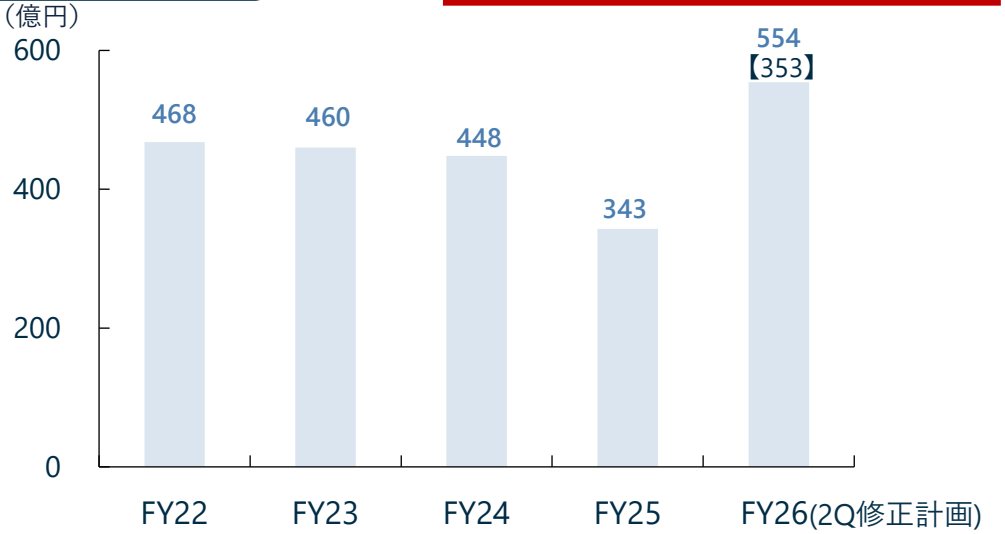


売上高・売上総利益・営業利益

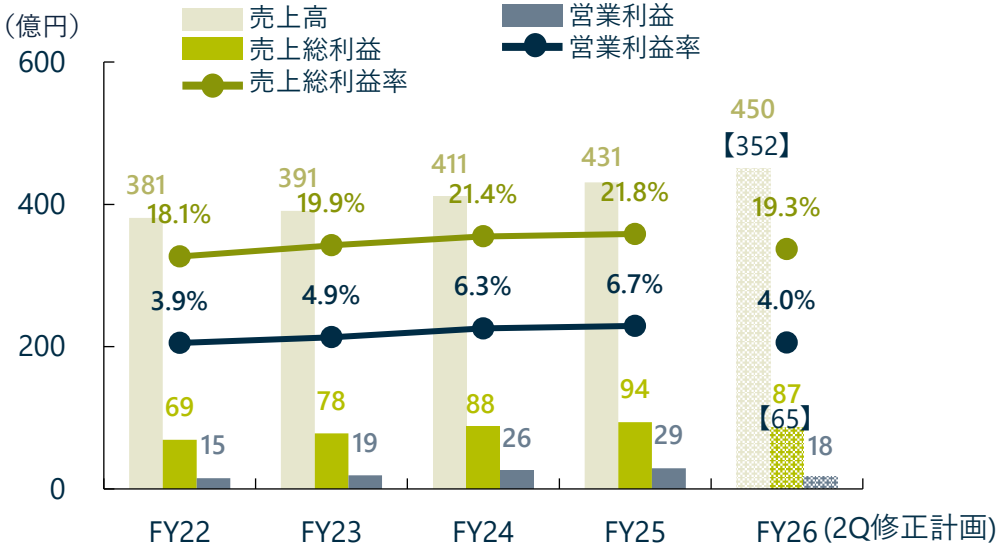


通　期

受注高



売上高・売上総利益・営業利益



※1 オペレーション、薬品を主体とした事業

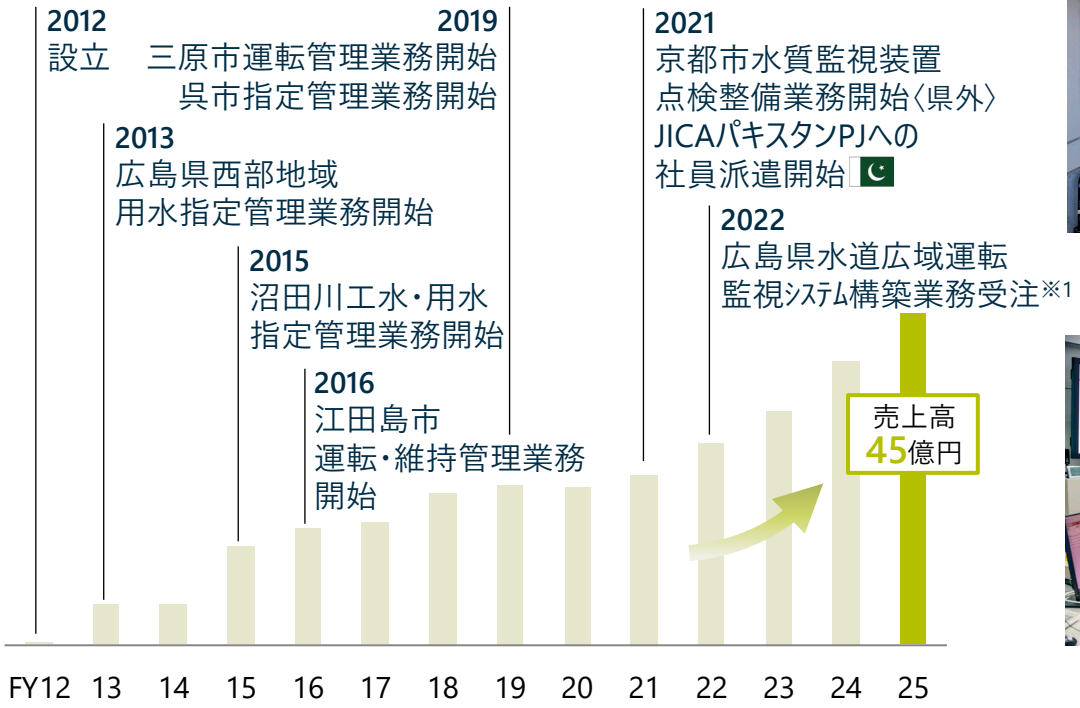
3-3-4. トピックス「水みらい広島 設立15周年」

日本初の民間主導で設立された公民連携水道事業会社「水みらい広島」は9月で設立15周年

POINT

広島県水道広域連合企業団からの指定管理業務にとどまらず、県内市町の水道施設の維持管理、県外・海外業務、監視システム構築等の新規事業を積極的に行い、FY25 売上高は45億円を達成

社名	株式会社水みらい広島
創立	2012年9月21日
資本金	6,000万円（水ing 65% 広島県 35%）
事業内容	・浄水場等の施設管理 ・配水池点検・清掃 ・メンテナンス　・コンサルティング ・上下水道施設に関するシステム開発（DX）





水みらい広島が指定管理者となっている坊士浄水場（尾道市）





※1 株式会社日立製作所と受注

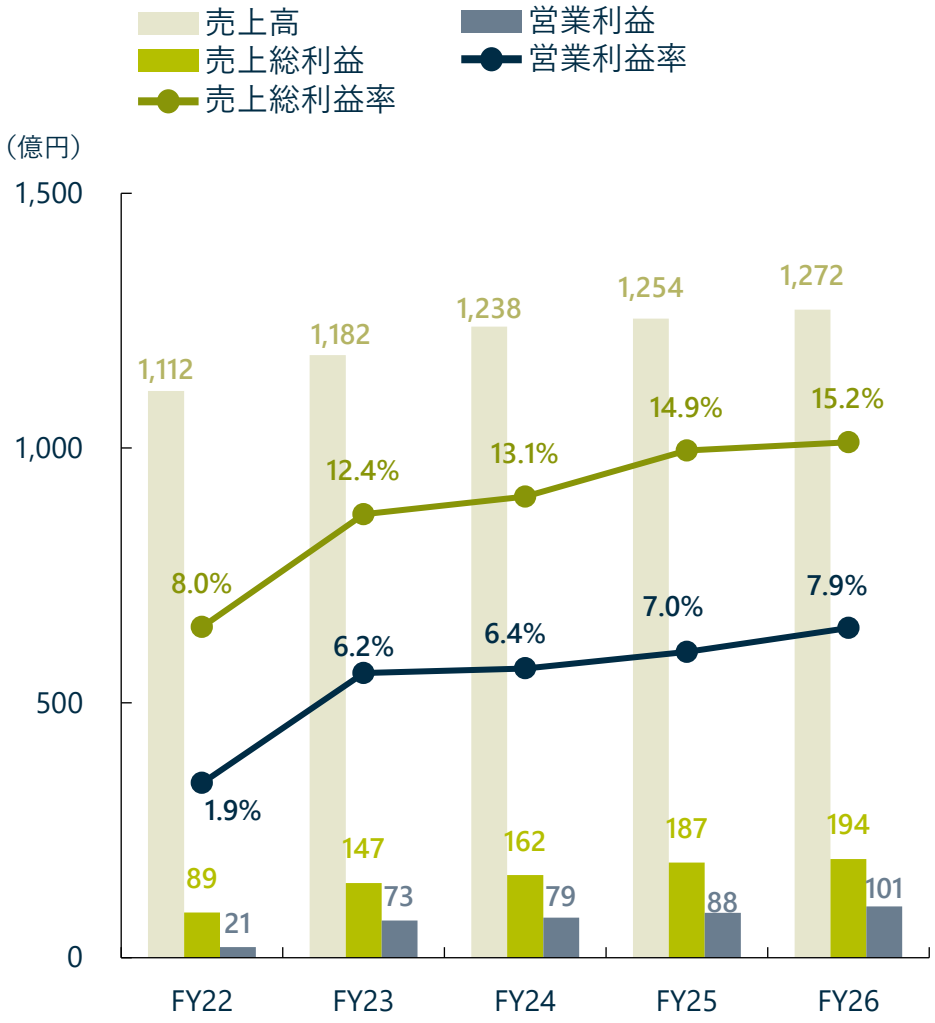
セグメント別ハイライト

※各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は考慮していません

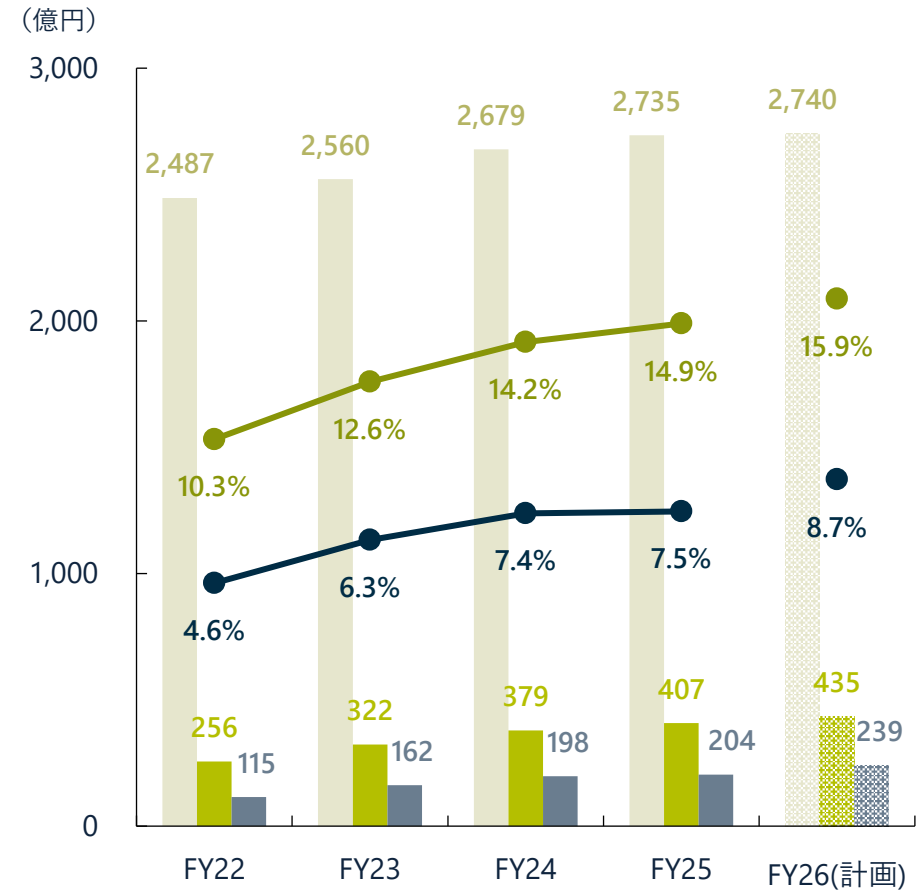
4-1. 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　受注時利益率の向上や、ストレートアスファルト価格の上昇を加味した価格転嫁により、前年同期比**増収増益**
- FY26 通期　受注時利益率の確保と、仕入価格の変動に応じた適切な販売単価を維持することで、**通期計画の達成**を見込む

第2四半期



通　期

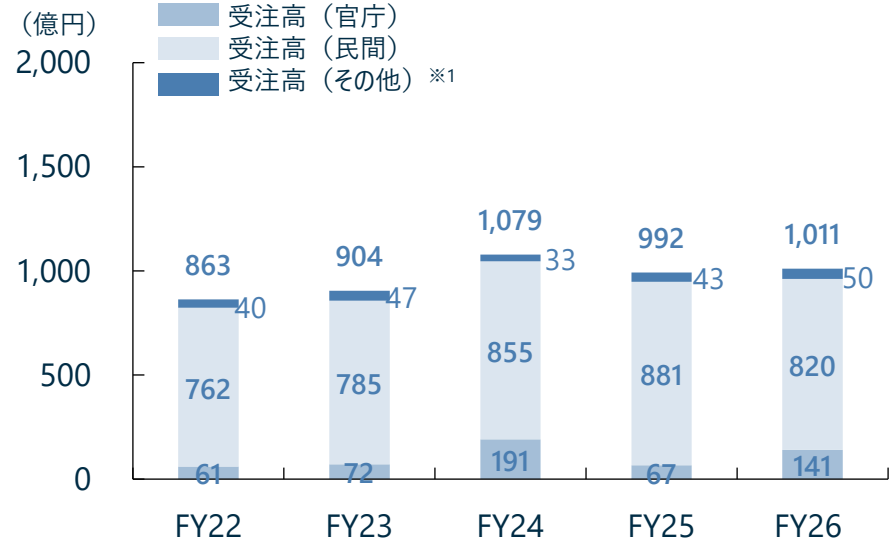


4-2.【建設事業】受注高、売上高、売上総利益、営業利益の推移

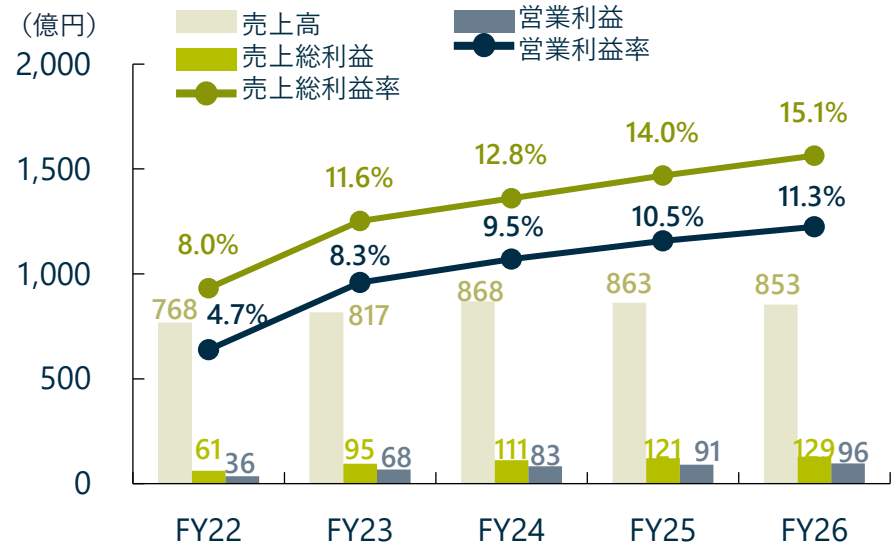
- FY26 2Q　天候不順の影響により売上高は微減するも、受注時利益率の向上により、前年同期比**増益**
- FY26 通期　豊富な繰越工事を着実に消化することで、**通期計画の達成**を見込む

第2四半期

受注高

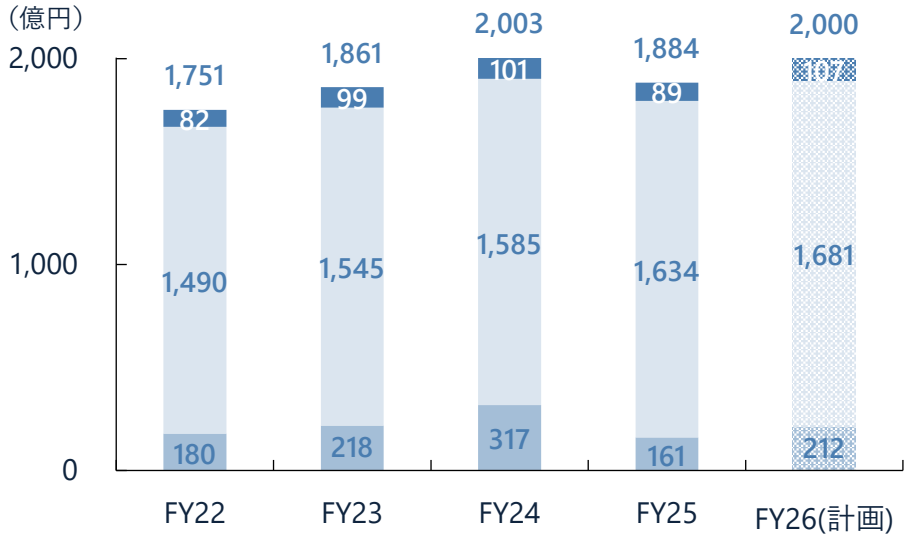


売上高・売上総利益・営業利益

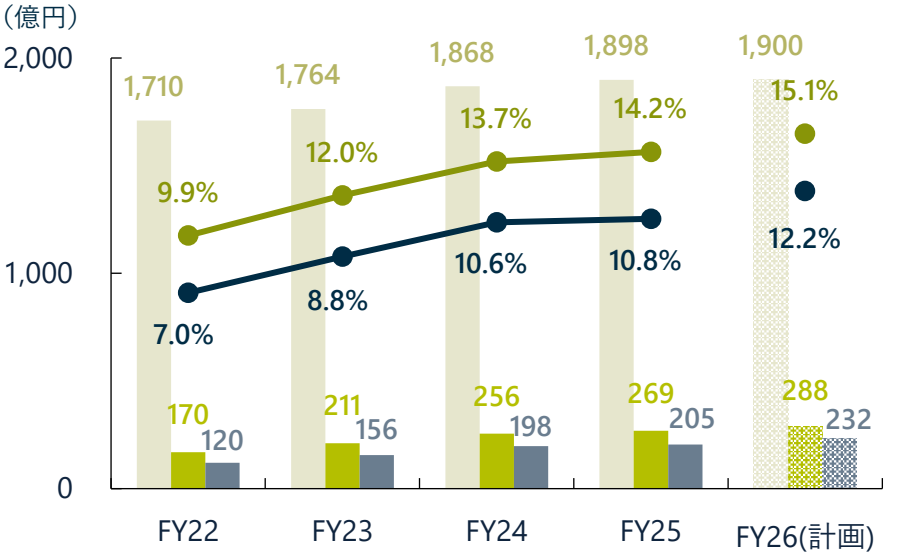


通　期

受注高



売上高・売上総利益・営業利益

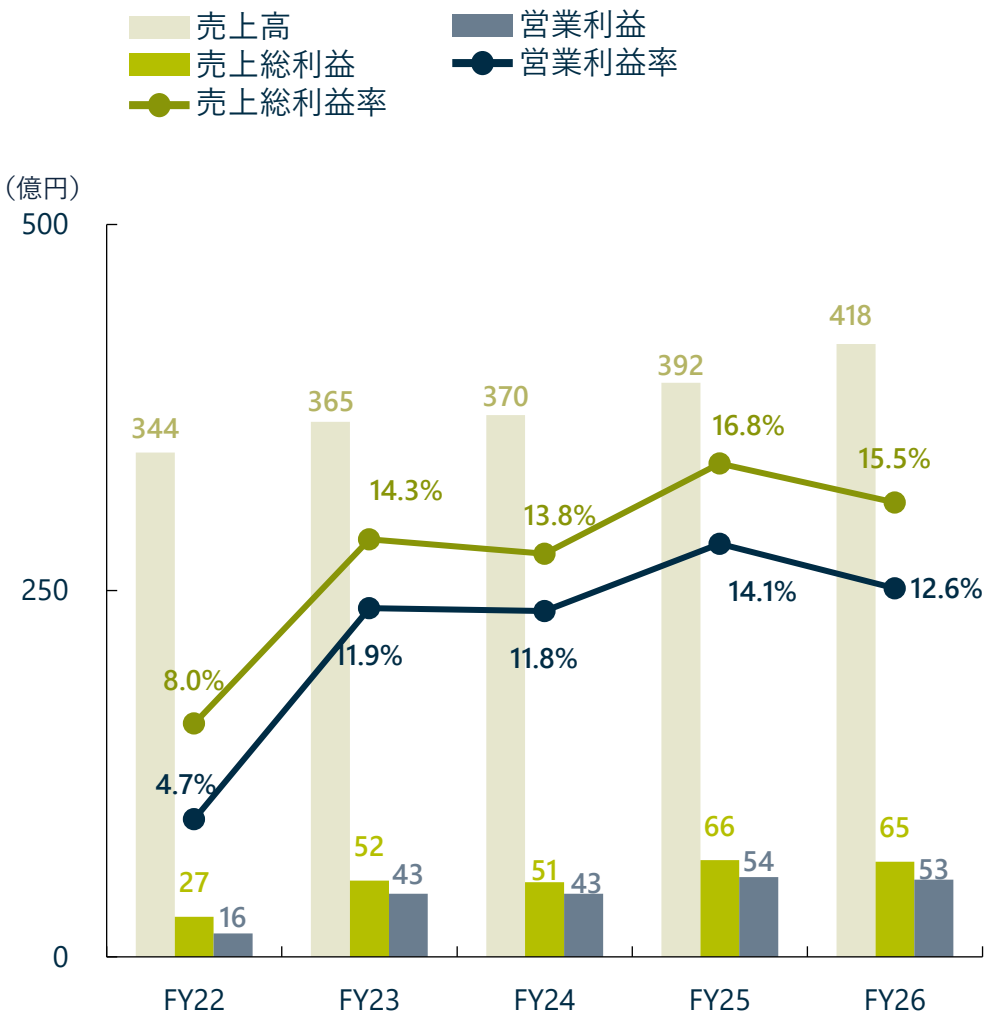


※1 その他：関連会社の受注高（主に官庁工事）及びセグメント内取引消去高

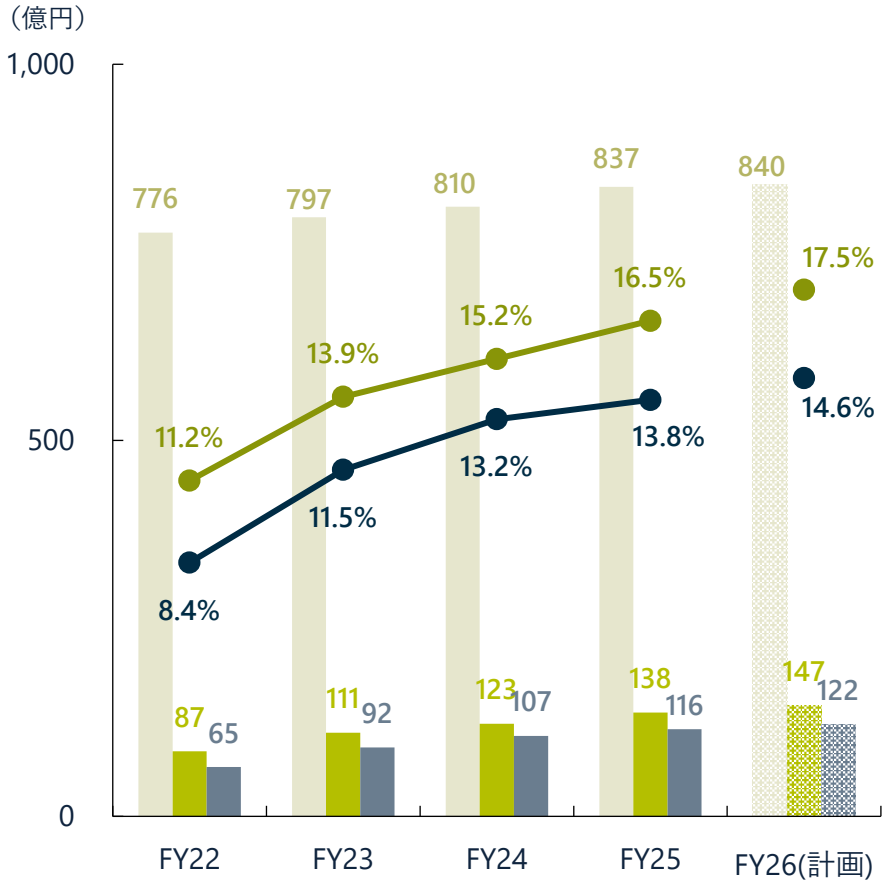
4-3.【製造販売事業】売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　4月より実施した価格転嫁により前年同期比**増収**。利益は天候不順の影響を受けるも、前年並みの水準を確保
- FY26 通期　ストレートアスファルト価格の上昇に対し、タイムリーな価格転嫁を実施することで、**通期計画の達成**を見込む

第2四半期



通　期



4-4. トピックス「第37回出雲駅伝・冠協賛企業」として協力

- ✓ 前田道路は「第38回出雲駅伝」に続き、本年より新たに「富士山女子駅伝2026」にも冠協賛を拡大
- ✓ 全国ネットの生中継を通じた認知度向上と採用力強化に寄与
- ✓ 今後もスポーツ振興や地域社会との連携を通じ、持続可能な社会づくりに貢献



↓ 出雲駅伝TVCM



大会特設サイトを開設し、現地特設ブースにおけるオリジナルノベルティを配布

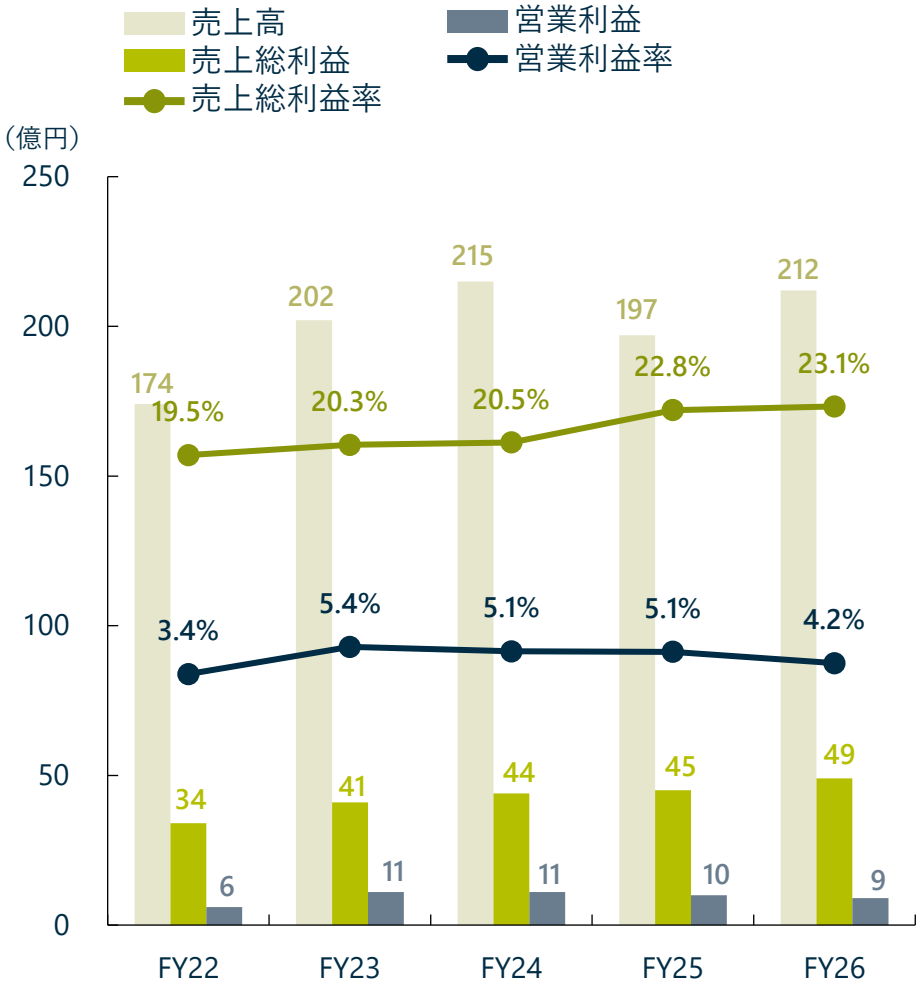
セグメント別ハイライト

※各事業会社の連結数値であり、INFグループ内の連結消去は考慮していません

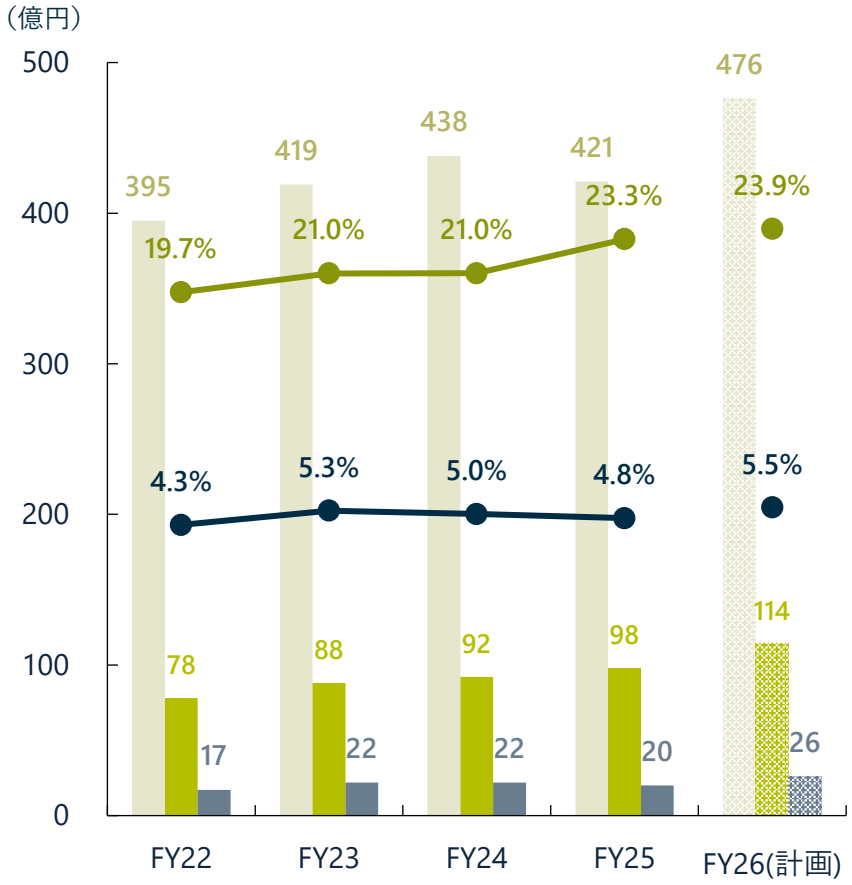
5-1. 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY26 2Q　三重4拠点の事業承継効果を取り込み堅調に推移。利益は前年並みの水準を確保
- FY26通期　三重地区の事業承継による通期寄与に加え、冬期整備・レンタル需要の獲得や、国内広域レンタル会社を中心とした自社製品の受注拡大を進め、**通期計画の達成**を見込む

第2四半期

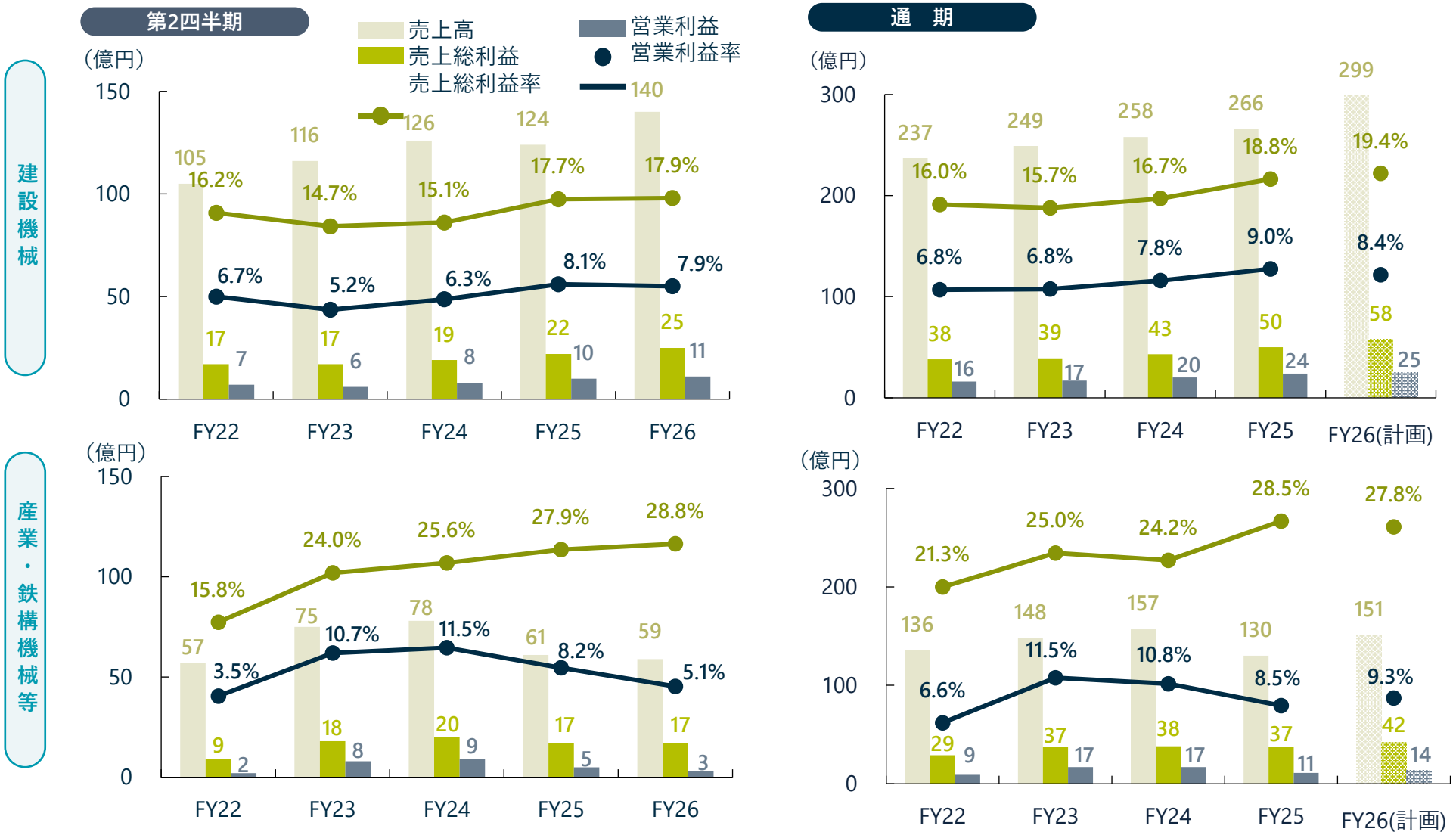


通　期



5-2.【建設機械※1、産業・鉄構機械等※2】売上高、売上総利益、営業利益の推移※3

- FY26 2Q　建設機械においては三重地区の事業承継効果を取り込み前年同期比**増収増益**。産業・鉄構機械等においては自社製品の受注減少により減収となる一方、高採算セグメントの構成比増加により、売上総利益率は改善
- FY26 通期　三重地区の事業承継による通期寄与に加え、冬期整備・レンタル需要の獲得や、国内広域レンタル会社を中心とした自社製品の受注拡大を進め、通期計画の達成を見込む



※1 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業　※2 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業　※3 機械セグメントの内、主要事業である建設機械事業、産業・鉄構機械等事業の数値
※ セグメント毎の営業利益算出時に本支店の一般管理費は控除していない

5-3.トピックス　「地域社会・自然環境への貢献」

✓ 地域社会との連携を深め、地域貢献や自然環境の保全に継続的に取り組む

主な取り組み事例

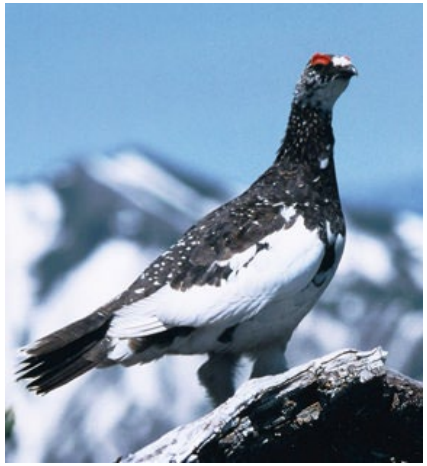
生物多様性保全に向けた取り組み

長野県との「生物多様性保全パートナーシップ協定」の締結

背景・目的　：自然環境・生物多様性保全への貢献
主な取り組み：寄付によるライチョウ保護対策への支援、自然環境保全活動への従業員参加、
　　生物多様性保全に関する普及啓発
協定期間　：2026年6月1日～2028年5月31日



生物多様性保全パートナーシップ協定締結式



ライチョウ

写真出典：ライチョウ | 自然環境・生物多様性 | 環境省

FY26 2Q実績とFY26通期計画

1. 前田建設【連結】 FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

		FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年 同期比	FY26 通期計画(2Q修正)		2Q 進捗率
売上高		**2,681**		**2,921**		**240**	**6,124**		**47.7%**
建築	計	1,776		1,838		62	3,898		47.1%
	国内	1,693		1,732		39	-		-
	海外	42		25		△17	-		-
	インフラ(EPC)	41		81		40	-		-
土木	計	737		894		157	1,925		46.4%
	国内	727		880		153	-		-
	海外	0		8		8	-		-
	インフラ(EPC)	10		6		△4	-		-
インフラ運営		156		178		22	281		63.3%
その他		12		11		△1	20		56.5%
売上総利益		**370**	**(13.8%)**	**483**	**(16.5%)**	**113**	**933**	**(15.2%)**	**51.8%**
建築	計	198	(11.1%)	264	(14.4%)	66	519	(13.3%)	50.8%
	国内	191	(11.2%)	250	(14.4%)	59	-	(-)	-
	海外	3	(7.1%)	2	(8.9%)	△1	-	(-)	-
	インフラ(EPC)	4	(11.0%)	12	(15.1%)	8	-		-
土木	計	143	(19.4%)	210	(23.5%)	67	383	(19.9%)	54.7%
	国内	142	(19.4%)	201	(22.8%)	59	-	(-)	-
	海外	0	(-)	8	(96.7%)	8	-	(-)	-
	インフラ(EPC)	1	(8.8%)	1	(11.1%)	0	-		-
インフラ運営		27	(17.1%)	9	(5.3%)	△18	29	(10.3%)	32.4%
その他		3	(21.5%)	0	(3.6%)	△3	2	(10.0%)	20.4%
一般管理費		**198**	**(7.4%)**	**211**	**(7.2%)**	**13**	**435**	**(7.1%)**	**48.5%**
営業利益		**172**	**(6.4%)**	**273**	**(9.3%)**	**101**	**498**	**(8.1%)**	**54.7%**
経常利益		**170**	**(6.3%)**	**285**	**(9.8%)**	**115**	**508**	**(8.3%)**	**56.1%**
当期純利益		**176**	**(6.6%)**	**210**	**(7.2%)**	**34**	**391**	**(6.4%)**	**53.6%**

2. 前田道路【連結】 FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

	FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	FY26 通期計画		2Q 進捗率
売上高	**1,254**		**1,272**		**18**	**2,740**		**46.4%**
建設事業	863		853		△10	1,900		44.9%
製造販売	392		418		26	840		49.8%
売上総利益	**187**	**(14.9%)**	**194**	**(15.2%)**	**7**	**435**	**(15.9%)**	**44.6%**
建設事業	121	(14.0%)	129	(15.1%)	8	288	(15.1%)	44.8%
製造販売	66	(16.8%)	65	(15.5%)	△1	147	(17.5%)	44.1%
一般管理費	**99**	**(7.9%)**	**93**	**(7.3%)**	**△6**	**196**	**(7.1%)**	**47.4%**
営業利益	**88**	**(7.0%)**	**101**	**(7.9%)**	**13**	**239**	**(8.7%)**	**42.3%**
経常利益	**90**	**(7.2%)**	**103**	**(8.1%)**	**13**	**242**	**(8.8%)**	**42.6%**
当期純利益	**63**	**(5.0%)**	**69**	**(5.4%)**	**6**	**159**	**(5.8%)**	**43.5%**

3. 前田製作所【連結】FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

	FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	FY26 通期計画		2Q 進捗率
売上高	**197**		**212**		**15**	**476**		**44.5%**
建設機械	124		140		16	299		46.8%
産業・鉄構機械等	61		59		△2	151		39.1%
介護用品・その他	13		12		△1	26		46.2%
売上総利益	**45**	**(22.8%)**	**49**	**(23.1%)**	**4**	**114**	**(23.9%)**	**43.0%**
建設機械	22	(17.7%)	25	(17.9%)	3	58	(19.4%)	43.1%
産業・鉄構機械等	17	(27.9%)	17	(28.8%)	0	42	(27.8%)	40.5%
介護用品・その他	7	(53.8%)	7	(58.3%)	0	14	(53.8%)	50.0%
一般管理費	**36**	**(18.3%)**	**40**	**(18.9%)**	**4**	**89**	**(18.7%)**	**44.9%**
営業利益	**10**	**(5.1%)**	**9**	**(4.2%)**	**△1**	**26**	**(5.5%)**	**34.6%**
経常利益	**11**	**(5.6%)**	**9**	**(4.2%)**	**△2**	**26**	**(5.5%)**	**34.6%**
当期純利益	**7**	**(3.6%)**	**6**	**(2.8%)**	**△1**	**18**	**(3.8%)**	**33.3%**

4. 日本風力開発【連結】FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

	FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	FY26 通期計画		2Q進捗率
売上高	**20**		**22**		**2**	**59**		**37.0%**
開発	8		9		1	30		29.0%
O&M	11		10		△ 1	24		42.4%
その他	1		3		2	5		58.8%
売上総利益	**2**	**(11.6%)**	**0**	**(1.3%)**	**△ 2**	**12**	**(21.4%)**	**2.4%**
開発	△ 1	(-)	△ 1	(-)	△ 1	11	(38.4%)	-
O&M	3	(23.8%)	1	(5.3%)	△ 2	△1	(-)	-
その他	1	(43.2%)	1	(38.7%)	1	2	(36.6%)	56.9%
一般管理費	**22**	**(110.2%)**	24	**(109.0%)**	2	**46**	**(78.3%)**	**51.7%**
営業利益	**△ 19**	(-)	△ 23	(-)	△ 4	**△34**	(-)	**-**
経常利益	**△ 20**	(-)	△ 23	(-)	△ 3	**△36**	(-)	**-**
当期純利益	**△ 21**	(-)	△ 17	(-)	4	**△32**	(-)	**-**

5. アルソシア建設【連結】 FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

		FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	FY26通期計画 (2Q修正)		2Q 進捗率
売上高		**1,893**		**1,887**		**△5**	**4,172**		**45.2%**
建築	計	950		928		**△22**	2,014		46.1%
	国内	722		617		△105	1,394		44.3%
	海外	228		311		**83**	620		50.1%
土木	計	812		828		16	1,879		44.1%
	国内	666		652		△14	1,419		45.9%
	海外	146		177		31	460		38.4%
鋪装		130		130		0	278		46.8%
その他		0		0		0	1		28.4%
売上総利益		**221**	**(11.7%)**	**232**	**(12.3%)**	**12**	**564**	**(13.5%)**	**41.2%**
建築	計	87	(9.2%)	109	(11.7%)	22	233	(11.6%)	46.8%
	国内	71	(9.8%)	67	(10.8%)	△2	164	(11.8%)	40.7%
	海外	16	(7.0%)	42	(13.6%)	24	69	(11.1%)	61.2%
土木	計	123	(15.1%)	110	(13.3%)	△12	299	(15.9%)	37.0%
	国内	110	(16.5%)	97	(14.8%)	△14	244	(17.2%)	39.6%
	海外	13	(8.9%)	14	(7.8%)	1	55	(12.0%)	24.9%
鋪装		11	(8.5%)	13	(9.7%)	2	31	(11.2%)	40.8%
その他		0	(95.9%)	0	(95.6%)	0	1		23.6%
一般管理費		**173**	**(9.2%)**	**184**	**(9.7%)**	**11**	**393**	**(9.4%)**	**46.8%**
営業利益		**48**	**(2.5%)**	**49**	**(2.6%)**	**1**	**171**	**(4.1%)**	**28.4%**
経常利益		**34**	**(1.8%)**	**50**	**(2.7%)**	**16**	**158**	**(3.8%)**	**31.8%**
当期純利益		**27**	**(1.4%)**	**32**	**(1.7%)**	**5**	**133**	**(3.2%)**	**23.7%**

6. 水ing【連結】FY26 2Q実績と通期計画

（億円）

	FY25 2Q実績		FY26 2Q実績		前年同期比	FY26 通期計画		2Q 進捗率
売上高	**335**		**384**		**49**	**951**		**40.4%**
エンジニアリング事業	138		180		42	501		35.9%
アセットマネジメント事業	197		204		7	450		45.3%
売上総利益	**62**	**(18.5%)**	**66**	**(17.2%)**	**4**	**193**	**(20.3%)**	**34.2%**
エンジニアリング事業	22	(15.9%)	26	(14.4%)	4	105	(21.0%)	24.8%
アセットマネジメント事業	40	(20.3%)	40	(19.6%)	0	87	(19.3%)	46.0%
一般管理費	**64**	**(19.1%)**	**72**	**(18.8%)**	**8**	**135**	**(14.2%)**	**53.3%**
営業利益	**△2**	**(-)**	**△6**	**(-)**	**△4**	**58**	**(6.1%)**	**-**
経常利益	**△0**	**(-)**	**△3**	**(-)**	**△3**	**60**	**(6.3%)**	**-**
当期純利益	**△2**	**(-)**	**△2**	**(-)**	**0**	**39**	**(4.1%)**	**-**

7-1. 主なグループ会社のFY26 2Q実績とFY26通期計画（前田建設グループ）

（百万円）

連結子会社	㈱エフビーエス ※1			フジミ工研㈱ ※1			㈱JM ※2		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	6,930	8,364	19,035	6,622	4,226	11,508	10,543	12,883	26,000
営業利益	156	88	456	497	136	254	△267	△28	250
経常利益	180	121	505	543	44	200	△256	△16	238
当期純利益	117	55	319	640	△21	196	△258	△50	162

持分法適用会社	光が丘興産㈱ ※2		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	2,193	2,438	5,630
営業利益	544	743	1,710
経常利益	1,362	3,180	5,910
当期純利益	958	2,585	4,140

※1 日本基準・各社の連結

※2 日本基準・単体

7-2. 主なグループ会社のFY26 2Q実績とFY26通期計画（アルソシア建設グループ）

（百万円）

国内連結子会社	アルソシア道路㈱ ※1			アルソシア鉄構㈱			ドーピー建設工業㈱		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	13,584	13,510	28,925	7,581	7,091	18,000	5,377	7,585	13,000
営業利益	△90	4	835	70	△172	800	△138	230	400
経常利益	△75	29	885	51	△186	700	△194	172	240
当期純利益	△87	50	545	35	△193	488	△154	112	160

海外連結子会社	ARSOCIAコンストラクションインド㈱			㈱ARSOCIAコンストラクションインドネシア			ARSOCIAシンガポール㈱		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	10,596	14,665	28,185	1,255	783	1,500	4,344	2,739	9,650
営業利益	783	2,127	2,558	58	△80	△243	136	△18	455
経常利益	910	2,418	2,616	44	△73	△279	103	△27	403
当期純利益	681	1,809	1,957	-7	△102	△310	89	△22	334

海外連結子会社	ARSOCIAフィリピンズ			Antara Koh		
	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画	FY25 2Q実績	FY26 2Q実績	FY26 通期計画
売上高	2,608	7,268	10,260	2,618	3,832	12,044
営業利益	△8	326	409	△182	△15	809
経常利益	△42	292	315	△245	△40	859
当期純利益	△43	210	156	△306	△185	691

※1 日本基準・各社の連結

【注意事項】

本資料に記載されている業績数値は、決算短信等を基にした数字を億円単位とし、四捨五入しております。このため、表示値の合計が実際の合計と一致しない場合があります。また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

INFRONEER Holdings Inc.